

自己点検・評価報告書

(令和3年度分)



目 次

序 章

学長あいさつ	1
長野県看護大学の概要	2

第1章 学事と組織

第1節 教育理念・教育目標	5
第2節 大学組織	9
第3節 学生の状況	18

第2章 年間の活動状況

第1節 学部・研究科の行事及び教授会活動	22
第2節 学部の教育活動	28
第3節 研究科の教育活動	31
第4節 看護実践国際研究センターの活動	33

第3章 教員の研修・研究、社会活動

第1節 研修	34
第2節 研究活動	42
第3節 社会・地域貢献活動	50

第4章 社会貢献

第1節 公開講座	55
第2節 分野の活動	55

第5章 学内委員会等の活動

第1節 運営委員会	57
第2節 広報・交流委員会	57
第3節 教務・実習委員会	59
第4節 入試検討委員会	62
第5節 図書委員会	65
第6節 紀要委員会	66
第7節 学生委員会	67
第8節 ネットワーク推進委員会	71
第9節 FD・SD委員会	73
第10節 評価委員会	74
第11節 倫理委員会	76
第12節 ハラスメント防止委員会	78
第13節 動物実験委員会	79
第14節 感染症対策委員会	81
第15節 コンソーシアム信州運営	84
第16節 防災委員会	85
第17節 安全衛生委員会	87

第18節	研究科委員会教務部会	88
第19節	研究科委員会入試部会	91
第6章 学生生活及び学生への支援		
第1節	学生支援活動	94
第2節	キャリア形成支援	98
第3節	保健厚生	101
第4節	修学資金等	103
第5節	サークル活動及び大学祭	105
第6節	関係団体の活動	106
第7章 施設の管理運営		
第1節	施設の状況	112
第2節	財政の状況	117
第8章 自己点検・評価総括		
		120

自己点検・評価報告書（令和3年度分）の刊行にあたって

本学は1995（平成7）年に開学し、2021（令和3）年で27年目となります。

2020年1月から始まった新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、感染者数の増減の波を繰り返しています。ワクチン接種や治療法の開発も行われておりますが、社会的な行動制限や医療非常事態宣言のもと、本学の教育活動にも大きな影響が続いております。このような社会状況のなか、令和3年度の本学の教育・研究・社会地域貢献・大学運営を振り返り、「自己点検・自己評価報告書（令和3年度分）」としてまとめることができました。

本学は、公益財団法人大学基準協会が実施する機関別認証評価（大学評価及び短期大学認証評価）を受け、平成30年度に「適合」の認定（認定期間：平成31（2019）年4月1日～令和8（2026）年3月31日）を受けております。その際、改善課題として指摘された事項について令和4年7月までに改善報告書を作成し提出することになっておりました。この自己点検・自己評価報告書（令和3年度分）の作成には、改善の取り組みも反映されております。本学は外部評価を受け、改善に取り組み、内部で自己点検・自己評価をしながら、内部質保証を推進しております。

新型コロナウイルス感染症の影響で、看護学教育を取り巻く環境も大きく変わりつつあります。With コロナが現実的になってきました。コロナ禍のこの2年間の取り組みを基に、感染症対策をしながらよりよい看護教育・研究活動・社会地域貢献に取り組めるよう大学運営を行っていかねばなりません。本報告書の刊行を機に、本学の内部質保証の取り組みは次の段階に進んでいきます。

令和4年10月25日

長野県看護大学
学長 大塚真理子

長野県看護大学の概要

1 設置の趣旨・目的

人口の少子高齢化等の社会環境の変化、医療の専門化・多様化・高度化等の対応に指導的役割を果たし得る資質の高い人材を育成するとともに、看護学の発展に寄与し、看護学の研究・研修の拠点となることを目的とする。

2 学部・学科の構成、入学定員等

構 成	修業年限	定 員	総定員	卒業（修了）時取得可能資格
看護学部看護学科	4年	入学定員 80名 編入学定員 (3年次)10名 (H28から募集停止)	340名	学士（看護学） 看護師国家試験受験資格 保健師国家試験受験資格 助産師国家試験受験資格（選択） 養護教諭二種（保健師免許取得後） 第一種衛生管理者（同上）
大学院看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程	2年	16名	32名	修士（看護学）
大学院看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	3年	4名	12名	博士（看護学）

3 施 設

- 1) 所在地 長野県駒ヶ根市赤穂1694番地
- 2) 敷地面積 75,733.00㎡
- 3) 建物延床面積 19,144.54㎡
〔建物等の面積及び主な施設・設備〕

区 分	面 積 (㎡)	主 な 施 設 ・ 設 備
管 理 棟	2,242.13	学長室 事務室 保健室 会議室 応接室 食堂 売店
教育研究棟	9,079.39	講義室 演習室 実習室 実験室 情報処理教室 研究室
図 書 館	1,200.62	閲覧室68席 キャレル12席 グループ学習室 AV ルーム
体 育 館	893.68	バスケットボール1面 バレーボール2面
屋内プール棟	1,131.64	25m6コース（内スロープコース1）健康増進研究室
講 堂	962.43	511席 AV設備 ピアノ
学 生 棟	802.21	学生ホール 自治会室 クラブ室
非常勤講師宿舎	328.00	1棟8室
学生寄宿舍	2,504.44	2棟80室
グラウンド	15,948.00	250mトラック テニスコート4面
有酸素運動研究コース	12,505.00	コース延長600m
語らいの並木		90m×2

4 沿 革

- | | | |
|-------------|-----|--|
| 昭和60(1985)年 | 5月 | ・県行政審議会答申「看護婦養成体制の質的強化を図るため、看護専門学校は、将来一校体制(看護大学等)として充実すべきである。」 |
| 平成2(1990)年 | 10月 | ・県看護婦等養成確保対策研究会報告「高度な看護教育を行なうため4年生大学を設置する必要がある。」 |
| 平成3(1991)年 | 6月 | ・看護大学設置決定 |
| | 8月 | ・県立看護大学設置準備委員会の設置 |

平成 5(1993)年	4月	・看護大学設立準備室の設置
平成 6(1994)年	12月	・看護学部看護学科設置認可

平成 7(1995)年	4月	・長野県看護大学開学(看護学部看護学科定員 80 名)
		・第1回入学式
	6月	・開学式
平成 9(1997)年	4月	・3年次編入制度(定員 10 名)開始
平成 10(1998)年	4月	・科目等履修生制度開始
	12月	・長野県看護大学大学院看護学専攻博士前期課程設置認可
平成 11(1999)年	3月	・第1回卒業式
	4月	・大学院博士前期課程(定員 16 名)開設
	11月	・屋内プール棟完成
平成 12(2000)年	12月	・長野県看護大学大学院看護学専攻博士後期課程設置認可
平成 13(2001)年	3月	・第1回大学院修了式
	4月	・大学院博士後期課程(定員 4 名)開設
	7月	・長野県看護大学とサモア国立大学との相互協力に関する協定の締結
平成 15(2003)年	2月	・大学院小児看護分野 CNS コース認定申請承認
	4月	・社会人特別選抜制度開始
	7月	・長野県看護大学と放送大学との間における単位互換に関する協定の締結
	12月	・大学院老年看護分野 CNS コースの認定申請承認
平成 16(2004)年	7月	・長野県看護大学とカリフォルニア大学サンフランシスコ校との相互協力に関する協定の締結
	11月	・創立 10 周年記念式典
平成 17(2005)年	1月	・長野県内7大学単位互換に関する協定締結
平成 18(2006)年	4月	・大学院に里山・遠隔看護学分野を開設
平成 19(2007)年	4月	・大学基準協会の大学基準に適合していると認定(平成19年4月1日～平成24年3月31日)
平成 20(2008)年	4月	・長野県組織規則に看護実践国際研究センターを位置付け
平成 22(2010)年	3月	・駒ヶ根市と災害時における協力体制に関する協定を締結
	11月	・健康センター開設
平成 23(2011)年	2月	・大学院小児看護分野の CNS コースの更新申請承認
	4月	・講座の再編
	6月	・認定看護師教育課程開講(皮膚・排泄ケア分野、感染管理分野)
平成 24(2012)年	3月	・大学院老年看護分野の CNS コースの更新申請承認
		・大学基準協会の大学基準に適合していると認定(平成24年4月1日～平成31年3月31日)
	4月	・大学院長期履修制度開始
平成 25(2013)年	6月	・認定看護師教育課程認知症看護分野開講、皮膚・排泄ケア分野休講
平成 26(2014)年	2月	・駒ヶ根市と長野県看護大学との包括的連携に関する協定締結
	3月	・大学院精神看護分野 CNS コース(38 単位)の認定申請承認
	11月	・創立 20 周年記念式典
	12月	・長野県立こころの医療センター駒ヶ根、伊那中央病院、昭和伊南総合病院、飯田市立病院と看護連携型ユニフィケーション事業基本協定締結
平成 28(2016)年	4月	・3年次編入生募集停止
平成 29(2017)年	4月	・認定看護師教育課程感染管理分野休講
		・伊那神経科病院と看護連携型ユニフィケーション事業基本協定締結
平成 30(2018)年	3月	・大学院小児看護分野の CNS コース(38 単位)の認定申請承認
		・大学院老年看護分野の CNS コース(38 単位)の認定申請承認
	9月	・長野県看護大学と中国揚州大学との相互協力に関する協定の締結
		・長野県看護大学とサモア国立大学との相互協力に関する覚書の締結
平成 31(2019)年	3月	・大学基準協会の大学基準に適合していると認定(平成31年4月1日～平成38年3月31日)
令和 2(2020)年	3月	・認定看護師教育課程認知症看護分野閉講に伴う同教育課程閉講

令和 2(2020)年	4月	・新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発令に伴い、5月15日まで休校
令和 2(2020)年	6月	・令和3(2021)年度入学者選抜の実施方法を改正 一般選抜の分離分割方式は前期日程と公立大学中期日程を採用 学校推薦型選抜A(県内高校推薦)に地域特別枠を設定 学校推薦型選抜B(県外を含む高校推薦)を新設
令和 2(2020)年度	通年	・新型コロナウイルス感染症に関する学内活動の指針(行動基準)等を策定し、感染警戒レベルに応じた対応を実施 授業(実習を含む)は原則オンライン方式で実施 入学式、卒業式・修了式は規模を縮小して実施 オープンキャンパス、学園祭は中止
令和 3(2021)年	12月	・B課程認定看護師教育機関(感染管理分野)認定申請承認
令和 4(2022)年	2月	・特定行為研修指定研修機関(薬剤投与関連2区分)指定申請承認(厚生労働省)
令和 4(2022)年	2月	・大学院がん看護分野の CNS コース(38 単位)の認定申請承認
令和 3(2021)年度	通年	・新型コロナウイルス感染症に関する学内活動の指針(行動基準)等に基づき、感染警戒レベルに応じた対応を実施 授業(実習を含む)は原則対面・オンライン併用のハイブリッド方式で実施 入学式、卒業式・修了式は規模を縮小して実施 オープンキャンパス、学園祭は中止

第1章 学事と組織

第1節 教育理念・教育目標

1 教育理念

本学は、1995年に長野県立では初めて設立された4年制の看護の単科大学であり、学年進行に沿って、大学院博士前期課程、博士後期課程を開設してきた。それらの時期、および2006年の学部新カリキュラム導入時には、教育理念および教育目標の見直しを行った。

また、大学基準協会の2018（平成30）年度大学評価（認証評価）結果における提言（改善課題）に対して改善に取り組み、2021（令和3）年度に学部・大学院のディプロマポリシー（学位授与に関する方針）およびカリキュラムポリシー（教育課程の編成、実施方針）の見直しを行った。

教育理念の見直しは、これまでの学生個々人の資質を向上させることに加えて、看護職者としての基本である人間理解、特に人間の生のありようを理解すること（「さまざまな生を営む人間を深く理解し」）を盛り込んでおり、その教育理念は学部・研究科とも共通である。

○本学の教育理念

学生個々人のもつ可能性が最大限に開花することを目指し、自立性、主体性を育むとともに、さまざまな生を営む人間を深く理解し、人々への配慮が自然にできる豊かな人間性と幅広い視野を養う。

これらを基盤として、看護実践に関する総合的な能力を養成し、看護の社会的機能を担い人々の健康福祉の向上に貢献する人材を育成する。さらに、看護の発展に寄与する実践者、教育者及び研究者を育成する。

2 学部のディプロマポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、次にあげる能力を有すると認められる者に、学士（看護学）の学位を授与します。

1. 専門職として研鑽しつづける能力（自己研鑽能力）
 - （1）豊かな感受性を培い、創造力と洞察力を発揮できる
 - （2）看護専門職としての社会的役割を見出し、その達成に向けて学び続けることができる
2. 課題解決に向けて主体的に学修する能力（主体的学修能力）
 - （1）課題解決にむけて創造的、論理的に思考できる
 - （2）自らの学修をふりかえり、新たな課題を見出すことができる
 - （3）医療や看護の課題に問題意識を持ち、自発的に学修することができる
3. 生命の尊厳を理解する倫理的感受性に基づく判断能力（倫理的判断能力）
 - （1）命の尊さに触れ、人間の尊厳について理解を深めることができる
 - （2）看護の対象となる人々の権利を尊重し、人々の立場に立って判断することができる
4. 科学的根拠に基づき人々に最適な看護を実践する能力（看護実践能力）
 - （1）看護の対象となる人を身体的、精神的、社会文化的側面から全人的に理解できる
 - （2）対象となる人々と協働的な関係を築くことができる
 - （3）あらゆる健康段階にある人々の生活および生き方を支える看護を実践できる
 - （4）科学的な根拠に基づく臨床判断により、看護問題を解決することができる
5. 多様な専門職と協働する能力（多職種協働）
 - （1）専門職者としての役割を理解し、リーダーシップ、メンバーシップを発揮できる
 - （2）患者・家族の目標や成長およびチームの目標や成長を目指して、多様な専門職と協

働することができる

6. 地域に暮らす人々と協働し、課題解決に取り組む能力（地域の人々との協働）
 - (1) 社会状況の変化に応じて、地域のケアシステムにおける看護の役割を理解することができる
 - (2) 地域に暮らす人々と協働し、地域の課題解決に向けた看護実践ができる
7. グローバルな視点を持ち、健康課題の解決に向けて持続可能な取り組みを行う能力（国際的視点での思考能力）
 - (1) 国際社会におけるさまざまな文化や社会の中で生活する人々を理解し、多様な価値観を尊重することができる
 - (2) 多角的な視点で、多様な場を理解し、看護の課題を見出すことができる
 - (3) 国際社会における健康問題と世界的戦略を理解し、長期的視点で看護の役割を見出すことができる

3 学部のカリキュラムポリシー（教育課程の編成、実施方針）

ディプロマポリシーの7つの能力を養うために以下の示す方針に基づき、「人間理解の基礎科目」「看護専門科目」を編成し、学年進行とともに段階的に修得するカリキュラムを編成します。また、学修成果を適切に評価します。

1. 倫理的判断能力と主体的学修能力を養うために必要な科目を全学年にわたり「人間理解の基礎科目」「看護専門科目」の中に配置する。
2. 看護師・保健師・助産師としての看護実践能力、多職種と協働する能力、地域の人々と協働する能力を系統的に修得するため、「看護専門科目」に（1）人と健康、（2）看護の基本、（3）看護の実践、（4）看護の実践と統合の4つの科目群を配置する。
3. 専門職として自己研鑽する基本能力の育成を目指し、自己の知識、技術、態度を客観的に評価し他者からの評価を受け止め、自己研鑽する態度を身に着けるために能動的な学修を促進する。
4. 国際的視点をもって思考できる看護職者となるために必要な科目を全学年にわたり配置する。
5. 学修の評価は、授業のシラバスに明示された学修目標に基づく試験、レポート、実習評価等を含め総合的に評価する。加えて、学生からの意見および授業評価、学生の学修状況を活用して教育方法の改善につなげる。

カリキュラムの構成

斜字：選択必修科目及び選択科目

分類	科目群	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年	
		前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期
人間理解の基礎科目	生命を維持する仕組みと機能	生物学 化学 運動実技・理論Ⅰ 人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 情報処理科学	生化学 薬理学 人体の構造と機能演習 <i>生命科学演習</i>		運動実技・理論Ⅱ	運動理論			
	人と人を取り巻く環境	統計学 英文読解の基礎 英会話の基礎 教育学 社会学 信州学 教の話と教養教学 独語 コミュニケーション論 心理学	倫理学 医療英文読解演習Ⅰ 医療英会話の基礎Ⅰ 家族社会学 人間発達論 人間関係論 教育心理学 独語	医療英文読解演習Ⅱ 医療英会話の基礎Ⅱ 哲学 文化人類学 経済学 人間工学 臨床心理学	法学 生命倫理	保健統計学 英会話演習 英語文化研究 論理学 医療経済学 医事法学	芸術と人間		仏語
看護専門科目	人と健康	保健・医療・福祉システム看護論Ⅰ	病理学 病理学演習 保健・医療・福祉システム看護論Ⅱ 公衆衛生学	疾病学Ⅰ 疾病学Ⅱ 感染学 疫学	感染学演習	看護栄養学	遺伝と人間		
	看護の基本	看護学概論 基礎看護方法Ⅰ 基礎看護実習Ⅰ	フィジカルアセスメント 基礎看護方法Ⅱ	看護過程の理論と展開	基礎看護実習Ⅱ	症状マネジメント論	看護倫理		
	看護の実践			慢性期看護概論 老年看護概論 精神看護概論Ⅰ 母性看護概論 小児看護概論Ⅰ 地域看護概論 在宅ケア論	慢性期看護方法 急性期看護概論 老年看護方法Ⅰ 精神看護概論Ⅱ 母性看護方法Ⅰ 小児看護概論Ⅱ 小児看護方法Ⅰ 地域看護方法Ⅰ 在宅ケア方法Ⅰ 家族援助論 多文化共生看護学	急性期看護方法 老年看護方法Ⅱ 精神看護方法 母性看護方法Ⅱ 小児看護方法Ⅱ 地域看護方法Ⅱ 在宅ケア方法Ⅱ 災害看護論 保健・医療・福祉システム看護論Ⅲ 助産概論 国際看護学Ⅰ 国際看護学Ⅱ	成人看護実習 老年看護実習 精神看護実習 母性看護実習 小児看護実習 地域看護実習 在宅看護実習 地域母子保健 助産方法Ⅰ 助産方法Ⅲ 国際看護実習	助産方法Ⅱ	助産実習
	看護の実践と統合						看護研究方法	看護管理論 看護統合実習 助産業務管理	看護論 看護教育論 卒業研究

4 学部のアドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

【求める学生像】

本学は、看護師、保健師、助産師として長野県をはじめ日本各地の医療・保健機関や自治体において、多様な文化を理解し地域社会の人々の健康と幸せを守ることに貢献できる看護実践者の育成を目指しています。

このような看護実践者の育成を目指す本学では、以下のような人を求めています。

- ① 自然や人間の様々な現象に興味を持ち、積極的に学ぼうとする人
- ② 相手の話に耳をよく傾け、自分の考えを適切に表現しようとする人
- ③ 人間の尊厳を重んじ、相手の個性を尊重して協調しようとする人
- ④ 問題に自ら進んで向き合い、柔軟な考え方で解決しようとする人
- ⑤ 看護専門職として社会に貢献しようとする人

【選抜方法】

本学の教育理念、求める学生像に見合った人を選抜するため、一般選抜(前期日程、公立学校中期日程)、学校推薦型選抜A（地域特別枠を含む。）、学校推薦型選抜B、社会人選抜を実施しています。

一般選抜では、看護学を学ぶ上で必要な基礎学力を有する人を求めるため大学入学共通テストを課し、本学が実施する小論文、面接及び提出書類の審査の結果を総合して可否の判定を行います。学校推薦型選抜A（地域特別枠を含む。）、社会人選抜では、本学が実施する小論文（英語の基礎的能力を問う問題を含む。）、面接及び提出書類の審査の結果を総合して判定を行います。学校推薦型選抜Bでは、大学入学共通テストを課し、本学が実施する面接及び提出書類の審査の結果を総合して判定を行います。

5 大学院の目的

長野県看護大学大学院は、看護学に関する理論と実践を専門的かつ学際的に探究するとともに、看護の質の向上に貢献し得る創造性豊かな教育・研究能力と看護実践能力を持ち、専門職にふさわしい倫理観を備えた人材を育成することを目的とする。

6 研究科のディプロマポリシー（学位授与に関する方針）

（1）博士前期課程「論文コース」

課程修了の要件を満たし、次にあげる能力を有すると認められる者に修士（看護学）の学位を授与する。

- 1) 専門分野に関する理論的知識を活用して看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力
- 2) 自らの専門性について学際的な視野をもって俯瞰する能力
- 3) 研究課題に対応した研究プロセスの遂行に必要な能力
- 4) 高い倫理観をもって看護学研究に取り組む能力
- 5) 国内外の学術的な場において研究成果を公表する能力

（2）博士前期課程「専門看護師コース」

課程修了の要件を満たし、次にあげる能力を有すると認められる者に修士（看護学）の学位を授与する。

- 1) 専門分野に関連する理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力
- 2) 専門性を基盤として多職種と協働し、調整する能力
- 3) 看護対象者へのケアに関わる倫理的課題への高い感受性をもち、調整する能力
- 4) 研究のプロセスを踏んで看護実践の課題研究に取り組む能力
- 5) 国内外の学術的な場において研究成果を公表する能力

（3）博士後期課程

博士後期課程の修了の要件を満たし、次にあげる能力を有すると認められた者に博士（看護学）の学位を授与する。

- 1) 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力
- 2) 国内外で学術的な交流をする能力
- 3) 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力
- 4) 専門性を基盤に、優れた人材を育成する教育能力

7 研究科のカリキュラムポリシー（教育課程の編成、実施方針）

（1）博士前期課程「論文コース」

- 1) 看護学研究の遂行に必要な基礎的能力と倫理観を養うために「必修科目」を置く。
- 2) 広い視野と創造性を養うため、専攻分野に関わらず履修できる「共通選択科目」を置く。
- 3) 専攻分野の専門性を基盤にして関連する理論を学び、研究成果を活用する能力を高めるために専攻分野ごとに「特論」ならびに「演習」の科目を置く。
- 4) 看護実践の質向上に貢献できる研究能力を養うために、「看護学課題研究」を置く。
- 5) 論文作成にあたっては、計画立案の段階から複数教員による指導体制をとり、組織的な研究指導体制をとる。

（2）博士前期課程「専門看護師コース」

- 1) 看護学研究の遂行に必要な基礎的能力と倫理観を養うために「必修科目」を置く。
- 2) 広い視野と創造性を養うため、専攻分野に関わらず履修できる「共通選択科目」を置

く。

- 3) 専攻分野の専門性を基盤にして関連する理論を学び、研究成果を活用する能力を高めるために専攻分野ごとに「特論」ならびに「演習」「実習」の科目を置く。
 - 4) 研究プロセスを踏んで看護実践の課題を探求する能力を高めるために、「看護実践課題研究」の科目を置く。
 - 5) 看護実践課題研究では、計画立案の段階から複数教員による指導体制をとり、組織的な研究指導体制をとる。
 - 6) 卓越した専門的能力を育成し、保健医療福祉分野でのケアと倫理的課題について調整する能力を養うことを目指し、日本看護系大学協議会で認定された専門看護師教育課程を展開する。
- (3) 博士後期課程
- 博士後期課程では、看護学の発展に貢献する教育者・研究者を養成するために、カリキュラムを以下のとおり編成する。
- 1) 学際的視野を広げるため、どの専門領域を専攻した学生であっても履修できる「共通選択科目」を置く。
 - 2) 専門性を基盤とした教育能力を高めるために、看護学教育に関する科目を必修として置くとともに、教育能力を高めるための情報を積極的に提供する。
 - 3) 専攻する領域の専門性を基盤として、看護学研究を自立して実施できる能力と倫理観を養うために、「特論」と「演習」の科目を置く。
 - 4) 研究指導においては、研究計画作成の段階から複数教員による指導体制、研究計画の審査と発表会を行い、組織的な研究指導を計画的にできる体制をとる。

8 研究科のアドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

- (1) 博士前期課程
 - 1) 臨床現場の課題を探求し、専門的で質の高い看護実践者となることを目指す人
 - 2) 基礎的研究能力を培い、看護学の探求を目指す人
 - 3) 看護の専門性を基に他職種と協働し、地域の人々の健康への貢献を目指す人
- (2) 博士後期課程
 - 1) 基礎的な研究能力を有し、人々の健康の保持・増進および生活の質の向上に関連した研究に自立して取り組む人
 - 2) 専門分野で修得した高度な看護実践能力を国際的・学際的な視点から養い、理論的・実践的に発展させる人
 - 3) 高度な研究能力や看護実践能力を看護実践の質の向上や人材の育成に役立てられる人

第2節 大学組織

1 組織

(1) 組織図

本学の管理運営体制については、設置主体が県であり、知事の指揮監督の下に置かれ、予算については毎年県議会の承認を得るとともに、執行状況について監査委員の監査を受けている。

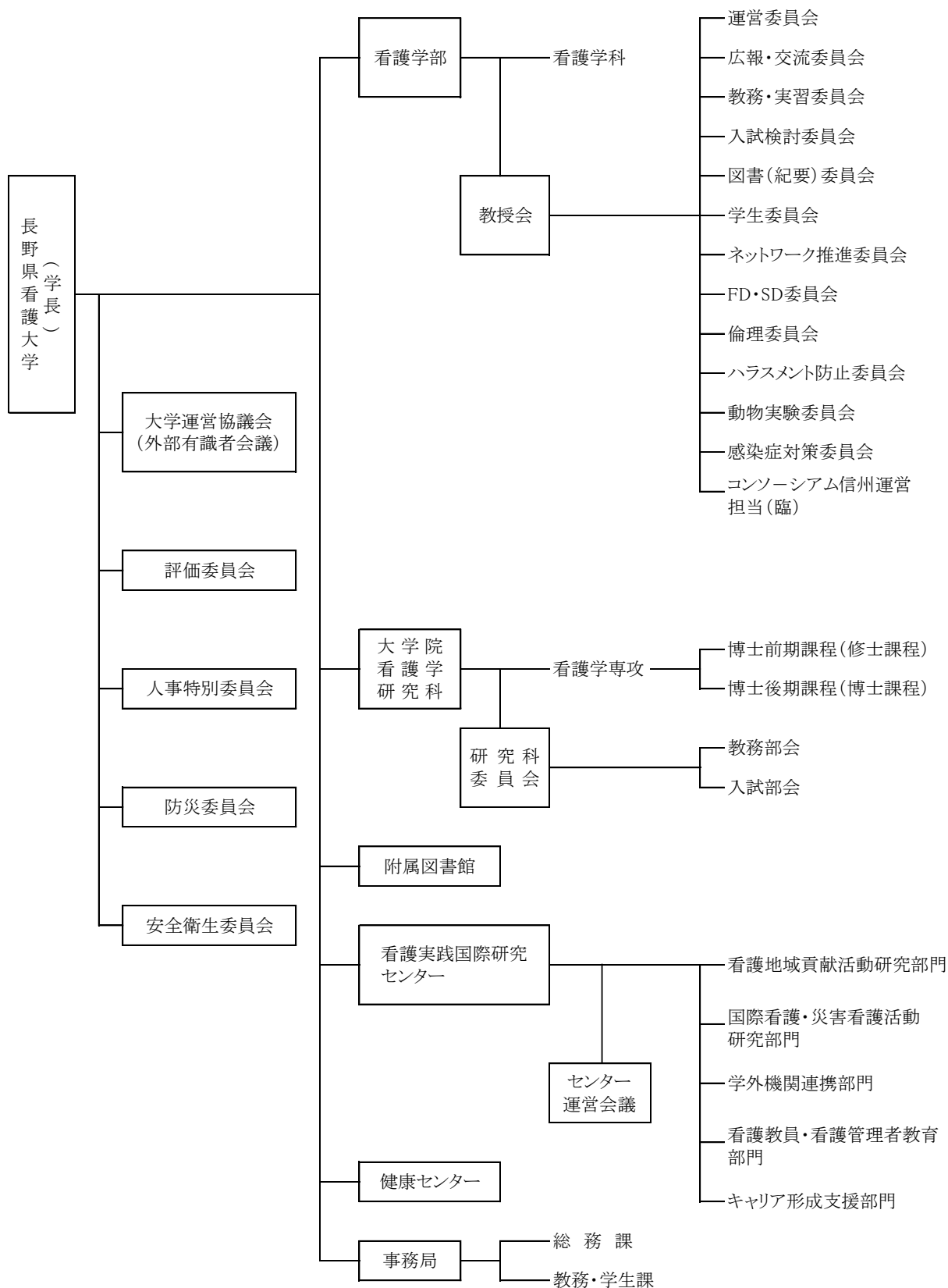
こうした体系の中で、学内体制は表2-1のとおりとなっており、大学全体の管理運営責任を負う学長の下、大学運営に関する重要事項を審議する機関として教授会及び研究科委員会がある。

また、本学では、教員、大学院生等が専門領域・講座を超えて研究プロジェクトに参

画、地域貢献を行う看護実践国際研究センターを設置しており、看護地域貢献活動研究部門他4つの部門が置かれ、各々活動を行っている。事務局の体制は、大学運営全般を行う総務課と学生支援及び教務全般を業務とする教務・学生課との2つの課で成り立っている。

(表2-1)

(令和3年4月1日現在)



(2) 組織構成

1) 学部は、平成 22 年度に看護学体系における各専門分野間の連携を深めるため、学部講座制の見直しを行い、平成 23 年度から新たに 4 つの大講座に再編を行ったものである。組織構成は、表 2-2 のとおりである。

2) 研究科は、基本的には学部の教育研究組織の上へのせる形で組織されているが、学部の講座を超えた 5 つで構成している。(表 2-3) そのうち、広域看護学領域の里山・遠隔看護学分野は、本学が立地する長野県の地域特性に配慮

表2-2 学部の組織構成

人間基礎科学講座	哲学・倫理学分野
	心理学分野
	社会・人類学分野
	健康・保健学分野
	生物・化学分野
	英語・英米文化学分野
	基礎医学・疾病学分野
	病態・治療学分野
基礎看護学講座	基礎看護学分野
	看護管理学・看護教育学
発達看護学講座	母性・助産看護学分野
	小児看護学分野
	成人看護学分野
広域看護学講座	老年看護学分野
	精神看護学分野
	地域・在宅看護学分野

表2-3 研究科の組織構成

看護基礎科学領域	病態機能学分野
	病態治療学分野
基礎看護学領域	基礎看護学分野
	看護管理学分野
発達看護学領域	母性・助産看護学分野
	小児看護学分野
	成人看護学分野
広域看護学領域	老年看護学分野
	精神看護学分野
	地域・在宅看護学分野
	里山・遠隔看護学分野
専門関連領域	哲学・倫理学
	心理学
	社会・人類学
	健康・保健学
	生物・化学
	英語・英米文化学

した地域貢献の視点からの看護研究の領域・分野として平成 18 年度から開設している。

また、研究科には、質の高い看護実践能力を養うという本学研究科博士前期課程の教育目標に基づいて、平成 13 年度に小児看護学分野・老年看護学分野、平成 24 年度に精神看護学分野の専門看護師（以後「CNS」という。）コースを開設している。

(3) 大学運営協議会

1) 概要

県立大学としてその運営に広く県民の意見を反映させるため、運営協議会を設置している。本協議会は、下表のとおり学外の委員で構成されている。学内規程として「長野県看護大学運営協議会規程」を設けて、協議会の審議結果等を大学運営に反映させるよう定めている。

運営協議会委員名簿（任期：令和 3 年 11 月 18 日～令和 5 年 3 月 31 日）

区分	職	氏名	所属
地方公共団体	駒ヶ根市長	伊藤 祐三	市長会
看護現場	看護部長	代田 とみ子	飯田市立病院
〃	副院長 兼看護部長	竹内 玲子	長野県立こころの医療センター駒ヶ根
〃	会長	高橋 光子	長野県訪問看護ステーション連絡協議会
保健現場	課長	中村 杏子	飯島町健康福祉課
教育研究機関	学部長	坂江 千寿子	佐久大学看護学部
〃	衛生学院長	笠原 悦男	松本歯科大学
〃	学部長	宮本 秀樹	長野大学社会福祉学部
地域経済界	副会頭	春日 俊也	駒ヶ根商工会議所

学識経験者	院長	藪原明彦	やぶはら小児科医院
卒業生	看護師長	久保貴三子	諏訪中央病院

(令和3年11月18日現在、敬称略)

2) 令和3年度の開催概要

開催日	開催場所	協議事項等
令和3年 11月18日	看護大学 大会議室	<p>長野県看護大学の概要 令和3年度 当初予算の概要 入学志願者・入学者等の推移 令和2年度 卒業生・修了生の進路状況 認定看護師継続教育支援について がん看護専門看護師(CSN)教育課程 2022年4月開始予定 感染管理認定看護師教育課程の開設について 新型コロナウイルス感染症に関する学内活動の指針(行動基準) 新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応について 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う臨地実習に関する基本方針 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に関するサークル活動の指針</p>

2 教職員

(1) 教職員名簿

① 学部専任教員

(令和3年10月1日現在)

講座	分野	職位	氏名
		学長	北山秋雄
		学部長(兼)	坂田憲昭
人間基礎科学講座	哲学・倫理学	准教授	屋良朝彦
	心理学	准教授	松本淳子
	社会・人類学	准教授	座馬耕一郎
	健康・保健学	准教授	秋山剛
	生物・化学	教授	太田克矢
	英語・英米文化学	准教授	井村俊義
	基礎医学・疾病学	教授	喬炎
基礎看護学講座	基礎看護学	講師	三浦大志
		助教	上條明生
		教授	坂田憲昭
		講師	中畑千夏子
		教授	伊藤祐紀子
		教授	望月経子
		講師	近藤恵子
発達看護学講座	母性・助産看護学	助教	那須淳子
		助教	上條こずえ
		助教	田中真木
		助教	伊藤郁恵
		助手	飯嶋勇貴
		助手	白川あゆみ
		講師	井本英津子
看護管理学・看護教育学	講師	吉岡詠美	
准教授	河内浩美		
講師	西村理恵		
助教	水主洋子		
助教	坂本希世		
助手	林陽子		
助手	高柳実希		
助手	藤澤紀子		

講座	分野	職位	氏名	
発達看護学講座	小児看護学	准教授	竹内幸江	
		講師	高橋百合子	
		助教	白井史	
		助教	足立美紀	
	成人看護学	助手	小原綾香	
		教授	柳原清子	
		講師	浦野理香	
		講師	江頭有夏	
		助教	熊谷理恵	
		助教	小口翔平	
		助手	伊藤佑季	
		助手	青木駿介	
	広域看護学講座	老年看護学	教授	渡辺みどり
			准教授	千葉真弓
講師			細田江美	
講師			曾根千賀子	
精神看護学		助手	横山仁美	
		准教授	有賀美恵子	
		講師	有賀智也	
		助教	星幸江	
地域・在宅看護学	助教	大曾根由季		
	助手	福嶋洋子		
	教授	安田貴恵子		
	准教授	柄澤邦江		
	講師	小野塚元子		
	講師	御子柴裕子		
	助教	酒井久美子		
	助教	村井ふみ		
助手	富田美雪			
助手	下村聡子			

② 大学院の領域別科目担当専任教員

(令和3年4月1日現在)

領域	分野	氏名等	領域	分野	氏名等
	研究科長(兼)	安田貴恵子	広域看護学	老年看護学	教授 渡辺みどり※
看護基礎科学	病態機能学	教授 喬炎※			准教授 千葉真弓
		教授 太田克矢※			講師 細田江美
		講師 三浦大志			講師 曾根千賀子
		教授 坂田憲昭※		准教授 有賀美恵子※	
基礎看護学	基礎看護学	講師 中畑千夏子		講師 有賀智也	
		教授 伊藤祐紀子※		教授 安田貴恵子※	
		教授 望月経子※		准教授 柄澤邦江	
		講師 近藤恵子		講師 小野塚元子	
発達看護学	看護管理学	講師 井本英津子		講師 御子柴裕子	
		講師 吉岡詠美		教授 北山秋雄※	
発達看護学	母性・助産看護学	准教授 河内浩美※		里山・遠隔看護学	准教授 座馬耕一郎※
		講師 西村理恵			准教授 秋山剛※
	小児看護学	准教授 竹内幸江※			専門関連
		講師 高橋百合子	心理学	准教授 松本淳子※	
	成人看護学	教授 柳原清子※	英語・英米文学	准教授 井村俊義※	
		講師 江頭有夏			
					講師 浦野理香

※博士後期課程の科目担当専任教員

③非常勤講師

看護学部非常勤講師 (令和3年5月1日現在)

担当科目	氏名	現職
統計学	中村 寛志	信州大学農学部特任教授
保健・医療・福祉システム看護論Ⅱ	豊永 誠	信州豊南短期大学非常勤講師
教育学	加藤 和之	下條村児童館館長
教の話と教養数学	二宮 晏	信州大学名誉教授
ドイツ語	浜 泰子	信州大学高等教育システムセンター非常勤講師
感染学演習	碓井 之雄	東京医療保健大学名誉教授
経済学	樋口 均	信州大学経済学部名誉教授
英会話の基礎 医療英会話の基礎 Ⅰ・Ⅱ	西垣内磨留美	長野県看護大学名誉教授
人間工学	加藤 麻樹	早稲田大学人間科学部教授
法学	成澤 孝人	信州大学経法学部教授
医療経済学	今野 広紀	日本大学スポーツ科学部准教授
看護栄養学	志塚ふじ子	長野県短期大学名誉教授
英会話演習	ジン・オオクボ	(有)グローバルビレッジ講師
医事法学	浅村 英樹	信州大学医学部教授
芸術と人間	長江 朱夏	音楽療法士
運動実技・理論Ⅰ、Ⅱ 運動理論	速水 達也	信州大学学術研究院 総合人間科学系准教授

大学院非常勤講師 (令和3年5月1日現在)

担当科目	氏名	現職
看護倫理	小西恵美子	長野県看護大学名誉教授
小児病態・治療特論	敷原 明彦	やぶはら小児科医院長
老年医学特論	中土 幸男	丸の内病院長
精神看護学特論Ⅱ	樋掛 忠彦	
フィジカルアセスメント	山内 豊明	放送大学大学院教授
量的研究方法論	萩原 素之	信州大学農学部教授
コミュニティ・ディベ ロップメント論特講	色平 哲郎	佐久総合病院地域医療部地域 ケア科医長
	長 純一	
語法特殊講義	滝沢 秀男	日本大学商学部大学非常勤講師
コンサルテーション論	大石ふみ子	聖隷クリストファー大学看護学部 教授

④事務局

本学の事務組織は、事務局及び付属図書館で構成されている。事務局は、総務課、教務・学生課の2課体制で、事務局長以下職員9名及び会計年度任用職員5名が配置されている。

平成22年までは事務局外に学生支援として学生部があり、学生支援課と就職支援課の2課体制であったが、組織の見直しを行い、事務局内の教務・学生課として総合的な支援を行っている。

付属図書館には、図書委員会委員長の教員が兼務する図書館長と、司書1名、会計年度任用職員2名が配置されている。

(2) 教員の募集・採用状況

教員の募集・採用は、欠員が生じた場合や新たに採用の必要が生じた場合に「長野県看護大学教員選考基準に関する規程」及び「長野県看護大学教員選考基準細則」等に基づいて、適時実施している。

原則として公募により募集し、教員選考委員会（選考委員は委員会立ち上げの都度学長が指名）による選考審査を経て、教授会に諮り、採否を決定している。

令和3年度教職員採用状況

(人)

教授	准教授	講師	助教	助手	計	学内昇任
(1)			2		(1) 2	3

(注) 上段の () は任期付職員で外書数である(臨任、育休任期付を除く)

事務局職員

(令和3年5月1日現在)

	事務局長	米久保 篤
総務課	次長兼課長	上原 康彦
	課長補佐	西山 由美子
	主査	唐木 繁一
	主任	小笠原 千寿子
教務・学生課	課長	斉藤 秀樹
	課長補佐	田中 由嘉里
	課長補佐	小林 清二
	主幹	中島 里美
図書館	主幹学校司書	清水 満里子
	司書事務員	栗原 美乃
	図書館補助員	福島 はるな
会計年度任用職員	学生支援員	中村 康子
	学生支援員	山中 いづみ
	就職支援員	花岡 秀樹
	行政事務補助員	福澤 圭子
	教学事務補助員	坂間 陽子

3 全学委員会

(1) 委員会の構成

教授会の下部組織として、委員会組織（常設の委員会13、臨時の委員会1）を設置しており、大学運営上の様々な課題については、委員会で検討のうえ、教授会に諮ることとしている。委員会組織は、助教・助手を含む全教員で構成している。

また、研究科委員会においても、下部組織として教務部会と入試部会の二つの部会組織を設けている。両部会は、講師以上の職位にあるものによって構成している。

委員会及び部会等の構成員は、次表のとおりである。

1 教授会委員会等

委員会等		委員長等	委員等				事務局	
教	運営委員会	北山学長	坂田学部長 望月教授 米久保事務局長	安田研究科長 柳原教授	太田教授 渡辺教授	伊藤教授 竹内准教授	上原次長 斉藤教学課長	
	広報・交流委員会	太田教授	松本准教授 足立助教 林助手	井村准教授 熊谷助教	高橋講師 小口助教	細田講師 酒井助教	小林課長補佐	
	教務・実習委員会	渡辺教授	望月教授 井本講師 御子柴講師 坂本助教	柳原教授 高橋講師 小野塚講師 福嶋助手	河内准教授 浦野講師 那須助教 富田助手	中畑講師 細田講師 田中助教	中島主幹	
	入試検討委員会	竹内准教授	坂田教授 柄澤准教授	座馬准教授 江頭講師	井村准教授	有賀准教授	小林課長補佐	
	図書委員会 紀要委員会	太田教授	千葉准教授 伊藤(郁)助教 横山助手	柄澤准教授 白川助手	近藤講師 高柳助手	西村講師 小原助手	清水主幹司書	
	学生委員会	伊藤教授	三浦講師 水主助教 (就職支援員、学生支援員出席)	井本講師 星助教	江頭講師 村井助教	細田講師 藤澤助手	田中課長補佐 中島主幹	
	ネットワーク推進 委員会	秋山准教授	座馬准教授 白井助教	三浦講師 青木助手	吉岡講師	有賀講師	西山課長補佐	
	FD・SD委員会	松本准教授	千葉准教授 上條(明)助教	中畑講師 上條(こ)助教	曾根講師	小野塚講師	小林課長補佐	
	倫理委員会	屋良准教授	秋山准教授 (外部委員)	河内准教授	柄澤准教授	浦野講師	小笠原主任	
	ハラスメント防止 委員会	喬教授	柳原教授 下村助手	西村講師 上原次長	曾根講師 斉藤教学課長	伊藤(佑)助手		
授 会	動物実験委員会	井村准教授	喬教授	秋山准教授	江頭講師		小笠原主任	
	感染症対策委員会	坂田学部長	伊藤教授 米久保事務局長	渡辺教授 斉藤教学課長	中畑講師 田中課長補佐			
	コンソーシアム信州 担当		望月教授	屋良准教授	吉岡講師		斉藤教学課長	
	評価委員会	北山学長	坂田学部長 伊藤教授 松本准教授 米久保事務局長	安田研究科長 柳原教授 秋山准教授	太田教授 渡辺教授 井村准教授	喬教授 屋良准教授 竹内准教授	斉藤教学課長	
	人事特別委員会	北山学長	坂田学部長 米久保事務局長	安田研究科長	伊藤教授 渡辺教授			
	防災委員会	望月教授	坂田学部長 近藤講師 西山課長補佐	伊藤教授 御子柴講師 唐木主査	屋良准教授 飯嶋助手 (教務・学生課担当職員出席)	三浦講師 米久保事務局長		
	安全衛生委員会	北山学長	三浦講師 田中課長補佐	酒井助教 西山課長補佐	米久保事務局長	上原次長		
	図書館長	太田教授						
	学年顧問	1 学年		吉岡講師	有賀講師	2 学年	近藤講師	井本講師
		3 学年		河内准教授	曾根講師	4 学年	井村准教授	浦野講師
過年度生			座馬准教授	有賀准教授	御子柴講師	高橋講師	小野塚講師	
健康センター運営会議	北山学長	坂田学部長 米久保事務局長	安田研究科長 上原次長	伊藤教授 田中課長補佐	渡辺教授			
看護実践国際研究セン ター運営会議	北山学長	坂田学部長 米久保事務局長	安田研究科長	望月教授	千葉准教授			

2 研究科委員会

部 会	部 会 長	部 会 員			事 務 局
教 務 部 会	安田研究科長	太田教授	伊藤教授	渡辺教授	斉藤教学課長
入 試 部 会	柳原教授	喬教授	河内准教授	有賀准教授	小林課長補佐

4 人事特別委員会

長野県看護大学人事特別委員会設置要綱に基づき、委員会では、教員の処分に関し必要な事項や、教員の職務遂行に関する事項を審査する。

委員会の構成員は、要綱の規定により学長（委員長）、学部長、研究科長、教務委員長、学生委員長、事務局長の6名であり、該当案件が生じた場合に開催する。

令和3年度は、該当案件が生じなかったため、開催はなかった。

5 教員人事評価

(1) 概 要

県が実施している人事評価制度について、地方公務員法等の一部改正に伴い大学教員も対象とすることになったため、平成28年度から新たに教員人事評価を開始し、令和3年度も引き続き実施した。この評価は、教員が教育・研究活動等を遂行するに当たり発揮した能力及び挙げた実績を把握し、主体的な業務の遂行及び人材の育成を行うとともに、能力・実績に基づく人事管理を行うことにより、教育研究等の向上につなげることを目的としている。

<制度の概要>

区 分	人事評価	
	職務遂行力評価	業務評価
概 要	教員に求められる能力や仕事に対する意欲や姿勢を、日常の行動に照らして評価	期首に自らが業務目標を設定し、中間及び期末にその目標の達成度により評価
評価方法	職務遂行力評価表により、次のとおり評価を行う 1 自己評価 2 一次評価 3 二次評価	業務評価シート(目標設定・中間評価・年間評価)により、次のとおり評価を行う 1 自己評価 2 一次評価(評価面談を実施) 3 二次評価

(2) 評価結果の活用

評価結果は、査定昇給の際に重要な判断材料として活用した。また、業務評価の結果は勤勉手当に反映した。

6 健康センター

(1) 概 要

精神的な問題や不調を抱える人々は増加し、職場におけるメンタルヘルスの維持・増進は喫緊の課題となっていたため、比較的早期の段階から専門的に関与していく機関として、2010年11月に学長直属の機関として「健康センター」を設置し、精神分野の専門看護師を1人配置して、学生や教職員に対する心の健康相談を実施してきた。その後、職場におけるメンタルヘルスが改善されたため、2015年7月から、相談員は常勤保健師と非常勤の臨床心理士が担当することとした。

健康センターでは、精神的な問題や不調を抱えている人に対して、治療の必要性の有無を判断し医療につなげること、また現在、治療を受けている学生や教員の場合は、症状の重症化、長期化を防ぎ、早期回復に向けた支援を行うことを目的に、次に掲げる業務を実施している。

- ① 学生・教職員からの相談・指導
- ② 学年顧問など他の相談窓口からの相談への対応
- ③ 休学・休職中の人への復学・復職に向けた支援
- ④ 学内外における心の健康づくりに関すること

(2) 実績

＜教員及び学生に対する心の健康相談実績（延べ件数）＞

年 度	28(2016)	29(2017)	30(2018)	元(2019)	2(2020)	3(2021)
学 生	40	84	171	152	165	74
教 員	0	6	6	11	2	4
合 計	40	90	177	163	167	78

1) 学生の相談状況

- ・3年度は、1年の心身の不調の相談が多く、コロナ禍の影響が大きかったと思われる。
- ・こんなはずではなかった、やめたくなくなった、看護職としての自信の喪失等からくる「大学をやめたい気持ち」など、実習を機に、理想と現実のギャップなどがストレスになっている学生が見受けられた。
- ・一般的に発病が多いと思われる思春期世代であるが、生育歴や家庭・家族関係の問題が、精神面の不安定さなどに影響を及ぼしていると思われる学生も見受けられる。
- ・世間では発達障がい注目されているが、学内でもそれと思われる特徴で悩んでいる学生が出てきていて、継続した対応も必要になってきている。
- ・年度始めに学生が提出する「健康質問票」のメンタル系の項目にチェックが入っている学生については、個別面接を実施した。

2) 教職員の相談状況

令和2年度から引き続き、教員のストレスチェックの結果によると、ストレス度が高い傾向が続いている。相談の必要な職員は職員課の相談につなげており、健康センターでの個別相談は傾聴をする程度である。

(3) 課題及び今後の展開

健康センターは、本学関係者の精神疾患の改善に大きな成果をあげてきた。今後も引き続き、学生や教職員に対する相談機能を堅持する必要がある。

なお、相談者が減少したため、常勤の相談員の配置を終了し、必要に応じて外部機関から相談員（臨床心理士）を非常勤で雇うことで、新たな体制を整備しているところである。

第3節 学生の状況

1 学 部

(1) 入学試験の状況

1) 状 況

平成7年の開学以来、学部入学定員は80名で、3年次に10名の編入生を受け入れていたが、平成28年度入学から募集を停止している。入学者受入方針（アドミッションポリシー）に基づく小論文、面接及び自己申告書を課して、試験を行っている。

入学試験の過去5年間の状況は、以下のとおりである。

項目／入試実施年度	H29 (30年度入学)	H30 (31年度入学)	R1 (2年度入学)	R2 (3年度入学)	R3 (4年度入学)	
一般選抜	志願者	172	283	215	192	346
	合格者	59	59	55	59	58
	入学者(A)	55	54	53	51	50
	入学定員(B)	50	50	50	48	48
	A/B	1.10	1.08	1.06	1.06	1.04
学校推薦型選抜	志願者	58	51	52	89	84
	合格者	30	29	31	33	35
	入学者(A)	30	29	31	33	35
	入学定員(B)	30	30	30	32	32
	A/B	1.00	0.97	1.03	1.03	1.09
社会人選抜	志願者	2	4	1	2	4
	合格者	0	2	1	1	3
	入学者(A)	0	2	1	1	0
	入学定員(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
	A/B	—	—	—	—	—
編入学試験	志願者	—	—	—	—	—
	合格者	—	—	—	—	—
	入学者(A)	—	—	—	—	—
	入学定員(B)	募集停止	募集停止	募集停止	募集停止	募集停止
	A/B	—	—	—	—	—
合計	志願者	232	338	268	283	434
	合格者	89	90	87	93	295
	入学者(A)	85	85	85	85	85
	入学定員(B)	90	90	90	90	80
	A/B	0.94	0.94	0.94	0.94	1.06

※合格者数には、追加合格を含む。

○ 学校推薦型選抜

令和3年度入学者選抜から、学校推薦型選抜A（地域特別枠を含む。）と学校推薦型選抜Bの区分を設けて選抜を行っている。

① 学校推薦型A（地域特別枠を含む。）

県内高等学校の卒業予定者で「全体の学習成績の状況」が4.0以上。定員は24名。推薦枠は各校2名（分校は1名）以内。また、地域特別枠（卒業後に長野県内の過疎地域において保健医療に従事しようとする強い意志を有する者）は前記のほかに各校1名。小論文、面接及び自己申告書の審査結果を総合的に判定して選抜を行っている。

② 学校推薦型選抜B

高等学校の卒業予定者で、本学卒業後に長野県内において保健医療に従事しようとする強い意志を有する者が対象。「全体の学習成績の状況」が3.8以上。定員は8名。推薦枠は各校2名（分校は1名）以内。大学入学共通テスト、面接及び自己申告書の審査結果を総合的に判定して選抜を行っている。

○ 社会人選抜（平成15年度から受け入れ）

大学入学資格と一定の基準による社会人としての経験を3年以上有する者。小論文、面接及び自己申告書の審査結果を総合的に判定して選抜を行っている。

○ 一般選抜

分離分割方式で前期と中期に分けて実施し、定員は前期日程40名、中期日程8名。大学入学共通テスト、小論文、及び自己申告書の審査結果を総合的に判定して選抜を行っている。

○ 編入学試験

専門科目と英語の筆記試験、面接を行い、結果を総合的に判定して選抜を行っていたが、編入生の定員割れが続いたこと等から、平成 27 年度試験（平成 28 年度入学）から募集を停止した。

2) 課題及び方策

編入学試験制度の廃止と、令和 3 年度から変更した入学者選抜方法について、問題点等を入試検討委員会等で検証していく。

(2) 学年別学生数

1) 状 況

在校生数は、定数の 340 名に対しほぼ同数となっているが、近年の傾向として卒業延期生が増加している。

また、男子学生の割合は、各学年 10% 以下であり、近年は低下傾向にある。

県内出身者は全体の 73.6% で、年により増減しているが、60% 台の後半から 70% 前半で推移している。

令和 3 年 5 月 1 日現在 (単位：人)

学部	総 数		県内 出身者	県外 出身者	
	男	女			
1 年	85	0	85	68	17
2 年	84	3	81	62	22
3 年	84	4	80	59	25
4 年	85	5	80	60	25
編入 1 年	0	0	0	0	0
編入 2 年	0	0	0	0	0
卒業延期生	4	1	3	3	1
計	342	13	329	252	90

2 研究科

(1) 入学試験の状況

項目/入試実施年度		H29 (30 年度入学)	H30 (31 年度入学)	R1 (2 年度入学)	R2 (3 年度入学)	R3 (4 年度入学)
(博士前期) 看護学専攻	志願者	7	6	13	2	13
	合格者	6	6	13	2	12
	入学者(A)	6	5	13	2	12
	入学定員(B)	16	16	16	16	16
	充足率(A/B)	38%	31%	81%	13%	75%
(博士後期) 看護学専攻	志願者	1	3	5	5	2
	合格者	1	3	4	5	2
	入学者(A)	1	2	3	5	2
	入学定員(B)	4	4	4	4	4
	充足率(A/B)	25%	50%	75%	125%	50%
合 計	志願者	8	9	18	7	15
	合格者	7	9	16	7	14
	入学者(A)	7	7	16	7	14
	入学定員(B)	20	20	20	20	20
	充足率(A/B)	35%	35%	80%	35%	70%

(2) 学年別院生数

在学生数は、博士前期課程が定数の 32 名に対し、定員割れが続いている。近年の傾向として、入学生が少なく、休学等による卒業延期生が増加している。

また、博士後期課程は、定数 (12 名) を満たしているが、休学等により標準修業年限を超える学生が多い傾向となっている。

令和 3 年 5 月 1 日現在 (単位：人)

学部	総 数		県内 出身者	県外 出身者	
	男	女			
修士課程	21	5	16	18	3
博士課程	15	2	13	9	6
計	36	7	29	27	9

3 学部及び研究科の休学、退学の状況

学部、研究科とも、最終学年での休学が多く、そのうちの一部が退学へとつながっている事例がある。

休学の理由は、学部では体調不良、研究科では、仕事の都合が主なものである。

(1) 学部・研究科の退学者数

	令和元年度					令和2年度					令和3年度				
	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計
学部	1	0	0	0	1	1	0	0	2	3	0	3	0	2	5
研究科	修士課程	0	0		0	0	1		1	0	0		0	0	
	博士課程	0	0	2	2	0	0	2	2	0	0	2	2	2	
	小計	0	0	2	2	0	1	2	3	0	0	2	2	2	
合計	1	0	2	0	3	1	1	2	2	6	0	3	2	2	7

※ 研究科のうち博士後期課程における単位取得退学者は、退学者数に計上していない。

(2) 学部・研究科の休学者数

	令和元年度					令和2年度					令和3年度				
	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計
学部	0	0	2	4	6	1	1	0	3	5	1	2	0	2	5
研究科	修士課程	0	4		4	1	2		3	0	6		6	6	
	博士課程	0	1	5	6	0	0	3	3	0	1	4	5	5	
	小計	0	5	5	10	1	2	3	6	0	7	4	11	11	
合計	0	5	7	4	16	2	3	3	3	11	1	9	4	2	16

※ 休学者数のうち、年度を越える休学は年度毎に計上しているが、年度内の同一人物による複数の休学は実人数で計上している。

第2章 年間の活動状況

第1節 学部及び研究科の行事及び教授会活動

1 1年間の行事

月 日	内 容	月 日	内 容
4月5日 (月)	入学式	11月18日 (木)	大学運営協議会
4月7日 (水)	ガイダンス	11月27日 (土)	推薦A・社会人入学試験
~8日 (木)	健康診断	12月25日 (土)	冬季休業
4月7日 (水)	履修登録期間	~1月4日 (火)	
~14日 (水)		1月5日 (水)	後学期授業再開
4月9日 (金)	前学期授業開始	1月15日 (土)	大学入学共通テスト
5月1日 (土)	創立記念日	16日 (日)	
8月初旬	オープンキャンパス【中止】	1月29日 (土)	博士前期・後期課程二次募集 入学試験
8月21日 (土)	夏季休業	2月5日 (土)	推薦B入学試験
~9月30日 (水)		2月19日 (土)	春季休業
9月4日 (土)	鈴風祭【中止】	~3月31日 (木)	
5日 (日)		2月25日 (金)	一般選抜入学試験 (前期)
9月28日 (火)	学位記授与式	3月5日 (土)	卒業式・修了式
10月1日 (木)	後学期授業開始	3月8日 (火)	一般選抜入学試験 (中期)
10月16日 (土)	博士前期・後期課程入学試験		

2 教授会の活動

回	開催月日	協 議 事 項
1	4月6日	(教授のみ) 1 特別の配慮を要する教員について
2	4月20日	1 令和3年度学生校費予算 (案) について 2 令和3年度一般研究費配分 (案) について 3 令和3年度特別研究費配分 (案) について
3	5月18日	1 教員の令和3年度の人事評価について 2 教員の令和3年度の自己点検評価について 3 精神看護学の教員 (助教又は助手) の採用について 4 教員の公募について 5 入学選抜に関する要項について 6 退学願について
4	6月1日	1 精神看護学の教員 (助教) の採用について 2 教員の職位昇任申請について
5	6月15日	1 令和3年度長野県看護大学臨床教授等の委嘱について

6	7月6日	<ul style="list-style-type: none"> 1 学長選考・選挙管理委員の選挙について 2 令和4年度(2022年)学部入学者選抜関係日程変更(案)について 3 令和4年度入学試験学生募集要項(一般・学校推薦型選抜A・B・社会人選抜)について 4 感染管理認定看護師教育課程の開設について
7	7月20日	<ul style="list-style-type: none"> 1 長野県看護大学学長選考規程施行細則の一部改正について 2 学長選考・選挙管理委員の選挙について 3 教員の退職について 4 教員の職員の昇任について(審査結果報告) 5 休学について 6 退学について
8	8月3日	<ul style="list-style-type: none"> 1 教員の職位の昇任について(投票) (准教授以上) 2 健康・保健学の教員(教授又は准教授)の採用について(審査結果報告) 3 看護管理学・看護教育学の教員(教授又は准教授)の採用について(審査結果報告) (教授のみ) 4 精神看護学の教員(教授)の採用について(審査結果報告)
臨時	8月10日	<p>(教授のみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 精神看護学の教員(教授)の採用について(投票) (准教授以上) 2 健康・保健学の教員(准教授)の採用について(投票)
臨時	9月14日	<ul style="list-style-type: none"> 1 学長候補者の選挙投票結果について 2 休学願について 3 年度途中で卒業する学生の卒業認定について 4 指定規則改正に伴うカリキュラム改正について (教授のみ) 5 病態・治療学の教員(教授又は准教授)の採用について(審査結果報告)
9	9月21日	<ul style="list-style-type: none"> 1 学部長候補者選挙管理委員の選挙について (教授のみ) 2 病態・治療学の教員(教授)の採用について(投票)
10	10月5日	<ul style="list-style-type: none"> 1 教員の退職について 2 教員の公募について (教授のみ) 3 学長の業績評価について
11	10月19日	<ul style="list-style-type: none"> 1 教員の退職願について 2 休学願について 3 退学願について 4 長野県看護大学看護実践国際研究センター規程の改正等について (教授のみ) 5 母性・助産看護学の教員(教授)の採用について(審査結果報告)

臨時	10月26日	1 長野県看護大学学部長候補予定者選挙結果について
12	11月2日	(教授のみ) 1 母性・助産看護学(教授)の採用について(投票)
13	11月16日	1 学部の3Pとアセスメントポリシーについて 2 令和4年度 アカデミックリテラシーのシラバスについて 3 令和4年度 学年暦(案)について 4 新カリキュラム時間割について 5 令和4年度 時間割について 6 令和4年度の新規非常勤講師について 7 令和4年度非常勤講師について 8 令和4年度 県内大学単位互換履修生募集要項(案)について 9 令和4年度 科目等履修生募集要項(案)について 10 成人看護学分野の教員(講師)の採用について(審査結果報告) (教授のみ) 11 学長の職務遂行評価について
臨時	11月30日	1 学校推薦型選抜A・社会人選抜の可否判定について
14	12月7日	1 教員の退職について 2 教員の公募について 3 休学願について 4 成人看護学分野の教員(講師)の採用について(投票) (准教授以上) 5 精神看護学分野の教員(准教授)の採用について(審査結果報告)
15	12月21日	1 長野県看護大学組織の改正等について 2 任期付教員の採用に係る規程の一部改正案について 3 教員の採用について 4 令和4年度科目等履修生募集について 5 長野県看護大学における学生の通称名等使用取扱要項について (准教授以上) 6 精神看護学分野の教員(准教授)の採用について(投票) (教授のみ) 7 病態・治療学の教員(教授)の採用について(審査結果報告)
16	1月18日	1 退職願について 2 母性・助産学の臨時的任用教員(欠員補充)の採用について 3 小児看護学の臨時的任用教員(欠員補充)の採用について 4 令和4年度助産師コース選考結果について 5 長野県看護大学組織に係る規程の改正等について (教授のみ) 6 病態・治療学の教員(教授)の採用について(投票)

17	2月1日	<ul style="list-style-type: none"> 1 令和3年度 実習に行けなかったことによる課題対策の検討について 2 成人看護学の任期付き教員の採用期間の更新について 3 病態・治療学分野の教員（教授又は准教授）の公募について 4 認定看護師教育部門の教員（教授）の公募について 5 退職願について 6 母性・看護学の教員（講師）の公募について 7 令和4年度教授会委員会等構成員について
臨時	2月8日	<ul style="list-style-type: none"> 1 学校推薦型Bの可否判定について 2 長野県看護大学任期付教員の採用に係る規程の改正について
18	2月15日	<ul style="list-style-type: none"> 1 令和3年度卒業生 成績判定について 2 令和4年度卒業生研究の配置について 3 令和5年度学部入学者選抜関係日程について 4 令和4年度教授会等の日程について 5 教員の採用（基礎看護学分野（助手））審査結果報告について 6 教員の採用（成人看護学分野（助教））審査結果報告について 7 令和4年度教授会委員会等構成員について
臨時	2月24日	<ul style="list-style-type: none"> 1 教員の公募（認定看護師教育部門感染管理分野（助手））の審査結果報告について 2 成人看護学分野（助教）の採用について（投票）
19	3月1日	<ul style="list-style-type: none"> 1 教員（基礎看護学分野（助手））の採用について（投票） 2 教員（認定看護師教育部門感染管理分野（助手））の採用について（投票） 3 令和4年度一般選抜入学試験（前期日程）結果について 4 「研修機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」の改正に伴う学内規程の改正について
臨時	3月3日	<p>（教授のみ）</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 教員の公募（認定看護師教育部門感染管理分野（任期付専任教授））の審査結果報告について
臨時	3月9日	<p>（教授のみ）</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 教員の公募（認定看護師教育部門感染管理分野（任期付専任教授））の投票について
20	3月15日	<ul style="list-style-type: none"> 1 令和4年度一般選抜入学試験（中期日程）結果について 2 退学願について 3 臨時的任用教員の採用について 4 令和3年度修得単位認定について 5 カリキュラムマップについて 6 カリキュラムツリーについて 7 大学基準協会に係る改善報告について <p>（教授のみ）</p> <ul style="list-style-type: none"> 8 特別の配慮を要する教員について 9 学長の業務評価について

3 研究科委員会の活動

回	開催月日	協議事項
1	4月20日	1 退学願について 2 休学願について 3 博士論文研究計画（前期）審査体制（案）について
2	5月18日	1 令和3年度修士論文研究テーマ・論文指導教員（案）について 2 令和3年度論文指導に係る学外指導教員の委嘱について 3 休学願について
3	6月1日	1 令和4年度大学院博士前期課程（修士課程）学生募集要項（案）について 2 令和4年度大学院博士後期課程（博士課程）学生募集要項（案）について（教授のみ） 3 令和3年度前学期博士論文研究計画書の審査について（審査結果報告）
4	6月15日	1 令和3年度前学期 博士論文審査員（案）について 2 休学願について
5	7月20日	協議事項なし
6	8月3日	1 休学願について
7	9月14日	1 休学願について 2 学位論文に係る評価に当たっての基準の公表について（教授のみ） 3 令和3年度博士論文審査結果及び最終試験結果報告について 4 令和3年度博士前期課程の学位授与について（投票）
8	10月5日	1 休学願について 2 令和3年度博士論文指導教員について 3 令和3年度後学期博士論文研究計画書審査体制（案）について
9	10月19日	1 令和4年度博士前期課程入学者選抜試験結果について 2 研究科長候補者選考における候補者について
10	11月2日	1 令和4年度大学院博士前期課程（修士課程）学生2次募集要項（案）について 2 令和4年度大学院博士後期課程（後期課程）学生2次募集要項（案）について
11	11月9日	1 長野県看護大学研究科長候補予定者選挙結果について
12	11月16日	1 大学院の3Pについて（教授のみ） 2 令和3年度後学期博士論文研究計画の審査について（審査結果報告）
13	12月7日	1 令和4年（2022年）度大学院学年暦について 2 博士論文審査体制について 3 大学院「進学」に係る「内規」の内容検討について

14	12月21日	<ul style="list-style-type: none"> 1 令和3年度修士論文審査体制（案）について 2 令和4年度長野県看護大学大学院科目等履修生募集要項（案）について 3 令和4年度長野県看護大学大学院研究生募集要項（案）について 4 アセスメントポリシーについて
15	1月18日	協議事項なし
16	2月1日	<ul style="list-style-type: none"> 1 令和4年度大学院博士前期課程入学試験（2次）結果について 2 令和4年度大学院博士後期課程入学試験（2次）結果について
17	2月15日	<ul style="list-style-type: none"> 1 休学願について 2 令和4年度大学院非常勤講師（案）について 3 長野県看護大学大学院学則の改正について 4 令和5年度大学院入学者選抜関係日程について 5 令和3年度博士前期（修士）課程の単位修得状況について 6 令和3年度修士論文審査結果について 7 令和3年度博士前期（修士）課程の学位授与について（投票） （教授のみ） 8 令和3年度後学期博士論文の審査結果及び最終試験結果報告について 9 令和3年度博士後期課程の学位授与について（投票）
18	3月1日	<ul style="list-style-type: none"> 1 長期履修在学期間の短縮について
19	3月15日	<ul style="list-style-type: none"> 1 退学願について 2 大学院研究生の研究期間延長について 3 博士前期課程の修得単位認定について 4 博士後期課程の修得単位認定について 5 カリキュラムマップについて （教授のみ） 6 研究科教員の学内審査結果について

<選択必修科目>

科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
教 育 学	1年前学期	2	30	英 会 話 演 習	3年前学期	1	30
教 育 心 理 学	1年後学期	2	30	英 語 文 化 研 究	3年前学期	1	30

<選択科目>

科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	1年前学期	1	15	論 理 学	3年前学期	1	15
心 理 学	1年前学期	2	30	運 動 理 論	3年前学期	1	15
社 会 学	1年前学期	2	30	医 事 法 学	3年前学期	1	15
数 の 話 と 教 養 数 学	1年前学期	1	15	助 産 概 論	3年前学期	1	15
信 州 学	1年前学期	1	15	国 際 看 護 学 I	3年前学期	2	30
独 語	1年前学期	1	15	国 際 看 護 学 II	3年前学期	1	15
生 命 科 学 演 習	1年後学期	1	30	国 際 看 護 実 習	3年後学期	2	90
哲 学	2年前学期	2	30	芸 術 と 人 間	3年後学期	2	30
文 化 人 類 学	2年前学期	2	30	地 域 母 子 保 健	3年後学期	1	15
経 済 学	2年前学期	2	30	仏 語	4年後学期	1	15
人 間 工 学	2年前学期	2	30	看 護 論	4年後学期	1	15
生 命 倫 理	2年後学期	1	15	看 護 教 育 論	4年後学期	2	30
法 学	2年後学期	2	30	エ ン カ ウ ン タ ー	4年後学期	1	30

(2) 臨地実習

学年	科 目 名	期 間	単 位
1	基礎看護実習Ⅰ	6月22日 ～ 6月24日	1
2	基礎看護実習Ⅱ	9月21日 ～ 10月4日 10月5日 ～ 10月15日	2
3	成人看護実習	9月27日 ～ 12月17日	4
	老年看護実習		4
	精神看護実習		3
	母性看護実習		2
	小児看護実習		3
	地域看護実習		4
	在宅看護実習		2
	国際看護実習(選択)		2月9日 ～ 3月4日
	助産実習(選択)	2月22日 ～ 3月1日	10
4	成人看護実習	5月10日 ～ 7月30日	4
	老年看護実習		4
	精神看護実習		3
	母性看護実習		2
	小児看護実習		3
	地域看護実習		4
	在宅看護実習		2
	看護統合実習	8月5日 ～ 8月11日	2
	助産実習(選択)	9月13日 ～ 12月9日	10

(3) 臨地実習施設

① 病院

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
昭和伊南総合病院	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ・Ⅱ、成人看護、在宅看護、小児看護、看護統合、看護管理	北アルプス医療センターあづみ病院	池田町	精神看護
伊那中央病院	伊那市	基礎看護Ⅰ・Ⅱ、成人看護、母性看護、小児看護、看護統合、看護管理、助産	こども病院	安曇野市	小児看護、助産
こころの医療センター駒ヶ根	駒ヶ根市	精神看護、在宅看護	下伊那赤十字病院	松川町	在宅看護
飯田病院	飯田市	精神看護	飯田市立病院	飯田市	基礎看護Ⅰ・Ⅱ、看護統合、看護管理、助産
伊那神経科病院	伊那市	精神看護	諏訪赤十字病院	諏訪市	基礎看護Ⅰ・Ⅱ、看護統合、助産
信州大学医学部附属病院	松本市	精神看護	丸の内病院	松本市	助産

② 保健・福祉施設

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
親愛の里シンフォニー	宮田村	精神看護	はびろの里	伊那市	老年看護
コスモスの家	伊那市	精神看護	すずたけ	伊那市	老年看護
はなみずきの郷	飯田市	精神看護	センテナリアン	高森町	老年看護
信濃医療福祉センター	下諏訪町	小児看護	子育て支援センターまあるくなれ♪	駒ヶ根市	母性看護
子育て支援センターきつづらんど	駒ヶ根市	母性看護			

③ 保健福祉事務所

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
諏訪保健福祉事務所	諏訪市	地域看護	飯田保健福祉事務所	飯田市	地域看護
伊那保健福祉事務所	伊那市	地域看護	木曾保健福祉事務所	木曾町	地域看護

④ 市町村

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
伊那市役所	伊那市	地域看護	宮田村役場	宮田村	地域看護
駒ヶ根市役所	駒ヶ根市	地域看護	木曾町役場	木曾町	地域看護
辰野町役場	辰野町	地域看護	上松町役場	上松町	地域看護
箕輪町役場	箕輪町	地域看護	南木曾町役場	南木曾町	地域看護
飯島町役場	飯島町	地域看護	大桑村役場	大桑村	地域看護
南箕輪村役場	南箕輪村	地域看護	木祖村役場	木祖村	地域看護

⑤ 訪問看護ステーション

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
伊南訪問看護ステーション	駒ヶ根市	在宅看護	伊那中央病院訪問看護ステーション	伊那市	在宅看護
訪問看護ステーションすずたけ	伊那市	在宅看護	下伊那赤十字訪問看護ステーション	松川町	在宅看護
訪問看護ステーションみどり	箕輪町	在宅看護	円会訪問看護ステーション	高森町	在宅看護
訪問看護ステーションみどり いな支所	伊那市	在宅看護	あち訪問看護ステーション	阿智村	在宅看護
介護センター花岡伊那店	伊那市	在宅看護			

⑥ 学校

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
伊那北小学校	伊那市	地域看護	箕輪北小学校	箕輪町	地域看護
新山小学校	伊那市	地域看護	宮田小学校	宮田村	地域看護
美篤小学校	伊那市	地域看護	伊那中学校	伊那市	地域看護
西春近北小学校	伊那市	地域看護	東部中学校	伊那市	地域看護
赤穂小学校	駒ヶ根市	地域看護	西箕輪中学校	伊那市	地域看護
赤穂南小学校	駒ヶ根市	地域看護	赤穂中学校	駒ヶ根市	地域看護
辰野西小学校	辰野町	地域看護	東中学校	駒ヶ根市	地域看護
箕輪西小学校	箕輪町	地域看護	箕輪中学校	箕輪町	地域看護

⑦ 保育園

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
赤穂保育園	駒ヶ根市	小児看護	すずらん保育園	駒ヶ根市	小児看護
飯坂保育園	駒ヶ根市	小児看護	桜ヶ丘保育園	駒ヶ根市	小児看護
北割保育園	駒ヶ根市	小児看護	福岡保育園	駒ヶ根市	小児看護
経塚保育園	駒ヶ根市	小児看護、母性看護			

第3節 研究科の教育活動

(1) カリキュラム

1) 授業科目

博士前期（修士）課程授業科目

領域	別分野	専攻	科目	授業科目	科目番号	単位数	学年別時間数				計
							1年		2年		
							前学期	後学期	前学期	後学期	
*領域	看護基礎	科学領域	必修科目	○看護倫理	3201	2	30(一部集中講義)				30
				○看護理論	3101	2	30(一部集中講義)				30
				○看護研究法	3102	2	30			30	
	基礎看護学	病態機能学分野	○病態機能学特論Ⅰ	3401	2	30				30	
			○病態機能学特論Ⅱ	3402	2	30			30		
			○病態機能学演習	3403	6		90		90		
		病態治療学分野	○病態治療学特論Ⅰ	3404	2	30				30	
			○病態治療学特論Ⅱ	3405	2	30			30		
			○病態治療学演習	3406	6		90		90		
	看護管理学分野	○基礎看護学特論Ⅰ	3411	2	30				30		
○基礎看護学特論Ⅱ		3412	2		30			30			
○基礎看護学演習Ⅰ		3413	6		90		90				
発達看護学領域	母性・助産看護学分野	○看護管理学・看護教育学特論Ⅰ	3414	2	30				30		
		○看護管理学・看護教育学特論Ⅱ	3415	2		30			30		
		○看護管理学・看護教育学演習Ⅰ	3416	6	90	90		180			
	小児看護学分野	○母性看護学特論Ⅰ	3242	2	30				30		
		○母性看護学特論Ⅱ	3243	2		30			30		
		○母性看護学演習Ⅰ	3251	6		90		90			
		○小児看護学特論Ⅰ	3252	2	30				30		
		○小児看護学特論Ⅱ	3253	2		30			30		
		○小児病態・治療特論	3254	2	30				30		
		○小児看護学演習Ⅰ・A	3247	2	30				30		
○小児看護学演習Ⅰ・B		3248	2			30		30			
○小児看護学演習Ⅰ・C	3249	2			30		30				
成人看護学分野	○小児看護学実習Ⅰ	3255	2		90			90			
	○小児看護学実習Ⅱ	3256	1		45			45			
	○小児看護学実習Ⅲ	3257	7			315		315			
広域看護学領域	老年看護学分野	○成人看護学特論Ⅰ	3222	2	30				30		
		○成人看護学特論Ⅱ	3223	2		30			30		
		○成人看護学演習Ⅰ	3235	6		90		90			
	精神看護学分野	○老年看護学特論Ⅰ	3225	2	30				30		
		○老年看護学特論Ⅱ	3226	2	30				30		
		○老年看護学特論Ⅲ	3234	2	30				30		
		○老年看護学特論Ⅳ	3236	2	30				30		
		○老年看護学演習Ⅰ・A	3227	2		60			60		
		○老年看護学演習Ⅰ・B	3231	2		60			60		
		○老年看護学演習Ⅰ・C	3232	2		60			60		
○老年看護学実習Ⅰ		3237	4		180			180			
○老年看護学実習Ⅱ	3238	4			180		180				
○老年看護学実習Ⅲ	3239	2			90		90				
地域・在宅看護学分野	○精神看護学特論Ⅰ	3228	2	30				30			
	○精神看護学特論Ⅱ	3229	2	30				30			
	○精神看護学特論Ⅲ	3421	2		30			30			
里山・遠隔看護学分野	○精神看護学演習Ⅰ・A	3422	2		60			60			
	○精神看護学演習Ⅰ・B	3423	2			60		60			
	○精神看護学演習Ⅰ・C	3424	2				60	60			
	○精神看護学実習	3425	10				450	450			
	○地域・在宅看護学特論Ⅰ	3431	2	30				30			
共通	選択必修科目	○地域・在宅看護学特論Ⅱ	3432	2	30				30		
		○地域・在宅看護学演習Ⅰ	3433	3	90			90			
		○地域・在宅看護学演習Ⅱ	3434	3		90		90			
共通		○里山・遠隔看護学特論Ⅰ	3441	2	30				30		
		△里山・遠隔看護学特論Ⅱ	3442	2	30				30		
		△里山・遠隔看護学特論Ⅲ	3443	2		30			30		
		○里山・遠隔看護学演習Ⅰ	3444	6		180			180		
		○看護学課題研究	3103	6			90	90	180		
		看護実践課題研究(専門看護師コース)	3104	2			30	30	60		
		看護学原論	3501	1	15				15		
		フィジカルアセスメント	3502	2	30(集中講義)				30		
		家族看護論	3503	1	15(一部集中講義)				15		
		健康心理学特論	3510	2		30			30		
		看護心理学	3511	2	30				30		
		質的研究方法論	3505	1	15				15		
		環境疫学特論	3304	1		15			15		
		言語文化特論Ⅰ	3506	2	30				30		
		保健・医療・福祉システム看護学特論Ⅰ	3307	2	30				30		
		量的研究方法論	3507	1		15			15		
		コミュニティー・デベロップメント論特論	3311	2	30(集中講義)				30		
		語法特殊講義	3314	2	30				30		
		看護海外研修	3315	1		15			15		
		看護臨床薬理学	3508	2	30				30		
臨床病態学	3509	2	30				30				
コンサルテーション論	3273	2		30			30				
看護管理学	3262	2	30				30				
看護教育・援助論	3261	2		30			30				
女性と子どもの健康問題と看護	3241	2		30			30				
遠隔看護論	3281	2		30			30				
国際看護論	3202	1	15				15				

博士後期課程授業科目

授業科目				科目 番号	単位数	時間数				
						1年		計		
						前学期	後学期			
領域別分野専門科目 (6単位)	基礎看護学領域	基礎看護学分野	基礎看護学特論Ⅲ	AI01	2	30		30		
			基礎看護学演習Ⅱ	AI02	4	120		120		
		看護管理学分野	看護管理学・看護教育学特論Ⅲ	AJ01	2	30		30		
			看護管理学・看護教育学演習Ⅱ	AJ02	4	120		120		
	発達看護学領域	母性・助産看護学分野	母性看護学特論Ⅲ	AC01	2	30		30		
			母性看護学演習Ⅱ	AC02	4	120		120		
		小児看護学分野	小児看護学特論Ⅲ	AF01	2	30		30		
			小児看護学演習Ⅱ	AF02	4	120		120		
		成人看護学分野	成人看護学特論Ⅲ	AB01	2	30		30		
			成人看護学演習Ⅱ	AB02	4	120		120		
	広域看護学領域	老年看護学分野	老年看護学特論Ⅳ	AB03	2	30		30		
			老年看護学演習Ⅱ	AB04	4	120		120		
		精神看護学分野	精神看護学特論Ⅳ	AB07	2	30		30		
			精神看護学演習Ⅱ	AB06	4	120		120		
		地域・在宅看護学分野	地域・在宅看護学特論Ⅲ	AG01	2	30		30		
			地域・在宅看護学演習Ⅲ	AG02	4	120		120		
		里山・遠隔看護学分野	里山・遠隔看護学特論Ⅳ	AH01	2	30		30		
			里山・遠隔看護学演習Ⅱ	AH02	4	120		120		
		共通選択科目 (4単位以上)			ケアの哲学	BA01	2	30		30
					健康心理学特講	BA17	2		30	30
			人類学的研究方法論	BA12	2	30		30		
			感染生物学特論	BA13	2		30	30		
			言語文化特講Ⅱ	BA05	2	30		30		
			健康科学特講	BA06	2		30	30		
			保健・医療・福祉システム看護学特講Ⅱ	BA14	2	30		30		
			国際看護援助論	BA10	2		30	30		
			生命科学特論	BA08	2	30		30		
			病理病態学特論	BA15	2	30		30		
			現象学的研究方法論	BA16	2	30		30		

第4節 看護実践国際研究センターの活動

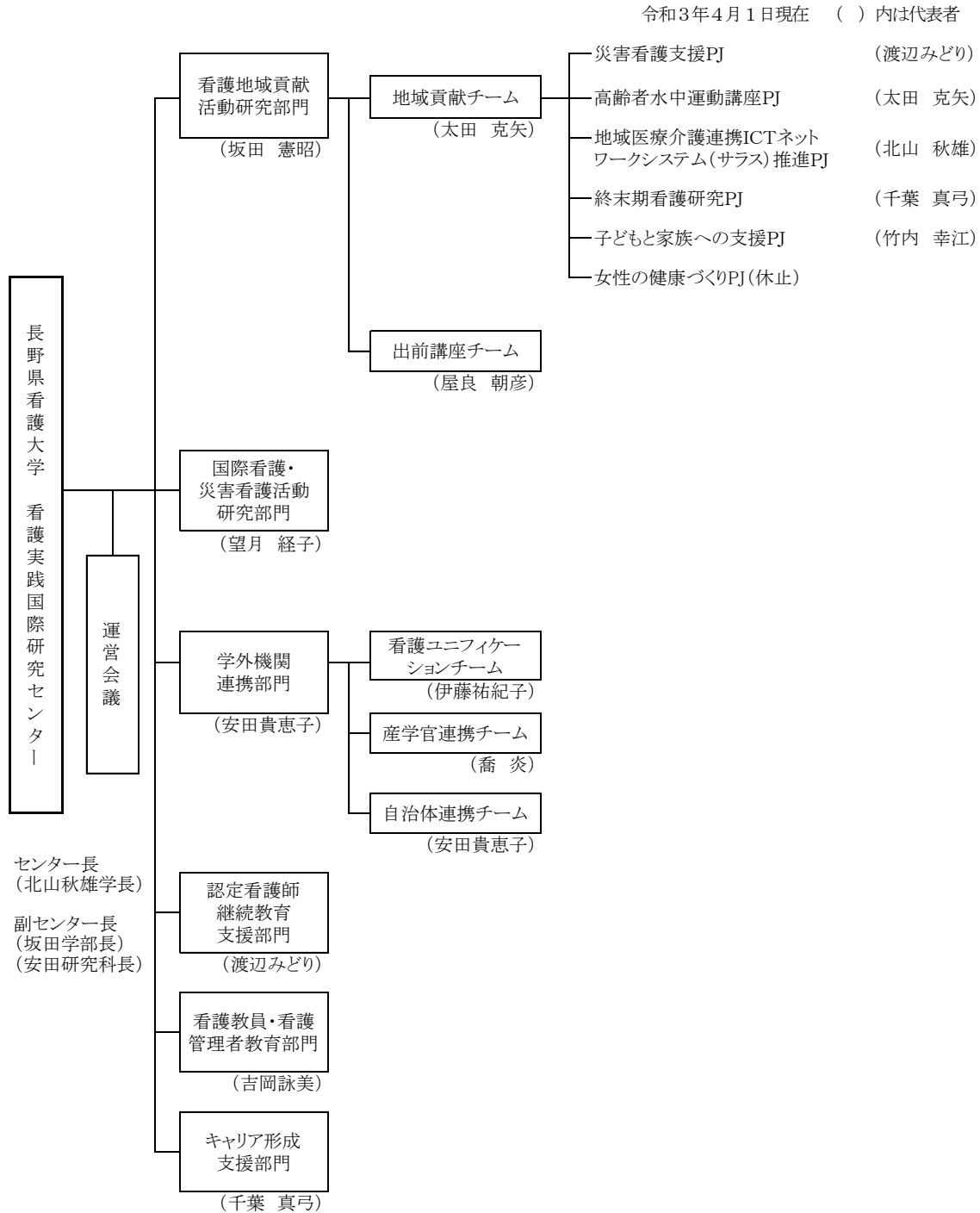
(1) 概要

看護実践国際研究センターは国際的視野の涵養を背景に置き、講座や分野などの専門的な枠を超えた研究実践活動部門として平成14年度に設置された。

令和3年度は、新たに皮膚・排泄ケア、感染管理、認知症看護の認定看護師教育課程の修了生に対する事業を行う認定看護師継続教育支援門を設置し、6つの部門で活動を行った。

各部門の活動の詳細については、大学公式ホームページに掲載する「看護実践国際研究センター実績報告書」で公表する。

長野県看護大学 看護実践国際研究センター 組織図



第3章 教員の研修・研究、社会活動

第1節 研修

1 国内研修

令和3年度に本学教員が国内で受けた研修は、延べ219件であった（表1）。

（表1）本学教員が受けた国内研修（五十音順）

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
足立美紀	令和3年6月	飯島町子育て支援講座「にじいろ子育て—個性を活かして★あんしん子育て—」	飯島町
	令和3年6月	第37回小児臨床アレルギー学会 教育セミナー8「移行期医療における現状と課題」	WEB
	令和3年6月	第68回日本小児保健協会学術集会 教育講演5「①胎児からはじめるアレルギー対策」「②子どものアトピー性皮膚炎の予防・治療戦略—スキンケアからプロアクティブ療法まで—」	WEB
	令和3年6月	日本小児看護学会第31回学術集会 テーマセッション3「小児間語学実習固有の学びとは？」	WEB
	令和3年7月	一般社団法人 日本家族計画協会「保健」や「保育」指導者応援セミナー「笑いの効果を考える～明日からの仕事のために～」	WEB
	令和3年8月	一般社団法人 日本家族計画協会 第1回 受援力発揮セミナー「あなたの「受援力」を引き出すことでレジリエンスを高める」	WEB
	令和3年10月	認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク 第16期アレルギー大学「上級レベル講座」	WEB
	令和3年10月	認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク 第16期アレルギー大学「中・上級実技講習（エビペン®・スキンケア等）」	WEB
	令和3年11月	認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク 第16期アレルギー大学「上級講座グループディスカッション」	WEB
	令和3年12月	信州大学子どもこころ診療部セミナー「子どものトラウマの理解とケア」	WEB
	令和4年2月	独立行政法人環境再生保全機構 アレルギー疾患講演会「アトピー性皮膚炎と食物アレルギー」	WEB
	令和4年2月	第28回アレルギー週間市民公開講座オンライン講演会「新型コロナウイルス感染症とアレルギー疾患」	WEB
	令和4年2月	第28回アレルギー週間市民公開講座オンライン講演会「アレルギー疾患の最新治療」	WEB
	令和3年4月～令和4年3月	gacco「患者教育スタッフ向けeラーニング《食物アレルギー編》」	WEB
	令和3年4月～令和4年3月	gacco「患者教育スタッフ向けeラーニング《アトピー性皮膚炎編》」	WEB
令和3年3月～令和4年3月	gacco「患者教育スタッフ向けeラーニング《小児気管支ぜん息編》」	WEB	
有賀智也	令和3年12月	第41回日本看護科学学会学術集会（4～5日）	WEB
	令和4年1月	認知症疾患医療センター研修会	WEB
有賀美恵子	令和3年8月	令和3年度大学基準協会大学・短期大学スタディー・プログラム「内部質保証の基本的な意味・考え方と、学部・研究科レベルの点検・評価」	WEB
	令和3年10月	質的研究の進め方 基本習得～グラウンデッド・セオリーの視座から～	WEB
	令和3年11月	グラウンデッド・セオリーの実践	WEB
	令和4年3月	JANPU・JABNE 説明会・報告会・研修会 「2022年度高度実践看護師教育課程申請に向けた説明会」	WEB
伊藤郁恵	令和3年5月	日本看護倫理学会 第14回年次大会	WEB
	令和3年9月	日本老年看護学会 第1回教育セミナー Let's try a Systematic Review! Part1 ～基礎編～	WEB

	令和3年10月	フロンティアセミナー／認定看護師のためのスキルアップセミナー 看護を語る～日々の看護実践をことばに載せて～	WEB
	令和3年12月	紛争下での看護	WEB
伊藤佑季	令和3年9月	2021年度 最新がん看護研修 がんゲノム医療 (日本がん看護学会 教育・研究活動委員会主催)	WEB
	令和3年10月 ～11月	第168回ホスピスケア研究会「AYA世代がん患者への終末期の治療 とケアを考える」	WEB
	令和3年11月	第17回長野県緩和医療研究会 医療者のための緩和ケア講演会「看護 専門職として、目指し続けたいこと」	WEB
	令和3年11月	第5回医療職のための統計セミナー 「何度でも学びたい量的研究に 必要な基礎知識」	WEB
伊藤祐紀子	令和3年5月 令和4年2月	TEA サロン	WEB
	令和3年9月	看護ユニフィケーション相互研修事業 研修会「実習経験の乏しい学 生の学びを促進する実習場面の教材化」講師：池西 静江 (Office Kyo Shien 代表)	WEB
	令和3年9月	EBSCO オンライン研修会	WEB
	令和4年2月	医学哲学医学倫理学会セミナー	WEB
	令和4年3月	研究倫理研修会	WEB
	令和4年3月	アカデミックリテラシー研修会	WEB
井本英津子	令和3年8月	第25回日本看護管理学会学術集会	WEB
浦野理香	令和3年12月	市民シンポジウム：糖尿病患者の“生きづらさ”について考える～医 学、社会学、文化人類学、臨床心理学、そして当事者の立場から～	WEB
	令和4年2月	日本ニューロサイエンス看護学会主催 第10回脳神経看護セミナー 脳神経患者の生活を支えるケア～活動と休息のバランスを整えよう ～	WEB
江頭有夏	令和3年12月	第41回日本看護科学学会学術集会	WEB
	令和4年2月	第10回脳神経看護セミナー 脳神経看護患者の生活を支えるケア ～活動と休息のバランスを整えよう～	WEB
大曾根由季	令和4年2月	日本精神科看護協会長野県支部研修 他科に誇れる精神科看護の専 門技術 MSE	WEB
	令和4年3月	日本精神科看護協会研修 アサーション	WEB
	令和4年3月	日本精神科看護協会研修 摂食障害の理解とケア	WEB
	令和4年3月	日本精神科看護協会研修 精神科看護職による地域づくり	WEB
太田克矢	令和4年3月	第32回日本医学看護学教育学会学術学会	WEB
小口翔平	令和4年1月	第34回がん放射線治療看護セミナー	WEB
	令和3年12月 ～令和4年1月	JJNS セミナー「Improving Your Success at Publishing in English 2021」	WEB
小野塚元子	令和3年11月	第11回日本在宅看護学会学術集会	WEB
	令和3年12月	第41回日本看護科学学会学術集会	WEB
	令和4年1月	世界アルツハイマー記念講演会 2021	WEB
	令和4年1月	令和3年度認知症疾患医療センター研修会	WEB
上條明生	令和3年4月	脳卒中フェスティバル オンライン講演	WEB
	令和3年6月	第50回長野県理学療法学会学術大会	WEB
	令和3年8月	信州しおじり 本の寺子屋 養老孟司講演会	WEB
	令和3年9月	第23回日本褥瘡学会	WEB

	令和3年12月	JOPA オンラインセミナー 生命科学・情報科学	WEB
	令和3年12月	第25回日本ワクチン学会学術集会	軽井沢町
上條こずえ	令和3年4月	東京大学ファカルティ・ディベロップメント インタラクティブティーチング	WEB
	令和4年1月	日本看護研修学会研究倫理委員会主催 利益相反と利益相反管理	WEB
	令和4年2月	令和3年度大学改革支援・学位授与機構 大学等の質保証人材育成セミナー「学習成果の公正な測定：その現状とポストコロナにおける課題」	WEB
	令和4年2月	2021年度全国公正研究推進会議～情報と社会：研究倫理の立場から～	WEB
柄澤邦江	令和3年4月	第17回 JANS セミナー「看護学研究の社会実装：インプリテーション研究とデータサイエンスの潮流」	WEB
	令和3年6月	日本生活学会 第48回研究大会基調講演「COVID-19 これまで、そしてこれから」	WEB
	令和3年8月	大学基準協会 令和3年度大学・短期大学スタディ・プログラム「内部質保証の基本的な意味・考え方と、学部・研究科レベルの点検・評価」	WEB
	令和3年9月	第18回 JANS セミナー「学術の変革をもたらすリサーチ・マインドを高めよう！」	WEB
	令和3年9月	日本在宅看護学会 E-learning	WEB
	令和3年11月	厚生労働統計協会「第5回医療職のための統計セミナー①～⑥」	WEB
河内浩美	令和3年8月	学生指導にも保健指導にも活用できる動機づけ面接	WEB
	令和3年10月	ユースフレンドリーな対応を学ぶセミナー	WEB
	令和3年10月	令和3年度 日本助産師会 南北関東地区研修会	WEB
	令和3年11月	令和3年度 長野県 性に関する指導・がん教育ミニ研修会	WEB
	令和4年1月	産前産後のカラダの変化と骨盤ケア～病態生理に基づいた骨盤ベルトの使用方法～	WEB
	令和4年1月	令和3年度 災福ネットセミナー	WEB
	令和4年1月	母子保健指導者研修会 新型出生前診断の基本的な知識 コロナ禍における妊産婦のメンタルヘルス	WEB
	令和4年2月	長野県助産師会 安全管理研修会 有効的な安全管理体制と安全を遂行するために大切なこと	WEB
	令和4年3月	新時代の助産師教育 ハイリスクに対応できる助産師の育成	WEB
令和4年3月	第36回日本助産学会学術集会	WEB	
熊谷理恵	令和3年10月	第2回日本リサーチナースフォーラム	WEB
	令和4年1月	第34回がん放射線治療看護セミナー	WEB
	令和4年2月	第35回日本がん看護学会学術集会	WEB
小原綾香	令和3年6月	にじいろ子育て相談	飯島町
	令和3年8月	日本看護教育学会	WEB
	令和3年8月	カテ子ネット「先天性心疾患の子どもへの看護実践」	WEB
近藤恵子	令和3年7月	第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会	WEB
	令和3年8月	IR フォーラム（変革する大学、学修する成果の可視化と教学マネジメントの取り組み）	WEB
	令和3年10月	コンパテックセミナー：バイオフィルムと創傷管理	WEB
	令和3年11月	医療マネジメント「チーム医療を横断的に理解する」	WEB
	令和4年1月	白十字株式会社主催：在宅で遭遇する皮膚疾患の治療・ケアマネジメント	WEB

	令和4年2月	第39回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会	WEB
	令和4年3月	マルホ株式会社主催：がん治療に伴う皮膚傷害	WEB
酒井久美子	令和3年4月	信州公衆衛生学会「新型コロナウイルス感染症特別シンポジウム」	WEB
	令和3年12月	令和3年度県職員対象ゲートキーパー研修	WEB
	令和4年1月	こころの医療センター駒ヶ根 認知症疾患センター研修会	WEB
	令和4年1月	第10回日本公衆衛生看護学会学術集会	WEB
坂本希世	令和3年6月	日本助産学会 遠隔配信研修 プレコンセプションケア：思春期・若年成人男性のセクシャリティへの支援を考える	WEB
	令和3年8月	IR フォーラム 「変革する大学！ 学修成果の可視化と数学マネジメントの取組～『学修者本位の教育』の実践と、データに基づく教育改善・入試改革の事例～」	WEB
	令和3年9月	令和3年度 大学質保証フォーラム オンライン教育の支援と質保証ーコロナ時代を越えてー	WEB
	令和3年10月	第134回臨床実践の現象学研究	WEB
	令和3年12月	第41回日本看護科学学会学術集会	WEB
	令和3年12月	日本学術会議 公開シンポジウム With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組みー子育てをしながら働き、働きながら暮らすための地域共生社会ー	WEB
	令和3年12月	JSPS 男女共同参画シンポジウム 研究とライフイベントの両立へのヒントがここに！	WEB
	令和4年3月	日本質的心理学会 研究交流委員企画 はじめてのオートエスノグラ	WEB
	令和4年3月	次世代リーダーシップ研究者円卓会議	WEB
	令和4年3月	第36回日本助産学会学術集会	WEB
	令和4年3月	日本質的心理学会 研究交流委員企画 世界を見ることを学びなおすー臨床実践の哲学からー	WEB
下村聡子	令和3年8月～9月	日本地域看護学会第24回学術集会	WEB
	令和3年11月	令和3年度 第1回 大学間連携による地域看護学教育ファカルティディベロップメント戦略会議	WEB
	令和3年11月	アウトリーチ講座連続公開講演会第2回「人は人の中で人になるー世代をこえて、違いをこえてー」	駒ヶ根市
	令和3年12月	信大子どものこころ診療部セミナー「子どものトラウマの理解とケア」	WEB
	令和3年12月	アウトリーチ講座連続公開講演会第3回「聴くということー彼らのつぶやき抄ー」	飯島町
	令和4年1月	第10回日本公衆衛生看護学会学術集会	WEB
白井 史	令和3年7月	第14回近畿小児血液・がん研究会看護部門講演会「AYA世代のがん患者の妊孕性温存について」	WEB
	令和3年8月	日本小児がん看護学会第17回小児がん看護研修会「発達的な視点を持ちながら小児がんの子どもと関わっていますか？」	WEB
	令和3年12月	信州大学 子どものこころ診療部セミナー「子どものトラウマの理解とケア」	WEB
	令和4年2月	第1回長野県移行期医療シンポジウム「みんなで知ろう・つながろう移行期医療」	WEB
	令和4年2月	日本がん看護学会 2021年度研修「最新がん看護研修」	WEB
	令和4年3月	「AYA世代がん患者に対する精神心理的支援プログラムおよび高校教育の提供方法の開発と実用化に関する研究」公開シンポジウム	WEB

	令和4年3月	NPO 法人福岡子どもホスピスプロジェクト 2021 年度研修会 大切な人と死別した子どものグリーフについて知ろうー子どもたちと関わる現場からー	WEB
水主洋子	令和3年4月	日本助産師実践能力推進協議会「意思決定支援」	WEB
	令和3年5月	ナイチンゲール看護研究会・滋賀「ナイチンゲールの看護思想と新型コロナウイルス感染症感染症ー換気をめぐってー」	WEB
	令和3年8月	ハイブリッド方式で「双方向授業を成功」させるコツーアプリ使って授業をたのしく！ー	本学
	令和3年8月	ハラスメント防止研修会 大学に置けるハラスメント防止研究	本学
	令和3年9月	臨地実習経験の乏しい学生の学びを促進する実習場面の教材化～発問・内容の整理・仲間との共有など効果的な支援方法について～	本学
	令和3年9月	日本看護協会「臨床病態生理」	WEB
	令和3年11月	ナイチンゲール看護研究会・滋賀「ナイチンゲール看護研究会」	WEB
	令和4年1月	公益社団法人全国助産師教育協議会「分娩期シミュレーション教育の導入ー基本的な考え方と事例ー」	WEB
	令和4年3月	第36回日本助産学会学術集会「産婦人科医が取り組むセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツの問題点」	WEB
	令和4年3月	第36回日本助産学会学術集会「(若年) 女性のエネルギー不足」	WEB
	令和4年3月	第36回日本助産学会学術集会「大切な人の「想い」とともに」112日間のママ」	WEB
	令和4年3月	第36回日本助産学会学術集会「助産師が行う避妊教育・相談の意義(避妊教育・相談ワーキング)」	WEB
	令和4年3月	第36回日本助産学会学術集会「災害に備える助産師のための減災ドリル」(旧:減災カレンダー助産師版)の活用方法(災害対策委員会)」	WEB
	令和4年3月	第36回日本助産学会学術集会「親になること」	WEB
	令和4年3月	公益社団法人全国助産師教育協議会「男性不妊について」	WEB
	令和4年3月	公益社団法人全国助産師教育協議会「産科エマージェンシー臨床推論の基礎」	WEB
	令和4年3月	公益社団法人全国助産師教育協議会「産むということー女性の主体性を引き出す助産師の関りー」	WEB
	令和4年3月	公益社団法人全国助産師教育協議会「学生の能動的な学びをサポートする教育者のありかた」	WEB
	令和4年3月	公益社団法人全国助産師教育協議会「これからの助産師に求められること」	WEB
	曾根千賀子	令和3年4月	Clarivate Web of Science「伝わる英文タイトル・アブストラクトを書くコツ」
令和3年4月		認知症ケアを考える会「新型コロナウイルス予防に対して私たちが今できること:パート2」	WEB
令和3年4月		高齢者ケア看護研究会「こんなときだからこそ、認知症の人とともに私たちができること」	WEB
令和3年5月		考える読書会「進化する身体 筋ジストロフィー病棟における語りの現象学」合評会」	WEB
令和3年5月		Clarivate Web of Science「本当にインパクトのある論文を読んでいますか？」	WEB
令和3年7月		認知症ケアを考える会「新型コロナウイルス予防に対して私たちが今できること:パート3」	WEB
令和3年8月		長野県看護大学「ハラスメント防止研修会 eラーニング」	WEB
令和3年8月		長野県看護大学「ハイブリッド常識で「双方向授業」を成功させるコツーアプリを使って授業をたのしく！」	WEB
令和3年9月		Clarivate Web of Science「英語論文アブストラクト執筆が上手くなる5つの表現チェックポイント」	WEB

	令和3年9月	兵庫県立大学がんプロセミナー「認知症をもつがん患者のケア、意思決定支援」	WEB
	令和3年9月	長野県看護大学「臨地実習経験の乏しい学生の学びを促進する実習場面の教材化～発問・内容の整理・仲間との共有など効果的な支援方法について～」	WEB
	令和3年11月	京都大学ウェルネス研究会「当事者が語る覚醒剤中毒の怖さ」	WEB
	令和3年11月	認知症ケアを考える会「新型コロナウイルス（Covid-19）予防に対して私たちが今できること：パート4 With コロナ時代に地域から発信する認知症ケアの新しい取り組み」	WEB
	令和3年11月	睡眠マネジメントセミナー「ナースの負担が減る！明日からできる高齢者睡眠マネジメント」	WEB
	令和3年12月	日本学術会議公開シンポジウム「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み-子育てをしながら働き、働きながら暮らすための地域共生社会-」	WEB
	令和3年12月	日本看護系学会協議会「看護ケアガイドラインの開発普及の推進」	WEB
	令和4年1月	日本看護倫理学会「身体拘束を始めないための看護管理」	WEB
	令和4年2月	日本ニューロサイエンス看護学会「脳神経患者の生活を支えるケア～活動と休息のバランスを整えよう～」	WEB
	令和4年2月	認知症ケアを考える会「新型コロナウイルス（Covid-19）予防に対して私たちが今できること：パート5 身体拘束最小化を推進する取り組み」	WEB
	令和4年3月	Editage- Rdiscovery「効果的な研究論文検索・読み方：研究の最新情報を入手するためのTips」	WEB
	令和4年3月	第19回 JANS セミナー「質の高い研究の統合からよりよい看護実践を導く：診療ガイドラインの作成と統合研究」	WEB
高橋百合子	令和3年9月	ATDのレジェンダリースピーカー『ボブ・パイク』氏から直接学ぶ！結果につなげるための「参加者を主体的にさせる手法」とは	WEB
	令和3年9月	いま全教職員に捧ぐ！奇跡の高等教育を呼ぶ魔法の杖「インストラクショナルデザイン（ID）」	WEB
	令和3年10月	NPO 法人親子の未来を支える会「学校における医療的ケア児の災害時の対応」	WEB
	令和3年11月	第5回 医療職のための統計セミナー 何度でも学びたい量的研究に必要な基礎知識	WEB
	令和3年11月	日本子どもフォーラム ～子どもの権利を基盤とした子ども施策の実現に向けて～	WEB
	令和3年12月	信大子どものこころ診療部セミナー「子どものトラウマの理解とケア」	WEB
	令和4年1月	放送大学 オンライン講演会「人類史的視点からのレジリエンス（危機を生きぬく知）」	WEB
	令和4年2月	第1回長野県移行期医療シンポジウム	WEB
中畑千夏子	令和3年6月	東京都看護協会 産業看護師・保健師のための企業における新型コロナワクチン集団接種準備セミナー	WEB
	令和4年2月	日本看護協会 特定行為研修シンポジウム	WEB
那須淳子	令和4年3月	全国キャラバン研修会「エビデンスに基づく移動動作技術の技」	WEB
藤澤紀子	令和3年9月	実習FD/看護ユニフケーション合同研修	WEB
	令和3年9月	看護学系学術文献情報検索データベース CINAHL with Full Text 講習会	WEB
	令和3年10月	産科における母体救急とその対応	WEB
	令和4年1月	JICA 母子保健サブネットワーク「人間的なお産」から学ぶ質の高いケアの展開に向けて	WEB

	令和4年2月	第1回駒ヶ根フォーラム「発展途上国に対する母子保健の協力」～ローカルリソースを活用した取り組み～	WEB
細田江美	令和3年4月	高齢者ケア看護研究会研修会 こんな時だからこそ認知症の人とともに私たちができること	WEB
	令和3年6月	東京都看護協会主催 新型コロナワクチン集団接種準備セミナー	WEB
	令和3年9月	メディカ LIBRARY オンラインセミナー あやうくキレるとこだった… ナースにおくる対人関係がちよっとラクになる 60分	WEB
	令和3年10月	メディカ LIBRARY オンラインセミナー あやうくキレるとこだった… ナースにおくる対人関係がちよっとラクになる 60分 パートII	WEB
	令和4年1月	こころの医療センター駒ヶ根 認知症疾患センター研修会	WEB
	松本淳子	令和3年9月	日本心理学会第85回大会チュートリアル・ワークショップ「2Dアニメーションソフト Cavalry で動く錯視を作る」
令和3年9月		日本心理学会第85回大会チュートリアル・ワークショップ「exkumaで始める経験サンプリング法(入門編)」	WEB
令和3年9月		日本心理学会第85回大会チュートリアル・ワークショップ「J-LIWC2015による日本語テキスト解析」	WEB
令和3年9月		日本心理学会第85回大会チュートリアル・ワークショップ「再現可能な日本語論文執筆入門 jpaRmd で実現する再現可能で低コストな日本語論文執筆のはじめの一歩」	WEB
令和3年9月		日本心理学会第85回大会チュートリアル・ワークショップ「コンサルテーションの実践技術ー学校教育・高等教育・福祉領域・産業労働における対面から遠隔心理学を利用したコンサルテーションを見据えてー」	WEB
令和3年9月		日本心理学会第85回大会チュートリアル・ワークショップ「マインドフルネス認知療法入門」	WEB
令和3年9月		日本心理学会第85回大会チュートリアル・ワークショップ「教師のエンゲージメントを促す教育相談研修の試み」	WEB
令和3年11月		日本音楽知覚認知学会 2021年度秋季研究発表会チュートリアル「録音のための基礎知識」	WEB
御子柴裕子	令和3年4月	信州公衆衛生学会「新型コロナウイルス感染症特別シンポジウム」	WEB
	令和3年6月	日本生活学会第48回研究大会シンポジウム「COVID-19 これまで、そしてこれから」	WEB
	令和3年8月	第64回全国医学生ゼミナール in 信州講演会「ポストコロナの世界と医療」	WEB
	令和3年8月	第18回 JANS セミナー「学術の変革をもたらすリサーチ・マインドを高めよう！」	WEB
	令和3年9月	日本臨床発達心理士会第17回全国大会公開講演「新版K式発達検査2020ー成り立ち・役割・これからの課題ー」	WEB
	令和3年9月	みんなで考えるアニマルウェルフェアを普及させるための第一歩！シンポジウム&ワークショップ第1回【生産者との対話】	WEB
	令和3年10月	みんなで考えるアニマルウェルフェアを普及させるための第一歩！シンポジウム&ワークショップ第2回【消費者との対話】	松本市
	令和3年12月	日本看護科学学会第41回学術集会 Web 市民公開講座「感染症流行時の災害に備えるー社会的弱者の安全と健康を守るー」	WEB
	令和3年12月	JJNS Seminar 「Improving Your Success at Publishing in English 2021」	WEB
	令和3年12月	みんなで考えるアニマルウェルフェアを普及させるための第一歩！シンポジウム&ワークショップ第3回【企業との対話】	WEB

	令和3年12月	令和3年度県職員対象ゲートキーパー研修	WEB
	令和4年2月	令和3年度人権啓発講演会「新型コロナウイルス感染症と人権」	WEB
安田貴恵子	令和3年7月	日本家族看護学会オンラインセミナー基礎編「多様化する家族への理解を深めよう」	WEB
	令和3年11月	日本家族看護学会実践促進委員会「家族カウンセリング入門」パート2	WEB
	令和4年3月	第3回全国公衆衛生関連学協会連絡協議会「わが国の公衆衛生の重要課題を考える」	WEB
	令和4年3月	日本看護系大学協議会研修会「新たな感染症の時代の看護教育特別ワーキンググループ成果報告」「都道府県の看護系大学連携を推進する体制づくり」	WEB
屋良朝彦	毎月1回	信州グループ研究会（精神療法の研究会）	駒ヶ根市
	令和3年9月	現象学的看護研究方法研修会（屋良科研主催）	本学
	令和3年10月	第33回日本集団精神療法学会主催研修会 入門コース	WEB
	令和3年11月	第14回臨床倫理ワークショップ	WEB
	令和4年3月	長野県看護大学・研究倫理研修会（倫理委員会主催）	本学
横山仁美	令和3年4月	高齢者ケア看護研究会研修会	WEB
	令和3年6月	日本老年看護学会第26回学術集会	WEB
	令和3年8月	日本認知症ケア学会第22回大会	WEB
	令和3年11月	老年看護学会主催 認知症対応力向上研修	WEB
	令和4年1月	日本看護倫理学会主催 身体拘束を始めないための看護管理	WEB
	令和4年2月	日本ニューロサイエンス看護学会主催 脳神経患者の生活を支えるケア～活動と休息のバランスを整えよう～	WEB
	令和4年2月	認知症ケアを考える会 新型コロナウイルス予防に対して私たちが今できること：パート5～身体拘束最小化を推進する取り組み	WEB
	令和4年2月	老年看護学会主催 語ろう！With/After コロナの老年看護学教育と実践の連携に向けた取り組み	WEB
	令和4年3月	心豊かな看取り支援 希望する場所でいつまでも～最期まで心豊かで穏やかに～	WEB
	令和4年3月	世界を見ることを学びなおすー臨床実践の哲学からー	WEB

2 国外研修

令和3年度に本学教員が国外で受けた研修は、5件であった。

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
曾根千賀子	令和3年4月	What Did Bioethics Contribute to the COVID-19 Pandemic Response? A Retrospective (WILEY)	WEB
	令和3年5月	Ethical issues in peer review (WILEY)	WEB
	令和3年8月	How to write a scientific abstract (WILEY)	WEB
	令和3年8月	Grant application and funding (CACTUS)	WEB
	令和3年9月	Pandemic Ethics & Care Conference The 21st International Nursing Ethics Conference and the 6th International Care Ethics Conference	WEB

第2節 研究活動

1 助成金による研究活動

(1) 文部科学省及び日本学術振興会が所管する科学研究費による研究

令和3年度に科学研究費助成事業の助成を受けて行った研究は15件であった。

継続研究は10件、新規の研究は5件であった。(表2・3)

(表2) 令和3年度科学研究費助成事業の採択等の状況

	新規・継続			左記のうち新規			補助金額 (千円)
	応募件数	採択件数	採択率	応募件数	採択件数	採択率	
本学応募採択分①	29	15	51.7%	19	5	26.3%	12,800
転出分②		0			0		0
転入分③		0			0		0
本学執行分①-②+③		15			5		12,800

(表3) 令和3年度に科学研究費助成事業の助成を受けて行った本学の研究

研究種目	研究代表者	研究期間	研究課題名
基盤研究(B)	喬 炎	R3～R6年度	最先端のAI認証とセンシング技術を活用した褥瘡早期診断システムの開発
基盤研究(C)	有賀美恵子	R3～R7年度	心の健康問題を抱える高校生への多職種協働支援－教育現場における早期介入に向けて－
	曾根千賀子	R3～R6年度	一般病院の認知症高齢者に対する看護チーム力向上へのコンサルテーション介入の有用性
	柄澤邦江	R3～R6年度	終末期療養者への訪問看護師と訪問介護従事者の連携・協働による支援モデルの開発
	小口翔平	R3～R6年度	看護師の多重課題遂行能力を獲得・向上するための教育プログラムの開発と有用性の検証
	西垣内磨留美	R2～R4年度	看護系大学院生のための英文要約作成支援アプリの実効性の検討と公開
	太田克矢	R2～R5年度	看護学生の理科的基礎知識の現状と教授方法の検討
	中畑千夏子	R2～R4年度	新生児における常在細菌の獲得と形成に関わる基礎的研究
	江頭有夏	R2～R5年度	一般病院入院高齢患者に対する「身体拘束解除のための教育プログラム」の開発
	安田貴恵子	R2～R5年度	多機関多職種で展開する軽度認知症システムの市町村マネジメントモデル
	屋良朝彦	R元～R3年度	精神障害者の地域定着のための対話技法の開発:精神医療倫理の基礎研究として
	井本英津子	R元～R3年度	ジェネラリストナースのノンテクニカルスキルの評価指標の開発と組織支援の検討
	高橋百合子	R元～R4年度	慢性疾患をもつ子どもと家族のニーズをとらえるための外来看護実践ガイドの開発
	細田江美	H30～R3年度	認知症者のセルフマネジメント力を支えるケアプログラムの作成と有効性の検討
有賀美恵子	H29～R3年度 (期間延長)	精神疾患が疑われる高校生への早期介入に向けた学校・専門多職種連携支援モデルの開発	

	田中真木	H29～R 3 年度 (期間延長)	日本の基礎看護教育における倫理的感受性育成プログラム開発－ アジア諸国の比較研究－
	伊藤祐紀子	H30～R 3 年度 (期間延長)	「看護する身体」を育成する教育プログラムの開発～現状調査と学 生の学びの質的研究～
	柳原清子	H30～R 3 年度 (期間延長)	多死時代の「生き方・生き場所」を支える家族調整スキル開発と ICT を用いた普及
	安田貴恵子	H29～R 3 年度 (期間延長)	認知症ケア初動期の集中支援システムが予防機能を発揮するため のマネジメント指針
	那須 裕	H28～R 3 年度 (期間延長)	中山間地域において 16 年間継続してきた高齢者水中運動講座の 効果の縦断的検証
	柄澤邦江	H28～R 3 年度 (期間延長)	がん終末期独居高齢者の在宅看取りを可能とするための訪問看護 の実践と医療・介護連携
研究活動ス タート支援	伊藤郁恵	H30～R 3 年度 (期間延長)	看護師の倫理観形成プロセスに関する研究－新人看護師の倫理観 と倫理観を育む要因－
若手研究 (B)	足立美紀	H29～R 3 年度 (期間延長)	食物アレルギーを有する学童・思春期の子どもの自己管理への支 援の検討
	熊谷理恵	H26～R 3 年度 (期間延長)	がん臨床試験に参加する再発・進行がん患者の意思決定を支援す る看護プログラムの開発
若手研究	吉岡詠美	R 2～R 4 年度	看護師の倫理的行動獲得モデルの精緻化と臨床ラダーごとの 組織支援方法の検討

(2) 長野県看護大学特別研究費による研究

令和 3 年度に長野県看護大学特別研究費で行った研究は、4 件であった。(表 4)

継続研究は 1 件、新規の研究は 3 件であった。

(表 4) 令和 3 年度に長野県看護大学特別研究費で行った研究

研究代表者	研究期間	研究課題名
北山秋雄	R 2～R 3 年度	最先端遠隔ケアシステムによる AI を用いた認知症の早期発見システムの 開発
喬 炎	R 3 年度	Microclimate の調節による褥瘡の予防効果
松本淳子	R 3～R 4 年度	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行下における会話の変化
林 陽子	R 3～R 4 年度	ストレスマネジメント能力の向上を目指した看護学実習におけるストレス 要因尺度の開発と教育支援の検討

(3) 県内看護職者との共同研究

令和3年度に県内看護職者との共同研究費で行った研究は2件であった。(表5)
継続研究は1件、新規の研究は1件であった。

(表5) 令和3年度に県内看護職者との共同研究費補助金を受けて行った研究

研究代表者	研究期間	研究課題名	担当教員 (代表)
北原佐津貴 (伊那中央病院)	R2～R3年度	行動変容につながる院内集合研修の方法及び評価方法の検討	高橋百合子
有賀つばさ (伊那中央病院)	R3～R4年度	急性期病院における認知症高齢者への身体抑制の早期解除に向けた取り組み	曾根千賀子

(4) その他助成金による研究

令和3年度にその他の助成金を受けて行った研究は2件であった。(表6)

(表6) 令和3年度にその他の助成金を受けて行った研究

助成金名称	研究代表者	研究期間	研究課題名
共同研究費	喬 炎	H30～R3年度	在宅看護介護用センシング技術の褥瘡診断装置の開発に関する共同研究
共同研究費	喬 炎	R元～R3年度	納豆菌膜の長期経口摂取による皮膚紫外線傷害の予防効果

2 分野の研究活動

分野	研究題名	研究内容
老年看護学分野	認知症看護認定看護師が活動する上で支えている内容の把握	認知症看護認定看護師 (DCN) が自身の活動する上で支えている内容 (人的資源、これまでの支援、支援内容のニーズ) についての現状を把握することを目的とし 840 名を対象とし、無記名自記式質問調査を行った結果、「困難や悩みが生じた場合の相談相手」は、「CN 教育課程の教員」および「自施設内での CN・看護師・上司以外の医療従事者」が 234 名 (81.8%) と最も多かった。その他「CN 教育機関から受けた支援」は、「講師の紹介」268 名 (93.7%) が最も多く、「CN 教育機関に対して望む支援」は、「講師の紹介」221 名 (77.3%)、「教育機関内施設の利用」207 名 (72.4%)、「研究活動に関する相談、指導」138 名 (48.3%) などが確認できた。DCN が活動する上で生じる課題において、困難や悩みへの相談相手を得ている現状があることが窺えた。DCN が活動内容の充実・拡充を図る上でこれまでの人的資源とサポート体制を活用していることも現状として明らかになった。 (2021 年 7 月 10~11 日、第 34 回日本看護福祉学会学術大会で発表)

3 その他研究活動

助成金を受けて行った研究活動以外の本学の研究活動については、以下のとおり。

(1) 書籍等出版物 (五十音順)

氏名	内容
井本英津子	看護管理用語集 (第 3 版) 編) 日本看護管理学会学術情報委員会 (担当:リフレクション) 日本看護協会出版会 2021 年 11 月
上條明生	生体機能を反映させた細胞組織形態解析のための光学・電子顕微鏡試料作製法 寺田信生、齊藤百合花、大野伸彦、上條明生、亀谷清和、鈴木龍雄、大野伸一 (担当:分担執筆) 2021 年 8 月
座馬耕一郎	離合集散が織りなす集団の動態: ヒトとチンパンジーの社会にみる概日性多相集団. 河合香吏 編「関わる・認める」京都大学学術出版会. pp. 237-267 2022 年 1 月
田中真木	調和の処方箋—介護・人間関係の問題を解決するコミュニケーション— ショウ・アオヤギ (著)、田中真木 (監修)、安田 豊 (企画)、田中美恵子他 (翻訳) (担当: 監修) みらいパブリッシング 2021 年 4 月

(2) 論文 (五十音順)

氏名	内容
青木駿介	在宅パーキンソン病患者の疾病自己管理状況と抑うつ症状の実態 安東由佳子、奥田鈴美、青木駿介、小林敏生 日本看護研究学会雑誌 44(1) 123-133 2021 年 4 月
秋山 剛	Status of School Health Programs in Asia: National Policy and Implementation Rie Ogasawara, Hiroshi Yamanaka, Jun Kobayashi, Sachi Tomokawa, Elli Sugita, Takanori Hirano, Mika Kigawa, Akihiro Nishio, Takeshi Akiyama, Eun Woo Nam, Ernesto R. Gregorio, Crystal Amiel M. Estrada, Pimpimon Thongthien, Kethsana Kanyasan, Bhimsen Devkota, Jeudyla Hun, Yinghua Ma, Beverley Anne Yamamoto Pediatrics International 2022 年 1 月 26 日 (査読あり)

	<p>Has the double burden of malnutrition reached pupils in rural Western Kenya? Rie Takeuchi, Doris W Njomo, Sammy M Njenga, Sachi Tomokawa, Alex Mutua, Haruki Kazama, Walema Barnette, Takeshi Akiyama, Takashi Asakura, Yasuhiko Kamiya, Jun Kobayashi Pediatrics International 2021年4月8日(査読あり)</p>
有賀美恵子	<p>精神疾患が疑われる高校生に対する養護教諭の支援の工夫 有賀美恵子 日本看護科学会誌 41 259-268 2021年(査読有り)(筆頭著者)</p>
井村俊義	<p>ヒスパニック文学が提示する反近代的な世界：イラン・スタバンス『ヒスパニックの条件』を中心に 井村俊義 多民族研究 (15) 51-60 2022年3月(査読有り)</p>
	<p>ワトソンとナイチンゲールの看護観における詩と死生観に関する考察 井村俊義 長野県看護大学紀要 (24) 2022年(査読有り)</p>
井本英津子	<p>【看護管理者のキーコンピテンシー 5つのキーコンピテンシーと教育プログラム】キーコンピテンシー獲得に向けた教育プログラム プログラムB 金子さゆり、井本英津子、小野園枝、藤澤あきつ 看護管理 31(10) 893-898 2021年10月</p>
	<p>【看護管理者のキーコンピテンシー 5つのキーコンピテンシーと教育プログラム】抽出された5つのキーコンピテンシーについての解説 メタ認知 井本英津子 看護管理 31(10) 870-873 2021年10月</p>
小口翔平	<p>看護職者の多重課題遂行における疲労感および達成感と充実感に関連する要因の検討 小口翔平、松永保子 長野県看護大学紀要 23 13-21 2021年(査読有り)(筆頭著者)</p>
上條明生	<p>Predicting the different progressions of early pressure injury by ultraviolet photography in rat models Huiwen Xu, Yanwei Wang, En Takashi, Akio Kamijo, Daiji Miura, Kunie Karasawa, Akio Kitayama, Jian Lu, Lan Zhang International Wound Journal 2021年9月</p>
	<p>圧力程度の差による実験的早期褥瘡の発赤と転帰への影響 王艶薇、徐慧文、上條明生、近藤恵子、北山秋雄、喬炎 日本褥瘡学会誌 23(4) 326-332 2021年10月</p>
柄澤邦江	<p>酸素局所供給による皮膚圧迫性傷害の発症予防効果 上條明生、瀧澤志織、喬炎、魯健、張嵐、三浦大志、北山秋雄、森上幸恵 Journal of wellness and healthcare 45(2) 69-75 2022年2月(筆頭著者)</p>
	<p>Predicting the different progressions of early pressure injury by ultraviolet photography in rat models. Huiwen Xu, Yanwei Wang, En Takashi, Akio Kamijo, Daiji Miura, Kunie Karasawa, Akio Kitayama, Jian Lu, Lan Zhang. International wound journal 19(4) 834-844 2021年5月(査読あり)</p>
坂田憲昭	<p>感染管理認定看護師の感染予防・管理活動に関わる因子間の関連性について 中畑千夏子、渡辺みどり、坂田憲昭 日本環境感染学会誌 36(3) 166-171 2021年(査読有り)(筆頭著者)</p>
曾根千賀子	<p>Proxy evaluation of dignity expectations and satisfaction of older patients with dementia by family members and nurses Eriko Otake, Katsumasa Ota, Chikako Ikegami, Yukari Niimi, Satoko Yamada, Jukai Maeda, Masami Matsuda Nursing Open 1-15 2021年8月(査読有り)(責任著者)</p>
	<p>The Role of Nursing Members in Research Ethics Committees in Japan Yuki Sakaida, Katsumasa Ota, Chikako Sone Nagoya Journal of Medical Science 2022年(査読有り)(責任著者)</p>
	<p>病院における看護師の認知障害高齢者への看護実践の関連要因 曾根千賀子、渡辺みどり、細田江美 日本看護福祉学会誌 27(2) 21-28 2022年(査読有り)(筆頭著者)(責任著者)</p>

喬 炎	<p>酸素局所供給による皮膚圧迫性傷害の発症予防効果 上條明生、瀧澤志織、喬炎、魯健、張嵐、三浦大志、北山秋雄、森上幸恵 45(2) 69-75 2022年2月1日 (査読有り)</p>
	<p>Predicting the different progressions of early pressure injury by ultraviolet photography in rat models. Huiwen Xu, Yanwei Wang, En Takashi, Akio Kamijo, Daiji Miura, Kunie Karasawa, Akio Kitayama, Jian Lu, Lan Zhang International wound journal 19(4) 834-844 2021年5月 (査読有り) (責任著者)</p>
	<p>圧力程度の差による実験的早期褥瘡の発赤と転帰への影響 王艶薇、徐慧文、上條明生、近藤恵子、北山秋雄、喬炎 日本褥瘡学会誌 23(4) 326-332 2021年7月 (査読有り) (責任著者)</p>
竹内幸江	<p>きょうだいを亡くした子どもに対する母親の思い きょうだいを亡くした子どもと家族へのグリーフケアを考える 竹内幸江、山下恵子 いのちの教育 6(1) 26-34 2021年5月</p>
田中真木	<p>A scoping review of alternative methods of delivering ethics education in nursing Maki Tanaka, Sonoe Tezuka Nursing Open 2021年7月13日 (査読あり) (筆頭著書)</p>
	<p>Thoughts and feelings that determine how Japanese nursing students deal with ethical issues: A qualitative study Maki Tanaka International Journal of Ethics Education 2021年10月20日 (査読あり) (筆頭著書)</p>
	<p>Orem's nursing self - care deficit theory: A theoretical analysis focusing on its philosophical and sociological foundation Maki Tanaka Nursing Forum 2022年1月17日 (査読あり) (筆頭著書)</p>
中畑千夏子	<p>感染管理認定看護師の感染予防・管理活動に関わる因子間の関連性について 中畑千夏子、渡辺みどり、坂田憲昭 日本環境感染学会誌 36(3) 166-171 2021年 (査読有り) (筆頭著者)</p>
細田江美	<p>病院における看護師の認知障害高齢者への看護実践の関連要因 曾根千賀子、渡辺みどり、細田江美 日本看護福祉学会誌 27(2) 21-28 2022年3月 (査読有り)</p>
安田貴恵子	<p>市町村保健部門から福祉部門に配置された保健師による家庭訪問援助の特徴 田村須賀子、安田貴恵子、山崎洋子、高倉恭子 日本地域看護学会誌 24(2) 40-49 2021年8月 (査読有り)</p>
	<p>筋萎縮性側索硬化症療養者の呼吸療法の意思決定における看護支援に関する文献レビュー 丸山幸恵、安田貴恵子 日本健康医学会雑誌 30(1) 65-75 2021年4月 (査読有り)</p>
柳原清子	<p>早産に至った母親の出産体験の内在化 (原著論文) 前田美幸、柳原清子、島田啓子、田淵紀子、南香奈 母性衛生 62巻2号(2号) 427-435 2021年7月 (査読あり) (最終著書)</p>
	<p>妊娠中に希死念慮を持った「うつ病」妊婦への看護 「お産」と「おっぱい」で一人の女性の成長に賭ける 西村知華、柳原清子、前田美幸、前田咲子、中田康子、三村あかね 日本看護学会論文集：ヘルスプロモーション・精神看護・在宅看護 (51回) 13-16 2021年8月 (査読有り) (責任著者)</p>
	<p>コロナ禍の高齢者と家族“引き裂かれ”と“凝集”の中での家族の葛藤 柳原清子 臨床老年看護 28巻5号(5号) 60-66 2021年9月 (筆頭著者)</p>
	<p>家族メンバーが「病い」を持つということ ヤングケアラーへのまなざし 柳原清子 コミュニティケア 23巻9号(9号) 41-45 2021年7月 (筆頭著書)</p>
	<p>家族構造の変化による家族内パワーバランスの崩れとその調整法 三枝真理、柳原清子 コミュニティケア 23巻(5号) 64-68 2021年4月 (責任著者)</p>

渡辺みどり	感染管理認定看護師の感染予防・管理活動に関わる因子間の関連性について 中畑千夏子、渡辺みどり、坂田憲昭 日本環境感染学会誌 36(3) 166-171 2021年5月(査読あり)
-------	---

(3) 講演・口頭発表等(五十音順)

氏名	内容
青木駿介	尿試験紙用の疑似尿の日用品による作成ケトン体と比重を含む5項目に反応する疑似尿ー 太田克矢、竹森裕一、山崎心汰、中西恵、青木駿介 第32回日本医学看護学教育学会学術学会
足立美紀	アレルギーをもつ子どもの親の会「たんぼぼの会」の現状と課題 足立美紀、白井史、高橋百合子、竹内幸江、小原綾香 長野県看護研究学会抄録集 2021年9月(公社)長野県看護協会学会委員会
有賀美恵子	精神疾患が疑われる高校生と家族を支える養護教諭の支援ー専門機関との連携を促進する要因ー 有賀美恵子 第41回日本看護科学学会学術集会 2021年12月4日
井本英津子	看護管理者のキーコンピテンシー向上のための研修プログラムの有効性の検証. 金子さゆり、井本英津子 第41回日本看護科学学会学術集会 2021年12月
	看護管理者のキーコンピテンシー向上のための研修を考える 金子さゆり、松浦正子、ウィリアムソン彰子、川崎つま子、平岡翠、井本英津子 第25回日本看護管理学会学術集会 2021年8月
太田克矢	尿試験紙用の疑似尿の日用品による作成ケトン体と比重を含む5項目に反応する疑似尿ー 太田克矢、竹森裕一、山崎心汰、中西恵、青木駿介 第32回日本医学看護学教育学会学術学会 2022年3月5日
小野塚元子	住民主体の支え合いによる独居高齢者への日常生活支援 ーA市のNPO法人の活動に着目してー 柄澤邦江、小野塚元子、安田貴恵子、千葉真弓、富田美雪 第40回長野県看護協会研究学会 2021年10月2日
	地域包括支援センターと訪問看護ステーション看護職の初期認知症者への関わりの実態(第1報) 木谷尚美、家根明子、小野塚元子 第41回日本看護科学学会学術集会 2021年12月4日
	地域包括支援センターと訪問看護ステーション看護職の初期認知症者への関わりの実態(第2報) 家根明子、木谷尚美、小野塚元子 第41回日本看護科学学会学術集会 2021年12月4日
上條明生	酸素の局所投与による皮膚圧迫性傷害に対する発症予防効果 上條明生、瀧澤志織、張嵐、魯健、三浦大志、北山秋雄、喬炎 第23回日本褥瘡学会学術集会 2021年9月10日
柄澤邦江	住民主体の支え合いによる独居高齢者への日常生活支援ーA市のNPO法人の活動に着目してー 柄澤邦江、小野塚元子、安田貴恵子、千葉真弓、富田美雪 第40回長野県看護研究学会 2021年10月2日
河内浩美	アポーションケアの課題:女性、助産師、システムの調査から見えたこと 中込さと子、芳賀亜紀子、杵淵恵美子、五十嵐ゆかり、プロジェクトメンバー(貞岡美伸、大平光子、安藤布紀子、水野真希、河内浩美、徳武千足、園田希、長田雅子、岡美雪、斎藤未希、坂本希世、豊岡希穂子、鮫島敦子、(佐藤優香) 第36回日本助産学会学術集会 2022年3月19日
熊谷理恵	がん臨床試験を受ける患者の意思決定を支えるための看護指針の作成と信頼性・妥当性の検討 熊谷理恵、渡辺みどり 第36回日本がん看護学会学術集会 2022年2月19・20日
	症状マネジメント論におけるICT(Miro)を活用したアクティブラーニングの有用性ーレポート内容と出席カード自由記載の計量テキスト分析からー 江頭有夏、青木駿介、熊谷理恵、浦野理香、小口翔平、伊藤佑季、柳原清子 第18回長野県看護大学研究集会 2022年3月18日

酒井久美子	認知症早期支援のための包括的な体制づくりー事業を委託する自治体保健師の取り組みー 安田貴恵子、村井ふみ、酒井久美子、御子柴裕子、下村聡子、山崎洋子、田村須賀子 第 10 回公衆衛生看護学会学術集会
坂本希世	予期せぬ妊娠により人工妊娠中絶を選択する女性に関する文献の検討 坂本希世、長田雅子、岡美雪、園田希、五十嵐ゆかり 第 36 回 日本助産学会学術集会
下村聡子	シングルマザーの妊娠出産・育児に関する国内文献レビュー 下村聡子、御子柴裕子、安田貴恵子 日本地域看護学会第 24 回学術集会
	認知症早期支援のための包括的な体制づくりー事業を委託する自治体保健師の取り組みー 安田貴恵子、村井ふみ、酒井久美子、御子柴裕子、下村聡子、山崎洋子、田村須賀子 第 10 回公衆衛生看護学会学術集会
曾根千賀子	認知症看護認定看護師の所属部署別による認知症看護実践内容の比較 曾根千賀子 日本看護倫理学会第 14 回年次大会 2021 年 5 月 29 日
	認知症看護認定看護師が活動する上で支えとしている内容の把握 曾根千賀子、渡辺みどり、細田江美 第 34 回日本看護福祉学会学術大会 2021 年 7 月 10 日
	タブレットを用いた情報プライバシー上のニーズの把握する方法：外来通院患者による評価 第 2 報 新實夕香理、太田勝正、曾根千賀子 第 41 回医療情報学連合大会 2021 年 11 月 19 日
喬 炎	ラット褥瘡モデルにおける圧診法と CRTT 併用による除圧後虚血の評価 喬炎、陳露、上條明生、三浦大志、北山秋雄、張嵐、魯健 2022 年 3 月 17 日
	動物皮膚圧迫創における早期褥瘡の悪化予測法の検討 喬炎、王艶薇、上條明生、三浦大志、北山秋雄、柄澤邦江、近藤恵子、森上幸恵 第 23 回日本褥瘡学会 2021 年 9 月 10 日
	酸素の局所投与による 皮膚圧迫性傷害に対する 発症予防効果 上條明生、瀧澤志織、張嵐、魯健、三浦大志、北山秋雄、喬炎 第 23 回日本褥瘡学会 2021 年 9 月 10 日
高橋百合子	教育講演 4 「教育計画やラダーを指向した院内研究と倫理」「研究に取り組んでよかった！」 と思えていますか？ 高橋百合子 日本看護倫理学会第 14 回年次大会 2021 年 5 月 30 日
那須淳子	「看護する身体」に関する看護基礎教育の現状～国内外研究の動向を捉える～ 伊藤祐紀子、那須淳子、阿部正子 日本看護学教育学会第 31 回学術集会 2021 年 8 月 18 日
細田江美	認知症看護認定看護師が活動する上で支えとしている内容の把握 曾根千賀子、渡辺みどり、細田江美 第 34 回日本看護福祉学会学術大会 2021 年 7 月
	病院に勤務する看護師の認知症高齢者へのパーソン・センタード・ケアに対する実践意識の比較 ー認知症に関する研修会への参加度からー 細田江美、渡辺みどり、曾根千賀子 日本看護福祉学会第 34 回学術大会 2021 年 7 月
松本淳子	Psychological effects of music therapy in hospital wards Matsumoto, J. The 32nd International Congress of Psychology, July 20, 2021
	病棟における音楽療法または音楽の利用に関する効果 松本じゅん子 日本教育心理学会第 63 回総会 2021 年 8 月 21-30 日
	病棟の望ましい音環境に関する検討. 松本じゅん子 日本心理学会第 85 回大会 2021 年 9 月 1-8 日

	新型コロナウイルス感染症流行下における会話の変化。 松本じゅん子、秋山 剛、北山秋雄 第18回長野県看護大学研究集会 2022年3月18日
御子柴裕子	公開シンポジウム COVID-19感染拡大状況で「生活」への確かな視座を問い直す 日本生活学会 COVID-19特別研究委員会報告と議論 日本生活学会 COVID-19特別研究委員会(*御子柴は委員会メンバー) 日本生活学会第48回研究発表大会 2021年6月
	シングルマザーの妊娠出産・育児に関する国内文献レビュー 下村聡子、御子柴裕子、安田貴恵子 日本地域看護学会第24回学術集会 2021年8月
	認知症早期のための包括的な体制づくり 事業を委託する自治体保健師の取り組みから 安田貴恵子、村井ふみ、酒井久美子、御子柴裕子、下村聡子、山崎洋子、田村須賀子 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会 2022年1月
	The Current Situation and Recognition of Health Mates' Activities in Depopulated and Aging Areas in Japan Yuko Mikoshiba, Masako Takamasu 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing
安田貴恵子	生活保護担当課保健師の個別支援における援助ニーズの優先度の判断と援助提供方法の選択の特徴 田村須賀子、安田貴恵子、山崎洋子 日本公衆衛生看護学会第10回学術集会 2022年1月
	認知症早期のための包括的な体制づくり 事業を委託する自治体保健師の取り組みから 安田貴恵子、村井ふみ、酒井久美子、御子柴裕子、下村聡子、山崎洋子、田村須賀子 日本公衆衛生看護学会第10回学術集会 2022年1月
	看護者対対象者の2者関係に基づく地域生活集団を対象とした看護モデルの開発 精神障がい者の支援事例からの検討 山田洋子、梅津美香、堀里奈、大井康子、城諒子、田村須賀子、安田貴恵子、松下光子 日本公衆衛生看護学会第10回学術集会 2022年1月
	住民主体の支え合いによる独居高齢者への日常生活支援 A市のNPO法人の活動に着目して 柄澤邦江、小野塚元子、安田貴恵子、千葉真由美、富田美雪 第40回長野県看護研究学会抄録集 2021年9月
	生活保護担当課保健師の個別支援における地域・家庭生活支援の特徴 田村須賀子、安田貴恵子 第41回日本看護科学学会学術集会 2021年12月

(4) 受賞 (五十音順)

氏名	内 容
有賀美恵子	第41回日本看護科学学会優秀演題抄録賞 精神疾患が疑われる高校生と家族を支える養護教諭の支援－専門機関との連携を促進する要因－日本看護科学学会 2021年12月

第3節 社会・地域貢献活動

令和3年度に本学教員が行った学外の研修会・講演会（第2節⑤講演等に記載の講演を除く）、学会等に関する活動は、延べ117件であった（表7）。

また、本学教員が行った看護職者等が取り組む研究への支援は、延べ15件であった（表8）。

（表7）本学教員が行った社会・地域貢献活動（五十音順）

氏名	活 動 内 容
青木駿介	日本老年看護学会 認知症看護対応力向上研修 ZOOM開催の技術サポート役
有賀美恵子	長野県立こころの医療センター駒ヶ根 倫理委員会委員
	上伊那地区高等学校教育研究会学校保健分科会 共同研究者

	長野県教育研究集会学校保健分科会 共同研究者
伊藤郁恵	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
伊藤祐紀子	中部 M-GTA 研究会 会長 年4回開催の研究会の企画、運営、スーパーバイズ
	東京 M-GTA 研究会 世話人 合同研究会企画
	長野県立病院機構専門研修 看護記録研修会
	新型コロナウイルスワクチン職域接種 (7/25 信州大学農学部、7/27 飯田市エスパード)
井本英津子	メンバーシップ研修 伊那中央病院 講師
	リーダーシップ研修 (2回) 伊那中央病院 講師
	第40回 長野県看護研究学会 交流集会②コロナ時代の新しい学び方 演者
	ジェネラリスト研修会「はじめてのリーダー 職場で活躍できるリーダーを目指して」長野県看護協会 講師
	「看護過程の展開」研修 市立大町総合病院 講師
	長野県看護協会 認定看護管理者教育課程運営委員
浦野理香	昭和伊南総合病院看護部事例検討会助言者
太田克矢	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
	看護大学周辺地域景観形成住民協定協議会主催 卒業記念植樹
小口翔平	NPO 法人親子の未来を支える会 アドバイザー
小野塚元子	非営利活動法人のぞみの里 運営推進協議会 委員長
	長野県地域包括ケア市町村伴走型支援事業 支援チーム員
上條明生	第50回 長野県理学療法学会 準備委員長
	理学療法研究・長野 査読員
	信州大学医学系研究科における共同研究
上條こずえ	諏訪中央病院「新人研修－職業倫理」講師
	ワクチン接種手伝い 信大農学部 (7・8月)、エスパード
柄澤邦江	昭和伊南総合病院医倫理委員会 外部委員
	信州木曾看護専門学校 非常勤講師
	第40回長野県看護研究学会 学会委員
	第52回日本看護学会学術集会 抄録選考委員
	第40回長野県看護研究学会論文集 編集委員・査読委員
	出前講座：宮田村公民館「在宅での看取りを考える」 講師
河内浩美	上伊那助産師会 副会長
	長野県助産師会 災害対策委員
	日本学術振興会科学研究費補助金 審査委員
	駒ヶ根市自治体国際協力促進事業 (モデル事業) 第2フェーズ「上伊那地域の助産師から学ぶ分娩期のアセスメント能力強化研修 実践編」講師
	長野県助産師会の災害対策員として 11月14日に駒ヶ根市で実施された長野県総合防災訓練へ、企画運営に携わり訓練に参加した。
近藤恵子	日本褥瘡学会 評議委員
	日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 評議委員 社会保険委員
	長野県褥瘡懇話会 世話人
	ながのホームケアコンサルティング主催 研修 講師
酒井久美子	日本地域看護学会 広報委員
	長野県新人保健師研修会 (事例検討ファシリテーター)
坂本希世	日本質的心理学会 研究交流委員
座馬耕一郎	こまがね市民活動支援センター運営評議会 副会長・委員

	一般社団法人日本霊長類学会 理事・代議員
	アフリカ・アジアに生きる大型類人猿を支援する集い 世話人
	マハレ野生動物保護協会 理事
	岐阜県立看護大学 非常勤講師
	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
白井 史	日本小児がん看護学会 評議員 ケア検討委員
水主洋子	新型コロナのワクチンの職域接種業務に4回従事した。
曾根千賀子	高齢者ケア看護研究会事務局として研修会の企画運営
	長野県長寿社会開発センター主催「信州ねんりんピック交流会」へゲスト出演
	長野県看護協会伊那支部シンポジウム「被災体験から平時の準備を考える」の企画運営
	日本老年看護学会 生涯学習委員会認知症看護対応力向上研修小委員会主催「認知症看護対応力向上研修」講師、企画・運営（2回）
	長野県立伊那弥生ヶ丘高等学校大学模擬授業「認知症高齢者の看護」講師
	長野県立高遠高校「職業を知る講座」看護職編 講師
	日本看護福祉学会 査読委員
	豊橋創造大学 ゲストスピーカー
高橋百合子	日本小児看護学会・専任査読員
	伊那新校再編実施計画懇話会 構成員
	日本重症心身障害福祉協会認定重症心身障害看護師研修 講師
竹内幸江	日本小児保健協会・代議員
	日本小児がん看護学会・評議員 プログラム委員 専任査読員
	日本小児看護学会・評議員 災害対策委員 専任査読員
	日本看護倫理学会・評議員
	日本看護学教育学会・専任査読員
	千葉看護学会・査読員
	長野県小児保健協会・監事
	第14回日本看護倫理学会年次大会 教育講演座長
	第20回日本小児がん看護学会学術集会 プログラム企画委員
	長野保健医療大学 非常勤講師
	信濃医療福祉センター 新人指導者研修講師
中畑千夏子	長野県須坂看護専門学校 非常勤講師
	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
	新型コロナウイルス感染症軽症者等宿泊療養施設の感染予防対策支援活動（感染予防対策研修会講師、巡視、指導、相談等）
	長野県歯科衛生士会主催「感染予防対策研修会」講師
那須淳子	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
藤澤紀子	JICA 草の根技術協力事業研修「ネパール・ポカラ市母子保健研修センターにおける指導者養成事業：母子保健医療者のケア技術・知識向上のための研修」上伊那地域の助産師から学ぶ分娩期のアセスメント能力強化研修（実践編）講師
	高遠高等学校 命の授業・性教育 講師
細田江美	駒ヶ根市認知症施策検討会（第8期認知症施策検討）にて駒ヶ根市における認知症施策の取り組み・課題について意見交換
	高齢者ケア看護研究会事務局として研修会の企画運営
	駒ヶ根市おれんじネット事業（認知症サポート）に参画し、各事業に参加協力
	本学修了したDCN（3・2期生）の資格更新のための事例レポート支援
松本淳子	日本音楽知覚認知学会理事（研究発表会担当）

	日本音楽知覚認知学会音楽知覚認知研究編集委員
	日本音楽知覚認知学会 2021 年度春季研究発表会研究選奨選考委員会委員
	日本音楽教育学会音楽教育学査読
	長野県公衆衛生専門学校非常勤講師（心理学、統計学）
御子柴裕子	長野県新人保健師研修会（事例検討ファシリテーター）
	上伊那管内保健師研修会「保健分野における統計学の基本と保健事業の評価」講師
	長野県地域包括ケア市町村伴走型支援事業（朝日村）
	新型コロナウイルス感染症に係る県内保健福祉事務所業務応援
	日本生活学会 COVID-19 特別研究委員会
	日本ルーラルナーシング学会編集委員会事務局
安田貴恵子	日本地域看護学会 代議員、広報委員会副委員長、日本地域看護学会誌 査読委員
	日本ルーラルナーシング学会 理事、日本ルーラルナーシング学会誌 編集委員長
	日本在宅ケア学会 評議員
	公益社団法人日本看護科学学会 社員
	千葉看護学会誌 査読委員
	信州公衆衛生学会誌 編集委員
	日本地域看護学会第 25 回学術集会 企画委員
	長野県新人保健師研修の企画運営、講師ならびにファシリテーターを担当（全 3 回）
	長野県保健師研修「プリセプターのための指導力向上研修」企画運営、講師（全 2 回）
	上伊那管内保健師研修会「保健師活動の記録について」講師
	駒ヶ根市国民健康保険運営協議会委員
	飯島町健康長寿のまちづくり推進会議保健医療専門部会員
	長野県医療費適正化推進検討会委員
	伊那中央病院看護師特定行為研修管理委員会委員
長野県地域包括ケア市町村伴走型支援事業（推進会議委員、支援チームメンバー）	
屋良朝彦	日本学術振興会・科学研究費・審査委員
	メルロ=ポンティ・サークル編集委員・査読委員
	第 2・3 回精神医療倫理科学研究会・主催（屋良科研）（R3.4.29、R4.3.11）
	長野県赤穂高等学校 評議員
	精神障害者のピアサポート「ピア南信しあわせの種」の諸活動（毎月の定例会、学習会・講演会など） https://peertane.jimdofree.com/
	井戸端会議実行委員会（宮田村）主催「哲学カフェ」を村人テラス（宮田村）で毎月第 4 日曜日（10 時～12 時）に開催

(表8) 本学教員が行った看護職者などが取り組む研究への支援 (五十音順)

氏名	病院等施設名	支援内容
有賀美恵子	長野県立こころの医療センター駒ヶ根	院内研究発表会での講評
河内浩美	諏訪赤十字病院	病棟研究の学会発表に向けた助言 1件
坂本希世	諏訪赤十字病院	施設内研究の研究計画書および学会発表に向けた抄録作成への支援
曾根千賀子	長野県民医連	長野県民医連「看介護研究講座発表会」講評
	伊那中央病院	県内看護職者との共同研究
	健和会病院	看護研究の結果分析および学会発表のための準備(抄録、発表資料)への助言
	宅老所花うた	研修会開催への企画および研究計画への助言
高橋百合子	飯田病院	院内研究指導(1件)
	伊那中央病院	看護研究の結果分析および論文執筆過程の支援 1件
竹内幸江	日本重症心身障害福祉協会	研究指導3題、発表会での講評
藤澤紀子	岡谷市民病院	看護師への研究指導12件 院内研究発表会での助言
細田江美	諏訪赤十字病院	県内看護職者との共同研究
	伊那中央病院	県内看護職者との共同研究
御子柴裕子	長野県民医連	長野県民医連「看介護研究講座発表会」講評
	松本保健福祉事務所	食生活改善推進員の研究に関する相談・助言

第4章 社会貢献

第1節 公開講座

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、開催を見送った。

第2節 分野の活動

令和3年度に行った分野としての活動は、以下のとおりである。

分野	活動内容
基礎看護学	駒ヶ根市で行われた「みなこいワールドフェスタ」の実行委員会に参加し、主に広報活動を担当した。また Covid-19 感染症が拡大する中でも安全にイベントを開催していくため、イベントの感染対策などについてアドバイスをを行い、当日は十分な対策の上実施された
母性・助産看護学	駒ヶ根市自治体国際協力促進事業（モデル事業）第2フェーズ「上伊那地域の助産師から学ぶ分娩期のアセスメント能力強化研修 実践編」におけるオンライン研修に分野教員2名が講師を務めた。
小児看護学	駒ヶ根市近郊に住むアレルギー疾患をもつ子どもと親の会「たんぼぼの会」の活動を支援している。令和3年度は新型コロナウイルス感染症予防対策のため、月1回を目途に行っていた定例会を年4回実施した。定例会では、アレルギーに関する新たな知見や疾患管理に関する情報を提供するとともに、親同士の情報交換の場となるよう支援した。また、常時、子どものアレルギーに関する相談をメールや電話で受け付けており、メール2件、電話1件の相談に対応した。

<p>老年看護学</p>	<p>① 高齢者ケア看護研究会において「こんな時だからこそ、認知症の人とともに私たちができることーコロナ禍におけるひと工夫ー」をテーマに研修会（令和3年4月24日、Zoom）の企画・運営に参画した。長野県内の病院および高齢者施設で働く認定看護師・看護師が30名程度参加し、話題提供と討議が活発に行われた。</p> <p>② コロナ禍において交流の機会が減少する中で、地域で暮らす住民（シニア）との交流の場を設けることを目的とし、座談会（老年看護実習）を開催した。参加者は、伊那シニアズーム倶楽部（長野県長寿社会開発センター伊那支部）に在籍するシニアおよび上伊那地区在住のシニア、そして本学学生とし、交流テーマ「地域で暮らす高齢者の生活と活動」を中心に、“生活を充実するための健康行動”および“健康維持のために大切にしていること”、“日頃感じていること・考えていること”について情報交換・共有を行った。開催時期は、5～7月、10月～12月とし、開催方法はZoomおよび対面で計10回（1回につきシニア3～5名、学生10～15名、総参加人数：シニア人数のべ41名、学生84名）実施した。シニアの方々の学生へのメッセージとして、「今のシニア世代の生き方を少しでも垣間見ていただけたことが幸い。今後の看護師・保健師として担う際に活かして欲しい」、「若い時の苦勞は勝手でもせよ」など心強いエールを頂いた。</p> <p>③ 信州ねんりんピックオンライン交流会（令和3年9月11日、長野県長寿社会開発センター主催）に老年看護学分野卒業研究生2名と教員1名がゲスト出演した。卒業研究で取り組んだ「世代間交流」の知見と考察について説明し、“誰にでも居場所と出番がある長寿社会の実現”の推進に貢献した。</p>
<p>地域・在宅看護学</p>	<p>長野県内市町村の地域包括ケアシステムの構築に向けた、県健康福祉部介護支援課による市町村支援事業に参画した。具体的には、2つの自治体の地域包括支援センター職員の活動支援に継続的に関わり、市町村の課題に対応した支援のあり方について県担当職員と意見交換を行った。また、当該事業の推進会議に出席して、事業全体のあり方、評価の観点等について検討を行い資料作成に貢献した。</p>

※ 本学教員が行った社会・地域貢献活動については、第3章「教員の研修・研究、社会活動」第3節に掲載しています。

第5章 学内委員会等の活動及び検証

第1節 運営委員会

1 所掌事項

看護大学の管理運営に関する重要事項を調査審議する。

2 活動と成果

(1) 委員会活動

【開催日】

第1回	3年 4月 2日	第11回	3年10月15日
第2回	3年 4月16日	第12回	3年10月29日
第3回	3年 5月14日	第13回	3年11月12日
第4回	3年 5月28日	第14回	3年12月 3日
第5回	3年 6月11日	第15回	4年12月17日
第6回	3年 7月 2日	第16回	4年 1月14日
第7回	3年 7月16日	第17回	4年 1月28日
第8回	3年 7月30日	第18回	4年 2月10日
第9回	3年 9月16日	第19回	4年 2月24日
第10回	3年10月 1日	第20回	4年 3月11日

【審議内容】

大学運営に関する学長の構想・意思の具体化への検討や、教授会、人事教授会及び研究科委員会に諮る協議事項・報告事項等に関する審議及び内容の確認を行った。

(2) 成果

事前に議題の内容等を協議・点検・整理し、大学運営の方向性の確認や調整を行い、教授会等における円滑で効率的な審議に資した。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題

- 1) 評価委員会における大学の自己点検・評価の課題について、運営委員会で検討し改善改革につなげていく。
- 2) 大学が取り組むべき主な課題の検討スケジュールに基づき、本委員会において取り組んだ内容について教授会等における審議に資する議論を行う。

(2) 将来的な課題

- 1) 今後の法人化議論に備えた準備をする。
- 2) 運営委員会のあり方等を検討する必要がある。

第2節 広報・交流委員会

1 所掌事項

- (1) 大学の広報に関すること
- (2) 公開講座に関すること
- (3) 大学説明会に関すること
- (4) 国際交流に関すること
- (5) 地域交流に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

委員会及び開催行事は下記の通りであった。(行事の事前準備活動などの記載は省略)

- 1) 全体会議：5回(4/15、7/1、9/7、11/15、2/17)
 主な議題：PATHWAY・オープンキャンパス(OC)・公開講座・進路説明会・大学見学・
 模擬授業・学報・その他広報活動・活動費用
- 2) 開催行事：オープンキャンパス(開催せず)、公開講座(開催せず)、大学見学(対応せず)、
 進路説明会(複数日)、模擬授業・講義形式の進学説明(複数日)

(2) 成果

- 1) 進路説明会(進学相談)・模擬授業・大学見学
 外部からの依頼28件のうち21件に対応した(対応延べ教員数23名)。昨年に引き続き
 コロナ禍のため、全てwebでの対応となった。
- 2) 大学案内PATHWAY発行
 構成の主軸の1つである「学部の学生生活が伝わる大学案内」を維持しつつ、適宜、
 変更や追加が必要な記事や時間が経過した写真などを更新した。
- 3) 学報の発行と大学院だより
 読みやすく充実した紙面の学報(No.52、53)を2回発行し、関係各所に配布した。こ
 の際、入試部会の依頼による大学院だより(No.9)も作成して学報に挟み込む形で配布
 した(学報No.41より実施)。
- 4) 大学説明会(オープンキャンパス)
 コロナ禍のため、開催しなかった。オープン
 キャンパスに代わる学外への発信として「広報
 動画」を2種類作製した。この他、学生の課外
 活動の様子が分かる動画へHPからリンクを行
 った(1件)。

◆オープンキャンパスの参加者数

年度	高校生	保護者等	合計
R3			開催せず
R2			開催せず
R元	306	314	620
H30	353	308	661
H29	414	366	780
H28	384	319	703
H27	357	300	657
H26	355	247	602
H25	377	255	632
H24	377	179	556
H23	183	90	273
H22	244	160	404
H21	205	80	285

- 5) 公開講座開催
 本年度もコロナ禍のため、委員会主催として
 の開催は行わなかった。
- 6) 学外掲示板の更新
 適宜掲示物を更新または整理した。(昭和伊
 南総合病院、こころの医療センター駒ヶ根)

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題(懸案事項)

- ・進路説明会やオープンキャンパスなどの開催
 形式や代替案などを、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染状況と拡大に伴い、適
 宜来年度も検討する必要がある。
- ・現状でのパスウェイの内容と形式になってから9年が経過している。1年度ごとの適
 宜修正では大きな変更が難しい部分もあるため、プロポーザル方式の入札の実施など
 により大きく刷新するか否かを検討する必要がある。

(2) 将来的な課題

少子化時代の学生募集対策として、従来の事業実施の変更の必要性が大学執行部から
 意見として出ている。大学教員の業務量の増大と多様化の中でより効率的な広報活動を

行うには、最も重要な対象者の1つである「学部入学志願者」への効率的な広報活動のあり方について検討していく必要がある。

第3節 教務・実習委員会

1 所掌事項

- (1) 学年暦に関すること
- (2) オリエンテーション及び新入生ガイダンスに関すること（新入生オリエンテーションに関するものを除く。）
- (3) 学部のカリキュラムに関すること
- (4) 履修に関すること
- (5) シラバスに関すること
- (6) 非常勤講師の任用に関すること
- (7) 単位認定に関すること
- (8) 科目等履修に関すること
- (9) 実習の目標・計画・実施・評価に関すること
- (10) 実習施設との連絡調整に関すること
- (11) 実習中における安全と事故防止に関すること
- (12) 前3号に掲げるもののほか実習に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

	教務・実習委員会	教務班会議	実習班会議
第1回 (4月13日)	① 組織構成・役割 ② コロナワクチンの早期接種	・令和2年度教務・実習委員会 教務班活動報告 ・2022 助産師コース選抜	・新型コロナワクチン早期接種について ・活動計画と役割分担
第2回 (5月12日)	① 2021 年度助産師コース選抜計画 ② 既修得単位の認定 ③ 退学願	・スタートアップセミナー自己評価結果	・新型コロナワクチンの早期接種について ・看護専門領域実習の交通手段の調査 ・新カリ申請・臨地実習指導者の報告担当者について ・拡大実習委員会の冊子の作成
第3回 (6月10日)	① 教育方法に関する研修会 ② 大学基準協会評価結果指摘事項の確認 ③ 試験結果の公表の仕方		
第4回 (7月2日)	① 休学願 ② 退学願 ③ 「授業・実習における ICT を活用した取り組み」の研修		・2021 年度～2022 年度前学期実習要項と実習予定 ・実習バスについて ・基礎実習 I の実施状況 ・小児看護実習における宿泊日

	④ 新型コロナウイルス感染症下における看護学実習上の困難に関する調査について		数の変更について
第5回 (8月4日)	① 年度途中で卒業する学生の卒業判定 ② 休学願 ③ 「授業・実習におけるICTを活用した取組み」の研修会アンケート結果		・実習オリエンテーションの日程と内容の検討 ・2021年度後学期～2022年度前学期の看護領域別実習の配置について検討
第6回 (10月12日)	① 退学願 ② 休学願 ③ 令和4年度卒業研究 ④ 令和4年度シラバス・学生便覧の作成	・休学願 ・退学願 ・令和4年度卒業研究 ・令和4年度シラバス・便覧の作成	・実習オリエンテーションの時間、資料配布、感染防止対策などを確認 ・学生のワクチン接種名簿の管理方法の確認 ・インシデントの報告 ・「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う臨地実習に関する基本方針」の改訂の確認
第7回 (11月9日)	① 令和4年度卒業研究のシラバス ② 令和4年度アカデミックリテラシー ③ 令和4年度学年歴(案) ④ 新カリキュラム時間割(案) ⑤ 令和4年度時間割(案) ⑥ 令和4年度新規非常勤講師 ⑦ 令和4年度非常勤講師一覧 ⑧ 令和4年度県内大学単位互換制度募集要項(案) ⑨ 令和4年度科目等履修生募集要項(案) ⑩ 卒業研究ガイダンス日程	・卒業研究シラバスの検討 ・アカデミックリテラシーのシラバス ・学年歴の検討 ・新規非常勤講師の確認 ・県内大学単位互換履修生募集要項(案)の確認 ・卒業研究ガイダンス日程の確認 ・令和4年度教務ガイダンス実施方法の検討	・2022年～2023年領域別実習配置表について ・次年度1年生のユニフォームについて ・インフルエンザ、百日咳ワクチンの接種について
第8回 (12月15日)	① 臨地に行けなかったことによる学生の学習課題の整理 ② 学部カリキュラムマップの作成 ③ 助産選考面接の担当者 ④ 令和4年度科目等履修生募集(案)	・令和3年度卒業研究シラバスの評価方法と報告書の検討 ・令和3年度教務ガイダンスの実施方法の検討	・領域別実習の進捗状況の確認 ・2022年度前学期・後学期看護専門領域実習オリエンテーションの調整について ・基礎実習IIの評価の報告 ・令和4年度の実習体制

第9回 (1月12日)	① 助産選考結果 ② 令和4年度教務ガイダンス		
第10回 (2月2日)	① 卒業研究の配置 ② 令和3年度卒業生成績判定	・カリキュラムマップ集約結果の検討	・2022年度前学期・後学期領域別オリエンテーション日程の検討 ・拡大実習委員会用の資料作成の検討
第11回 (3月7日)	① 退学願 ② 令和3年度在宅性の単位認定 ③ カリキュラムマップ・カリキュラムツリー ④ 令和4年度教務ガイダンス担当者	・カリキュラムツリーの作成	・R3年度の自習中の事故報告書の検討 ・看護専門領域実習の交通手段の調査 ・新入生実習ユニフォームについて ・教務ガイダンス担当者の決定

(2) 成果

- 1) 学修上個別支援を要する学生に関しては、学年顧問、事務局教務・学生課、学生支援員、保健室保健師と情報を共有しながら連携、協働し対応した。
- 2) 新型コロナウイルス警戒レベルを考慮し、卒業研究のガイダンス・配置の決定はオンラインやGoogleフォーム等を活用した。
- 3) 新型コロナウイルス感染症に対し、圏域の感染警戒レベルと本学の指針に則り、授業開始の繰り下げに伴う時間割の変更、教務ガイダンスの短縮化を行った。
- 4) 新カリキュラムおよび2023年度の旧カリ・新カリ移行期間中の時間割を作成した。また、新カリ・旧カリの科目読み替え対応表を作成した。
- 5) ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アセスメントポリシーを作成した。さらにカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを作成し新入生への配布と公開に備えた。
- 6) 新型コロナ感染蔓延下において、実習を学内に切り替え、各領域はオンラインやシミュレーションを取り入れ学習効果が損なわれないように対応をおこなった。
- 7) 臨地実習に際し、感染症対策委員会、保健室と連携の下研修会を開催し学生の感染対策の強化を図った。
- 8) 4年生の実習に行けなかったことによる課題整理をワーキンググループを作り課題整理し、希望学生には卒業生との交流会、病院研修、実技指導を行った。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

1) 教務班

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響が引き続き予測されるため、本学の指針に則り感染状況に即した対応を継続して行う必要がある。
- ② ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アセスメントポリシー、カリキュラムツリーをホームページで公開していく必要がある。
- ③ 各授業科目が担っているディプロマポリシーを来年度シラバスに明記していく必要がある。

- ④ アセスメントポリシーに基づき、各指標を算出・評価し経年データとして構築していく必要がある。

2) 実習班

- ① 引き続きの感染対策を強化し、臨地実習が行えるように関係機関との情報交換、連携を図る。
- ② 学内実習の充実のため、各領域の情報交換や研修会を実施する必要がある。

(2) 将来的な課題

1) 教務班

- ① アセスメントポリシーに基づいて算出した経年的なデータの評価方法、大学の中長期計画にどのように生かしていくかについて運営委員会・評価委員会の方針に基づき、教務委員会の役割を具体的に検討していく必要がある。
- ② 旧カリから新カリへの移行を円滑に進めることが必要である。ことに単位未修得者、卒業延期者などへの履修指導を学年顧問と連携して対応していく。

2) 実習班

- ① 学部教育として臨地実習の体系化が必要であり、卒業に向けて効果的に実習体験を構築するために各領域の情報交換や実習の可視化が必要になる。

第4節 入試検討委員会

1 所掌事項

委員会は、次の事項について調査及び審議する。

- (1) 大学入試に関すること
- (2) 入試科目及び期日の選定に関すること
- (3) 合否判定の基礎資料に関すること
- (4) 入試の追跡調査に関すること
- (5) 入試のあり方に関すること
- (6) その他入試に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

開催回数	開催日	議 題
1	4月13日(金)	①令和3年度における委員会の活動計画 ②委員会及び各入学試験における業務の役割分担 ③令和4年度入学者選抜に関する要項の検討
2	5月11日(水)	①令和4年度入学者選抜に関する要項の最終確認 ②面接の評価判定について
3	6月22日(火)	①令和4年度学生募集要項の検討 ②面接の評価判定について ③一般選抜の追試験の設定 ④令和3年度入試業務者の配置案の検討

4	7月27日(火)	①令和4年度大学入学共通テストについて ②入試問題について
5	10月25日(月)	①令和4年度学校推薦型選抜A・社会人選抜実施・業務処理要領の検討 ②受験生に送付する体調等チェックシートの検討 ③入試実施における感染症対策の検討
6	11月27日(土)	①令和4年度学校推薦型選抜A・社会人選抜の合否判定案
7	12月6日(月)	①令和4年度大学入学共通テスト実施・業務処理要領の検討 ②大学入学共通テスト監督者説明会について ③大学入学共通テストの準備日程(問題冊子等の搬入および仕分け)の決定 ④大学入学共通テストの組織表の検討
8	令和4年 1月24日(月)	①令和5年度学部入試日程案について ②令和4年度学校推薦型選抜B実施・業務処理要領の検討 ③学校推薦型選抜B本部準備用資料の検討 ④一般選抜の追試験について ⑤大学入学共通テスト未受験者の救済措置について
9	2月7日(月)	①令和4年度学校推薦型選抜Bの合否判定案 ②令和5年度学部入試日程案の決定 ③一般選抜(前期日程)実施・業務処理要領の検討 ④受験生への送付書類の検討
10	2月28日(月)	①令和4年度一般選抜(前期日程)の合否判定案 ②一般選抜(中期日程)実施・業務処理の検討
11	3月8日(月)	①令和4年度一般選抜(中期日程)の合否判定案 ②令和4年度一般選抜の追加合格候補者案の検討

(2) 成果

1) 入学者選抜の円滑な実施

学校推薦型選抜、社会人選抜、一般選抜(前期日程・中期日程)を通して、滞りのない入学試験業務を遂行した。新型コロナウイルス感染症への対策として、受験生には事前に体調等のチェックシートを送付し、受付時に体調確認を実施した。体調不良による試験の取り止め、および中断する受験生はいなかった。そのため、追試験の該当者はなく、追試験は取り止めとなった。

2) 学校推薦型選抜Bにおけるオンライン面接の実施

今年度より、学校推薦型選抜Bの面接を新型コロナ感染状況と関係なく、全てZOOMによるオンラインに変更した。オンライン面接に必要な機材の確保、面接手順の作成等を行い、事前の接続確認を委員が分担して実施した。

当日、ZOOMへの入室時刻までに入室しなかった受験生は3名であったが、面接開始時刻に影響はなかった。トラブル等で受験できなかった者はなく、大きな問題なく実施することができた。

3) 大学入学共通テストの円滑な実施

大学入学共通テストについては、例年通り事前に2回の監督者説明会を開催し、滞りなく試験を実施した。

4) 入学志願者の確保

今年度の入学志願者は、学校推薦型選抜Aは定員24名に対して57名（受験倍率2.4）であり、そのうち地域特別枠の志願者が13名であった。昨年度の学校推薦型選抜Aの55名より若干増加しており、特に地域特別枠が昨年度より5名増加した。社会人選抜は4名の志願者であり、昨年度より2名増加した。学校推薦型選抜Bは、定員8名に対して27名（受験倍率3.4）であり、昨年度の34名（受験倍率4.3）より減少した。一般選抜前期日程においては定員40名に対して113名（出願倍率2.8）で、昨年度の75名から増加した。前期日程は学校推薦型選抜Bと併願する受験生が多く、推薦Bに合格した者が抜けたため、受験者は95名（受験倍率2.4）であった。一般選抜中期日程の志願者は、定員8名に対して233名（出願倍率29.1）であり、昨年度の117名を倍近く上回り、後期日程を含めて過去最高の出願率であった。このように選抜試験全体では総計434名と例年より多くの入学志願者を確保することができた。

5) 新型コロナウイルス感染症の感染予防対策

体調等チェックシートによる受験生の体調確認の他に、ガイドラインに則り、試験室の収容人数の削減、試験当日の受験生の動線の制限、手指消毒の徹底、監督者（面接者）と受験生の距離の確保、アクリル板の設置等の感染対策を講じた。その結果、感染症の発生はみられなかった。

6) 面接の評価について

昨年度からの課題であった、面接者両名がC判定を出した場合の面接評価判定について検討した。在学生およびここ数年の卒業生で両者がC判定であった学生について、特に実習状況、対人関係について確認したが、特段問題はみられなかった。そのため、今年度から両者がC判定であった場合は、面接者間で協議を行い、判定を検討するという方法を採用した。

7) 高校訪問について

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で高校訪問の実施はとりやめた。しかし、受験者数は上記4)のとおり確保できた。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

1) 高校の新教育課程における大学入学共通テストで課す科目の決定

令和4年4月より高校の教育課程が新しくなる。そのため、2年後（令和7年度入試）の大学入学共通テストで課す科目を、令和4年10～12月に予告する必要がある。

2) 入学者の確保にかかわる事項

中期日程の試験日は前期日程の合格発表期間中であることもあり、受験者数は多いが、その後発表される前期日程の合格者も多い。昨年度、中期日程からの入学者の確保が難しかった状況から、今年度は、追加合格候補者を多めに設定したが、受験者数が多いために共通テストの成績も全般に良く、合格発表直前に合格予定者の半数以上が前期日程に合格し手続をしていることがわかった。そのため、追加合格候補者を繰り上げて、8名の合格者を発表したが、そのうち半数以上が辞退するという結果となった。さらに、追加合格候補者も前期日程で他大学に合格し手続している者が多く、学長と協議してさ

らに追加合格候補者を決定した。最終的に追加合格者は4名であった。

昨年度からの課題であるが、中期日程における入学者の確保は難しいことを鑑み、学校推薦型選抜や前期日程での合格者数を調整する必要がある。次年度は、合格発表に係る手続等を考慮し、中期日程を1日遅らせて設定した。さらに、追加合格候補者を共通テストの結果を考慮して、慎重に決定する必要がある。

(2) 将来的な課題

1) 本県の保健医療分野に貢献する看護職者を輩出していくためには、如何にして優れた学生を多く確保するかが重要となるが、このためにはより多くの入学志願者を集め、試験の倍率を高く維持することが必要である。過去数年、本県はもとより全国的に看護学部の新設が相次いでおり、その傾向は今後も続くことが予想される。長期的には本学においても今後志願者数の減少が懸念されることから、志願者確保のための対応策を引き続き検討していく必要がある。

2) 一般選抜中期日程の動向について

中期日程は、受験生の併願状況からみると、明らかに第1志望のすべり止めという感が否めず、今年度はそれが顕著であった。喫緊の課題でも述べたように、成績上位者から辞退するという状況であり、入学生の確保も難しい。質の高い入学生を確保するために、今後は中期日程か後期日程かを吟味することが必要であり、そのために数年は動向を分析していく。

3) 編入学試験制度の廃止の検討

本学では編入学試験を平成26年度まで行ってきたが、現在はその試験区分による学生の募集を停止している。このことを考慮し、令和3年度から新たに導入した選抜試験については、新しい選抜方法を取り入れた。今後は、各選抜試験にかかる募集定員数の配分見直し等の検討を行ない、編入学試験の廃止に向けた準備と手続を進めていく必要がある。

4) 選抜試験成績と入学後の学業成績との相関（各選抜試験別の追跡調査）

現在実施している入学者選抜の適確性を評価し、その改善点等を探っていくためにも、入学後の学業成績と選抜試験成績との相関を検証すべきであると考えます。

第5節 図書委員会

1 所掌事項

- (1) 図書の整備及び購入計画に関すること
- (2) 図書館の運営に関すること
- (3) 学内情報処理に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

○全体会議：11回（4/16、5/10、6/3、7/27、8/30、10/6、11/11、12/16、1/20、2/17、3/24）

主な議題：図書館の開館予定、新規購入図書、除籍図書、和・洋雑誌の購読、図書館活動報告、電子ジャーナル・データベース、図書館設備環境の整備

(2) 成果

- 1) 図書館開館計画の策定や図書館所蔵資料の廃棄など、運営を円滑に行なった。
- 2) 予算の範囲で、「書籍、購読雑誌、電子ジャーナル」の各々を丁寧に選定して購入した。

- 3) 前年度に更新した図書管理システムの動作不良部分を業者と連携して改善を継続した。
- 4) コロナ禍であっても望まれる、図書館の利用希望などをアンケートでも把握しつつ、これらと感染状況などを鑑みた上での開館方法の変更などを行った。この結果、学内利用者を中心に図書館機能を適切に供給することができた。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

- 1) 新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大や学内の利用の必要性を鑑みつつ、開館日や利用方法の変更、感染防止に関する対策などを来年度も検討する必要がある。
- 2) 電子ジャーナル・データベースなどの利用料金の高騰が止まらないため、利用状況や必要の有無を今後も検討していく必要がある。
- 3) 図書管理システムの動作不良部分の改善を継続しなければならぬ。また、次回の更新に向けて、システムの仕様とこれに必要な金額の検討などを進める必要がある。
- 4) 蔵書の増加に伴い、保管場所が困難な状況である。除籍資料について引き続き対応が必要である。
- 5) 老朽化している AV ルームの機器を更新する必要がある。
- 6) 館内の wifi 環境について検討・改善する必要がある。

(2) 将来的な課題

図書館経費の大幅な削減を実現して以降は大幅な削減が難しい状況ではあるが、少額であっても図書館経費の削減に向け、今後も努力していく。限られた予算をどのように活用し、現在の図書館機能をいかに維持していくかについて、引き続き検討が求められる。

第6節 紀要委員会

1 所掌事項

紀要に関する事項について調査及び審議すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

○全体会議：12回（4/16、5/10、6/3、7/27、8/30、10/6、11/11、12/16、1/20、2/17、3/17、3/24）

主な議題や実施した事項：

- ① 紀要投稿規定・原稿執筆要領・チェックリスト・原稿テンプレートの見直し
- ② 編集担当マニュアルの検討
- ③ 令和3年度紀要原稿の募集日程の決定
- ④ 令和3年度紀要編集・発行日程の調整
- ⑤ 紀要原稿の査読者と編集担当者の決定
- ⑥ 紀要原稿の査読結果の取り纏めと修正論文等の進捗状況の確認
- ⑦ 採否決定
- ⑧ 編集作業（原稿確認、校正等）
- ⑨ 紀要の入稿・発行作業

(2) 成果

- 1) 長野県看護大学紀要の発行（募集、査読の手配、編集、校正など）

- 2) 紀要投稿規定・原稿執筆要領・チェックリストの軽微な修正を行った。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

- 1) 近年の投稿数の減少は依然として改善されていない。投稿論文数を増加させる対策の必要がある。
- 2) 編集担当者らの作業に、過負荷な業務や混乱が見受けられる。さらに円滑な編集作業への方法の改善が望まれる。
- 3) 近年、電子ジャーナル化している他学の紀要が多くなってきている。本学もこの形式に移行する場合の検討を進める必要がある。

(2) 将来的な課題

近年、論文執筆においても、研究者倫理規範を修得し遵守することが求められるようになってきている。従来、論文執筆における倫理的な不文律は当然存在するが、編集作業時に参照できるような一定の基準の整備を視野に入れておくことが、より質の高い紀要の発行に繋がると考えられる。

第7節 学生委員会

1 所掌事項

- (1) 学部及び大学院の学生の生活指導及び援助に関すること（新入生オリエンテーションに関することを含む）
- (2) 学部及び大学院の学生の課外活動に関すること
- (3) 学部及び大学院の学生の健康管理、健康相談及びカウンセリングに関すること
- (4) 寄宿舍及び寄宿生に関すること
- (5) 奨学生に関すること
- (6) 学部及び大学院の学生の就職に関すること
- (7) その他学部及び大学院の学生の厚生に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

11回の委員会にて協議・検討して、表内の項目について活動を実施した。

委員会開催日：第1回 令和3年4月16日、第2回 5月28日、第3回 6月25日

第4回 8月6日、第5回 9月13日、第6回 10月22日

第7回 11月17日、第8回 12月16日

第9回 令和4年1月25日、第10回 2月16日、第11回 3月15日

表1 学生委員会 活動内容

項目	日程等	活動内容
新入生オリエンテーション	令和3年 4月6日	自治会主催、学生員会が開催支援を担い、感染症対策を取りながら教員紹介、自己紹介、学内見学を実施した。
教務ガイダンス	4月7日～8日	1) 「学生生活の留意事項」は新型コロナウイルス感染防止のため、ハラスメント防止、ソーシャルメディア利用、防災を含めて学生委員が実施した。

		<ul style="list-style-type: none"> 2) 消費生活セミナー、ワーキングセミナー、交通安全講習会、防犯講習会は、ハイブリット方式で開催した。1年生は対面、昨年受講できなかった2年生はオンラインで参加した。 3) キャリアガイダンスは、就職支援員が実施した。
自治会の活動支援	随時 5月 9月	<ul style="list-style-type: none"> 1) 自治会執行委員会の持ち方 2) 大学祭中止の検討と中止に伴う補正予算承認のための支援
寄宿舎及び寄宿生に関して	随時	<ul style="list-style-type: none"> 1) 入寮、退寮に関する周知 2) 寮内の雨漏り、騒音、漏水などの対応 3) 休校中の学生の生活状況の確認 4) 美化活動の実施
学生のアルバイトに関するアンケート調査	6月	<ul style="list-style-type: none"> 1) 臨地実習の感染症対策としてアルバイトを制限するにあたり、学生のアルバイトの実態と経済状況、貸付制度利用の可能性について調査をした。Google フォームを用いて集計し、結果は教授会に報告した。後学期実習より、みらい基金の貸付制度が受けられるよう感染症対策委員会と共に要請した。
フードドライブの開催	12月6日～8日	<ul style="list-style-type: none"> 1) 教職員や大学生協を中心に食品を提供してもらい、実習中の学生を優先に配付をした。その他、社会福祉協議会、企業から提供された食品の配付を随時実施した。
健康管理	4月 随時	<ul style="list-style-type: none"> 1) 定期健康診断、内科検診の日程調整 2) 学生のコロナ禍における健康管理 <p>オンライン授業に伴う健康被害防止のアナウンス</p>
就職・キャリア支援	随時 5月11日 8月6日 7月2日 12月20日 4月7日 4月9日 10月20日 12月20日 8月20日、10月22日、12月6日、1月7日 11月4日、1月5日 10月9日 12月25日、3月29日	<ul style="list-style-type: none"> 1) 進路面談・相談 2) 就職試験・内定状況の把握 3) 各学年キャリアガイダンス <ul style="list-style-type: none"> 1年生 キャリアガイダンスⅠ 2年生 キャリアガイダンスⅡ 3年生 キャリアガイダンスⅢ（1回目） キャリアガイダンスⅢ（2回目） 4年生 キャリアガイダンスⅣ 4) 国家試験対策ガイダンス（1回目動画配信） 国家試験対策ガイダンス（2回目） 5) 3年生 国家試験対策ガイダンス 6) 国家試験対策模擬試験 看護師4回実施した。 保健師2回実施した。 成績を集計して教授会報告した。 7) 1～3年生 公務員試験ガイダンス 8) 公務員試験対策模試、公務員対策保健師模試をそれぞれ2回実施した。 9) 公務員対策保健師模試2回実施した。

		10) 市町村保健師採用合同説明会は新型コロナウイルス感染症の影響により、中止した。
国家試験特別補講	1月12～25日	1) 担当教員と日時、方法などの調整、学生への告知 下記内容をオンライン授業で実施した。 計算問題対策：太田先生 感染学：中畑先生 疾病の成り立ちと回復の促進：喬先生 人体の構造と機能：三浦先生 疫学・保健統計学：秋山先生 薬理学：坂田先生 公衆衛生看護学、学校保健、産業保健：酒井先生、安田先生、御子柴先生
課外活動 サークル活動		1) 新規団体・サークル設立、活動継続、活動休止にする事項 2) 新型コロナウイルス感染症に伴う活動制限、施設使用制限
看・保・助 国家試験 合格対策会議	令和3年3月25日	1) 合格状況の確認 2) 教職員への速報メール配信 3) 不合格学生による内定先への連絡確認 4) 不合格学生の今後に関する確認
その他		1) 奨学金（学生支援機構給付奨学金、緊急給付金）に関する事項 2) ハラスメント相談員の検討 3) 大学宛てにあったアルバイト求人、ボランティア活動報告 4) 旧姓および通称名使用の取扱要項の作成

(2) 成果

1) 感染症蔓延状況下での学生生活支援

感染症対策に伴い、様々な学生生活が制限され、長期化する中で生じている弊害に対応し、予防に努めた。学生生活の具体的な変化として、リモート授業の長期化およびサークル活動の原則中止が継続し、学生の肥満や痩せ、メンタルの不調、寮・アパート生活の孤立化が生じた。飲食店の営業自粛の影響よりアルバイト先の減少、保護者の経済状況の変化が生じた。就職活動においても試験日程やリモート面接など変更が相次ぎ、ストレスを感じる学生も少なくなかった。これらに対して、それぞれ所掌事項を担当する学生委員間で連携・協働しながら対応にあたった。長期休暇中であっても相談窓口は利用可能であることを示したチラシを作成し、配信した。学生の変化を早期に把握し、保健室、学年顧問につなぐように対応した。

2) 自治会主催の新入生オリエンテーションの支援

前年度中止の影響として、学生生活への不安や戸惑い、不適應を示す学生が生じた。新入生同士、在学生や教職員の交流を図ることができず、大学生としての学生生活への移行と適応がうまく図れなかったことが推察された。このようなことから、新入生オリエンテーションの重要性を再認識し、感染症対策のもと半日のスケジュールで実施した。会場の分散、一部オンライン化して、教員紹介、自己紹介企画、大学構内の見学を実施することができた。

3) 学生のアルバイトに関するアンケート調査

臨地実習に臨むための感染対策として、不特定多数と接触するアルバイトを制限する必要が生じた。本学では、学費減免や奨学金給付を受けている学生が一定数いることから、アルバイトが制限されることによる影響について実態調査を行った。全学生を対象に6月にアンケート調査を実施した。回答率82%でアルバイトの業種では、飲食店や販売業など対人サービス業が大半を占めていた。年収は、10万円～100万円までばらつきがあった。実習中アルバイトができないことによる生活への影響として、あまり影響がない50%、少し厳しくなる35%だった。貸付制度利用の意向については、どちらともいえないが66%だった。調査結果は感染症対策委員会、教授会に報告し、みらい基金による実習貸付制度を要請するための資料として活用された。

4) 自治会活動の支援

上級生からの引継ぎを受け、戸惑うことなく新役員が活動できるよう、学生生活指導・援助担当委員を中心に支援をした。具体的には、自治会執行委員会の持ち方、議事録の残し方、大学祭中止の検討・判断、大学祭中止に伴う補正予算案の検討、承認、令和4年度新入生オリエンテーションの企画・運営に関する支援を行った。その結果、自治会の組織的な体制の立て直しが進み、自主的に安定的に活動することができるようになってきている。役員が刷新されてもこの状態が維持されるよう引き続き見守っていくことが必要である。

5) 就職・キャリア支援

各学年のキャリアガイダンスは、オンラインでの実施となったが、ほぼ全員の参加を得て実施することができた。コロナ禍の影響により就職試験の日程変更やオンライン面接など対応を要した。令和3年度卒業生の就職内定者は78名（助産師5名、保健師12名、看護師60名）、進学は、4名（助産3名、養護教諭1名）だった。長野県内への就職率は65.4%だった。令和3年度卒業生の国家試験合否状況は看護師98.8%、助産師100%、保健師88.1%であった。保健師として就職が内定していたが、保健師国家試験に不合格となった者が1名あった。既卒の保健師国家試験再受験者は3名あり、2名が合格した。

6) その他

4月に入学生1名より通称使用の要望があった。旧姓に通称、性別の取扱を含め要項を検討し、令和4年度学生便覧に掲載して、希望学生に使用できるようにした。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

1) 感染症対策の長期化に伴う学生生活への影響は、現在も継続しており、注視していくことが必要である。学生生活に不安や困難を抱えている学生の相談窓口を周知するとともに、学生の様子や変化を察知して、早期に対応することが必要である。そのため事務局内の学生委員（就職支援員、生活支援員、保健師、教務・学生課）および学年顧問との情報共有、連携・協働は欠くことが出ない。また、自治会を中心にピアサポート体制を整備し、新入生への声かけを行っているが、実際の開催には至っていない。

2) 国家試験については、一部学生の模擬試験結果の低迷があり懸念された。実際、看護師98.8%、助産師100%、保健師88.1%という成績だった。不合格者の次回での合格を後押しすることはもちろん、4年生の国家試験合格を目指し、より密接な指導が必要である。

- 3) 昨年に引き続き、感染症蔓延の影響を受けながらの就職活動および就職試験であった。就職支援員が学生個々と面談し細やかな支援を実施した。課題は年々早まる採用試験に対し、従来4年生の4月に実施していた個人面談を早める必要がある。
- 4) 学習委員会規定第5条4項に教職員学生協議会の記載があるが、前委員長より一度も開催されていない。必要性も含め協議する必要がある。現在は、自治会と随時連絡と取り、活動しているため特に支障はなかった。
- 5) 平成27年度作成の学生支援体制のフローは、新任教職員オリエンテーションにて、学生委員会が説明している。しかし、実際には形骸化していることが懸念され、一度評価をして、現状に即したものに改定することが必要である。
- 6) ハラスメント相談員の選任は、学生委員会で行うことが規定されている。2年任期再任を妨げないとなっているが、同一教員が長期担っている現状にある。誰もが相談員になれることが必要であり、任期での交代を積極的に進めていく必要がある。
- (2) 将来的な課題
- 1) 学長提案による「新入生の地域からの学び」は、新科目「アカデミックリテラシー」によって、一部実現する運びとなった。しかし、大学生活の拠点となる駒ヶ根を知るといふ部分に関しては、感染症対策もあって実現していない。新入生オリエンテーション企画に盛り込むという意見もあったが、教授会で発案された「(仮)ベーシックリテラシー」にその内容が含まれていたことから、今後新設科目となるのか動向を見ていく必要がある。

第8節 ネットワーク推進委員会

1 所掌事項

- (1) ネットワーク環境維持・管理に関すること
- ① コンピューターネットワーク（以下「ネットワーク」という。）のデザイン策定と執行
 - ② ネットワークにかかわる予算策定と折衝
 - ③ ネットワークにかかわる機器の購入・設置・設定
 - ④ ネットワークのセキュリティ対策
 - ⑤ ネットワーク関連機器の監視
 - ⑥ ネットワークに関するクレーム対応
 - ⑦ アウトソーシング業者の窓口
 - ⑧ メールアドレスの登録削除変更の学内側の窓口
 - ⑨ メールアドレス管理
- (2) 情報公開・広報に関係すること
- ① 「長野県看護大学ウェブサイト管理運営要領」および「ガイドライン」に示される業務
 - ② 大学ウェブサイト（広報関係）の制作主体
- (3) IT啓発に関係すること
- ① 学内教職員、また学生向けの啓発活動
- (4) その他委員会が必要と認める事項

2 活動と成果

- (1) 委員会活動
- 1) 委員会の開催（3回）の他、随時メールで委員内での情報共有を実施した。
 - ① 新任教職員ガイダンス、大学院新入生ガイダンス、学部新入生ガイダンス
 - ② 大学購入 ZOOM アカウントの管理

- ③ 新入生 ZOOM 接続テスト及び接続に関する資料配布、フォローアップ
- ④ DHCP サーバー・ファイアウォール機器管理
- ⑤ 学内ネットワーク回線・配線の状況調査
- ⑥ Google アカウントの管理
- ⑦ サイボウズの管理
- ⑧ SSLVPN の管理
- ⑨ 人事異動に伴う各種アカウントの処理
- ⑩ ESET および SPSS ネットワークライセンスの認証サーバーの管理
- ⑪ バーチャルサーバー（インフォバレー及び GMO インターネット）の管理
- ⑫ ドメインの管理（nagano-nurs.ac.jp および.com）
- ⑬ 大学ホームページの管理
- ⑭ 新たな大学ホームページの制作と公開準備
- ⑮ ホームページによる広報
- ⑯ 2022 年 9 月末における現行プロバイダーのサービス終了に伴う新プロバイダーとの契約
- ⑰ 新任教職員へのメール・サイボウズ等の使用方法のガイダンス
- ⑱ 新入生等へのメールの使用およびスマホでの受信ガイダンス
- ⑲ 領域別実習の全体オリエンテーションでのメール受信状況確認
- ⑳ 大会義室と図書館の無線 LAN の管理
- ㉑ 大学院生室 1 から 4 の無線 LAN の管理
- ㉒ 上記以外の各種個別ガイダンスやサポート

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

近年、研究・教育機関への標的型の攻撃、個人情報流出等、インターネット関連の脅威が増大しており、セキュリティ対策の充実が求められている。大学基準協会の指摘事項対応として、株式会社キッセイコムテックに障害発生要因や対応方法を照会できる体制を構築できた。しかし、基本的なセキュリティ対策として、学内ネットワークに接続している機器の管理システムが存在していない。現在のところ本学の教育研究棟のネットワーク回線は教職員が特に機器の登録を行わず、自由に使用できる環境にあるものの、一般的な大学におけるセキュリティ体制を整備しているとは言い難い状況にある。利用頻度の増大とともに、セキュリティ対策上は、利用者の登録及び管理システムを導入し、さらに研究室向けの回線と、教室等の回線は分離すべき時期と考えられるが、管理システム導入には、予算の問題の他に利用者登録等の管理業務を行う担当者、管理体制の構築が必要であることが障害となっている。

(2) 将来的な課題

回線業者である NTT と大学外の回線を 1 Gbps で契約しているものの、学内回線は基本的に 100Mbps を上限とする回線および機器となっている。利用者数や頻度、動画やシステムのアップデートに伴う通信量の増大を鑑み、今後、学内も 1 Gbps 回線に強化することが考えられる。遠隔授業の導入により、学生寮において寮生が本学内の回線を使って学習する場合も想定されるため、寮と基幹機器間の回線を向上させることが考えられる。しかしながら、前述したセキュリティ対策の導入と同様に、この件も予算が必要であることが大きな障害となっている。

また寮に学生が個人で無線ルーターを設置しているが、無線機器同士の干渉や、誤った設置による通信障害が懸念される。寮で通信障害が発生した場合、寮生個人のパソコンの問題か接続機器か、回線の問題か、判別が困難なこと、また学生によってはパソコン使用経験が少ない者がいることが、対応をより困難にしている。なおルーターの誤った設置による障害が発生した場合、当該機器を設置した学生のみならず、寮全体における遠隔授業の受講に支障をきたす可能性がある。寮内に大学で無線アクセスポイントを設置することも考えられるが、位置や構造的に接続しにくい部屋が出る可能性が高い。これは寮の構造、また技術的にも困難な問題である。そのため授業の受講はケーブルによる接続を学生に推奨している。

本学ではグループウェアとしてサイボウズを運用しているが、実際のところ、講義室などの施設予約と、ファイル共有サービスのみが運用中であるため、オーバースペックとなっている。有料のレンタルサーバーにて運用しているが、費用対効果の面での問題がある。しかし新サービスへの移行は使用者である教職員に、データ移動や操作方法の習得等の負担を生じさせることが障害となっている。慎重に情報を収集し未だ検討中である。企業の無料サービスの採用は、セキュリティ面の問題があり、保留している。

また、ホームページは現在主に本委員会の担当者が更新しているが、ホームページ管理運営要領には「ホームページの管理に必要な実務を大学の事務局が代行」、「大学の広報として公開するドキュメントは大学の事務局が作成するものとする。」と定められている。今後の検討課題としたい。

第9節 FD・SD委員会

1 所掌事項

- (1) 教員の教育能力開発に関すること
- (2) 研究能力の開発に関すること
- (3) カリキュラム開発への協力に関すること
- (4) 授業改善に関すること
- (5) 教職員の職務遂行能力の開発に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

1) 研修会の開催及びオンライン研修サイトの案内

9/9に、オンラインにて「カリキュラムに関する研修会」を開催した。参加者は教職員52名であった。また、同日に、オンラインによる「EBSCOの研修会(EBSCOhostを使いこなす)」を開催した。54名(教職員51名、大学院生3名)が参加した。両研修会のアンケート結果から、いずれも概ね好評であり、EBSCOの研修会については昨年度よりも参加者がかなり増加した。

また、教育や研究に活用出来るオンライン研修サイトについて、メールで案内した。

2) 第18回長野県看護大学研究集会の開催

3/18に、オンラインにより開催した。特別講演、参加者同士の交流会の他、県内看護職者との共同研究、県内看護職者の院内研究、産学官関係者による研究、本学教職員による研究について、口頭発表やポスター発表を行った。長野県看護大学看護実践国際研究センター活動報告については、紙面発表を行った(一部ポスター発表あり)。本学教職員、本学大学院生や学部生、学外の方々が数多く参加し、活発な議論が行われた。アンケート

ト結果からは、特別講演を中心に、全体的に良い評価が寄せられたことが窺えた。また、研究集会専用のホームページを作成し、ポスターはサイト内で閲覧出来るようにした。抄録集については、電子ファイルのみとし、サイト内からダウンロード出来るようにした。座長についても本学講師の教員に依頼し、教職員や大学院生、学外の方々が参加しやすい体制を試みた。

3) 新任教職員オリエンテーションの開催

4/1、2、5に、ハイブリッド形式と一部対面式で開催した。対象者は、教職員12名であった。令和2年度内着任の教職員については、着任時にも資料を配布した。

(2) 成果

上記の活動から、教員の研究能力や教育能力の開発、授業改善、教職員の職務遂行能力の開発に関して情報を提供したり、研修する機会を設けたり、また、研究や活動内容を学内外へ公表したりすることが出来たと考えられた。加えて、オンラインによる方法を用いて研修会等を開催することで、教職員の参加をより促すことが出来たと推察された。

前年度に掲げた課題に対する取り組みについては、下記の通りである。授業参観の見直しについては、オンライン研修サイトの案内の他、カリキュラムに関する研修会を企画し、教育能力の開発や授業改善に繋げることが出来たと考えられた。また、研究集会の見直しについては、本学教職員だけではなく、大学院生や学外の方々がより参加しやすい内容や形式に改めた。その結果、多くの看護職者やその他の機関の方々、大学院生等の参加により、本学教職員の研究能力の開発の促進に大きく影響したと考えられた。また、研究集会を通じて、様々な情報提供を行ったり、情報交換の場を設けたりすることで、大学として県内外の看護職者を中心とした方々への貢献もあわせて行うことが出来たと推察された。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

1) 教員の研究能力、教育能力の開発について

教員間で研究や教育に関する取り組み等を自由に意見交換出来る場所や機会がより必要と考えられる。

(2) 将来的な課題

1) 教員の研究活動の促進

学術誌への論文投稿、外部研究費の取得などを大学全体として進めることが必要である。

第10節 評価委員会

1 所掌事項

自己点検・評価及び第三者評価（以下「大学評価」という。）に関し、次の事項について審議し、取り組んでいる。

- (1) 自己点検・評価の企画及び実施に関する事項
- (2) 第三者評価への対応に関する事項
- (3) 自己点検・評価の結果の公表に関する事項
- (4) 大学評価の結果に基づく活用及び改善方策に関する事項
- (5) その他本学の大学評価に関する事項

2 活動と成果

(1) 委員会活動

開催回数	開催日	議 題
1	5月18日(火)	大学基準協会の大学評価結果に対する対応について
2	6月15日(火)	大学基準協会の大学評価結果に対する対応状況について 改善課題に対応するワーキンググループの立ち上げについて
3	7月20日(火)	大学基準協会の大学評価結果に対する対応状況について
4	10月5日(火)	大学基準協会の大学評価結果に対する対応状況について
5	11月2日(火)	大学基準協会の大学評価結果に対する対応状況について
6	12月7日(火)	大学基準協会の大学評価結果に対する対応状況について

ワーキンググループ活動

開催回数	開催日	議 題
1	6月22日(火)	基準4「教育課程・学習成果」の改善に向けた検討について
2	7月30日(火)	基準4「教育課程・学習成果」の改善に向けた検討について
3	9月8日(水)	基準4「教育課程・学習成果」の改善に向けた検討について

(2) 成果

大学基準協会の改善課題5件のうち、基準2「内部質保証」と基準4「教育課程・学習成果」の2件について、改善策を検討した。基準4に関しては、教務委員会・教務部会で検討した内容とワーキンググループにおいて出された意見等を集約して、学部・大学院のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを改訂するとともに、アセスメントポリシーを定めた。また、学部・大学院ともカリキュラムマップを策定し、加えて学部においてはカリキュラムツリーを策定し、令和4年度から適用することになった。

基準2に関しては、評価委員会並びに評価委員会のチェック機関として運営委員会の在り方を抜本的に見直し、組織図の改訂と、それぞれの規定を改定した。

改善課題5件の改善策案を取りまとめ、年度末教授会で報告することができた。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

令和4年7月29日までに大学基準協会へ改善報告書を提出するため、令和3年度中に取りまとめた改善策案の内容を、令和4年度運営委員会で確認し、提出版報告書を完成させる。

(2) 将来的な課題

大学評価でも指摘のあった、内部質保証を推進していくために組織見直し等を行ったが、今後は実際にPDCAを機能させる必要がある。各委員会と個々の教員が行うPDCAサイクルを回した活動をモニタリングし、大学としての自己点検・自己評価に反映させる仕組みを確立する。また、教員の業績評価における地域貢献の評価指標を作成するなど、毎年発行している自己点検・評価報告書の内容について検討し、本学の自己点検・評価報告を有効活用できるようにする。

第11節 倫理委員会

1 所掌事項

- (1) 申請のあった人及び人に由来する試料を対象とした研究計画の審査
- (2) 実施後の報告書の審査
- (3) 研究倫理教育に関すること
- (4) 公的研究費内部監査に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

- 1) 毎月第3火曜日に定例審査及び、倫理審査申請書の改訂や研究倫理教育研修の検討などの会議を計12回開催した。
- 2) 研究報告書の提出状況として、審査を受けた研究について実施状況を把握した。
- 3) 研究倫理教育の研修会を令和4年3月9日3限目に実施した。講師は佐久総合病院／佐久医療センター臨床研究・治験センターの事務局長で上級個人情報保護士の新美三由紀先生。
- 4) 内部監査チームによる公的研究費内部監査を実施した。(令和4年1月6日、11:00～12:00、事務局、倫理委員会委員長、副委員長、教務・学生課長の3名)

(2) 成果

- 1) 定例の会議において申請のあった研究計画書の審査を行った。今年度申請件数は25件だった。そのうちの3件は迅速審査として審査した。承認となった研究計画書は19件でそのうち、「条件つき承認」となった10件の研究計画の修正再提出に対し、随時審査を行い、全てを承認とした。決定延期は3件あったが、その後承認された。不承認は3件だった(表1)。
- 2) 研究実施に関する報告については、前年度までに審査を受け今年度研究を実施している研究について研究実施に関する進捗状況の把握を行った。結果、「研究実施後の報告」提出は3件、「進捗状況の報告」20件、「期間延長の届け出」1件の計8件の研究計画書について報告を受けた。また、APRIN受講者数は28名(院生を含む)であった。
- 3) 3月9日に行われた研究倫理教育の研修会に関しては、53名参加(教員50名、修士院生1名、博士院生2名)。アンケート回収37名。アンケートにおいて、本研修の主要テーマである「研究倫理と臨床倫理」について、全員が分かったと回答した。また、「個人情報保護とプライバシー保護」についても、ほぼ全員が分かったと回答した。本研修会は、記録する価値が高く、当日参加できなかったものや希望者に、配布資料および動画を提供できるようにしている。
- 4) APRIN(旧CITI Japan)によるe-Learningの受講修了について、有効期限を1年後の年度末までとした。
- 5) 倫理審査の結果報告は文書で出すことになっているが、文書では修正事項等の細かいニュアンスが伝わりにくかったり、どう修正したらいいか申請者が分からなくて修正に困ったりするという苦情が届けられた。そのため、委員長としては、事前・事後相談を受けつけたり、報告書で具体的な修正例を提案したりするなど、申請者が分かり易いきめ細かな対応をすることを心がけた。

表1 令和3年度 倫理審査申請とその結果

月	申請 件数	承認	条件付き承認			決定 延期	不承認	備考
			承認	未確定	取下げ			
4	1	0	1	0	0	0	0	
5	1	0	1	0	0	0	0	
6	4	1	2	0	0	0	1	
7	4	2	1	0	0	1	0	
8	3	1	1	0	0	1	0	
9	1	0	1	0	0	0	0	
10	2	2	0	0	0	0	0	迅速審査1
11	2	0	1	0	0	0	1	迅速審査1
12	2	1	1	0	0	0	0	
1	0	0	0	0	0	0	0	迅速審査1
2	3	1	1	0	0	1	0	
3	2	1	0	0	0	0	1	
合 計	25	19(条件付き承 認を含む)	10	0	0	3	3	迅速審査2

(令和4年3月25日現在)

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題(懸案事項)

- 1) 令和3年の個人情報保護法の改正に伴い、令和4年4月から倫理指針が改正される予定である。それを受けて、研究計画書の修正が必要となってくる。次年度で検討したい。
- 2) 倫理審査の結果報告は文書で出すことになっているが、文書では修正事項等の細かなニュアンスが伝わりにくかったり、どう修正したらいいか申請者が分からなくて修正に困ったりする例が多い。そのため、委員長としては、事前・事後相談を受けつけたり、報告書で具体的な修正例を提案したりするなど、申請者が分かり易いきめ細かな対応をすることが必要とされる。
- 3) コロナ対応のため、一昨年前から会議はオンラインで行っている。しかし、外部委員の中にはオンライン環境が整っていない場合もあり、参加はオンラインないし書面参加という形になった。しかしそのため、外部委員の参加が希薄化している可能性が出てきた。今後、外部委員の参加の形態を再考しなければならない。

(2) 将来的な課題

- 1) 教職員および大学院生を対象とした研修会では、どのような内容で開催すべきか検討する必要がある。倫理指針ガイダンスには「少なくとも年に1回程度は教育・研修を受けていくことが望ましい」とある。看護学分野における研究手法も様々なものが行われるようになってきたことを鑑み、多様な研究方法における倫理的な課題をテーマとして取り上げ研修会として企画していくことが必要である。

第12節 ハラスメント防止委員会

1 所掌事項

- (1) ハラスメント防止のための啓発活動に関すること
- (2) ハラスメントの相談に関すること
- (3) ハラスメントに起因する問題の解決及び被害の救済に関すること
- (4) その他ハラスメントの防止等に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

1) 第1回ハラスメント防止委員会：令和3年5月25日（火）

- ① 役割分担を決めた。
- ② 新規採用者及び学生へのガイダンスの実施報告をした。
- ③ 今年度の委員会活動方針についてフリーディスカッションをした。
- ④ 今年度の研修会は昨年度に続き、オンライン授業の特殊な教育環境下、教職員と学生との間の意思疎通などハラスメント防止の立場での課題を継続する。
- ⑤ 新しい相談員の訓練実施の報告をした。
- ⑥ 夏冬の教職員懇親会、中止と決定
- ⑦ 相談事案1件について、委員長と副委員長が対応、次回報告とした

2) 第2回ハラスメント防止委員会：令和3年6月29日（火）

- ① コミュニケーション促進月間
標語とイラストの募集
- ② 相談事案の中間報告

3) 第3回ハラスメント防止委員会：令和3年8月19日（木）

- ① 8/26（木）～10/10（水）に開催予定のeラーニングでのハラスメント防止研修会について
- ② コミュニケーション促進月間：標語とイラストの募集
- ③ 相談事案の最終報告

4) 第4回ハラスメント防止委員会：令和3年11月22日（月）

- ① ハラスメント防止研修会の実施報告、アンケート結果報告
- ② コミュニケーション促進月間：標語（3件）とイラスト（1件）の応募と選考（最優秀賞各1件）
- ③ 次年度ハラスメント防止リーフレットに上述の標語とイラストを活用する。
- ④ 本年度の相談員相談件数（4件）を報告した。

(2) 成果

1) 新規採用者及び学生へのガイダンス

令和3年度の新規採用教職員及び学生を対象とし、ハラスメント及びその防止に関する本学の対応を説明した。

2) 8/26（木）～10/10（水）にeラーニングでのハラスメント防止研修会を実施した。

昨年度に続き、オンライン授業での教育環境で起こるハラスメントの特殊性と、その解決策を中心とした内容で実施し、学生と教職員の参加が多く関心度が高かった（98回の配信参加）。アンケートは58名（学生9名、教職員49名）より回答が得られ、学生・教職員ともに好評だった。

3) ハラスメント事案の対応 1件

ハラスメント事案が1件あった。最初に相談員と個別相談を行った。その後委員会内で対応を協議したところ、情報把握の必要性があり、委員長と副委員長で面談することになった。数回の面談の結果、相談者は「通知」を希望したため、規定に基づき、委員長が「ハラスメントを行ったと思われる」相手に「通知」を行った。その後、委員長は相談者と再度面談し、「通知」した結果を報告ならびに「手続き終了の通知」を渡した。本人は通知を受け取り、事案対応の手続きは終了した。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

ハラスメント対策ガイドラインを実際に運用する際に必要となる書式や書類、および具体的なマニュアル等の更なる整備が必要である。具体的には、ハラスメント事案への対応を申し立てる際の手続きに要する書式や、マニュアルでは対応できない場合の対策を準備する必要がある。

長く続いているオンライン授業といった特殊な教育環境における潜在的なハラスメントの認識と防止策については、引き続き継続的に研修会の開催などを通じて、教職員および学生の意識を高めていくことが重要である。

(2) 将来的な課題

ハラスメント防止のための効果的な活動内容を再検討する。ハラスメントに関して、年間で数件程度の相談がある。しかし、表面化しにくい潜在的なハラスメント、あるいは本人に自覚のないハラスメントがあることも否めない。そのことを問題として認識し、教職員・学生の間で共有し合い、相互に理解を深め合うためにどうすべきか、そして委員会としては、ハラスメントを予防するために、あるいは問題が起こった場合にどのように効果的に対応すべきか、具体的な方法論を検討しなければならない。

また、潜在的な問題があっても相談しにくい環境もあるため、学外者も含めた第三者委員会の設置等による環境整備を検討していく必要がある。

第13節 動物実験委員会

1 所掌事項

- (1) 動物実験計画書の申請及び審査に関すること
- (2) 動物実験の適正な実施及び結果に関すること
- (3) 動物実験の施設及び飼養に関すること
- (4) 実験動物慰霊祭の実施に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

1) 動物実験講習会の実施：令和3年8月25日

新型コロナウイルス感染症の対策としてオンラインを使用し、例年と同じように松本清司信州大学特任教授に依頼して実施した。参加者は、教員4名、学部学生6名の合計10名であった。また、8月28日に喬委員が、25日の講習会を踏まえて、本学の外国人客員研究員1名に対して動物実験講習会を実施した。

2) 第1回動物実験委員会：令和3年9月1日

- ① 文科省ライフサイエンス課から遵守状況に関する調査があり「研究機関における動物実験等の実施に関する基本方針」等の調査依頼に関して、小笠原主任が回答を作成

し、委員長の確認のもと返送した。

- ② 新年度にともなう委員会ホームページ（「研究倫理」内の自己点検・評価報告書など）と、「サイボウズ」（議事録の整理など）の更新が、秋山副委員長によって行われた。
 - ③ 第9回動物慰霊祭の実施計画について、日程の調整および当日の予定等が話し合われた。日程については、委員長から学長に照会し、最終的に決定することとした。
 - ④ 動物実験計画書の審査（4件：2021-1、2021-2、2021-3、2021-4）を行った。各実験課題について、あらためて申請・承認番号の確認を行った。「令和3年度人体の構造と機能 演習：血球形態の観察と浸透圧による影響」を2021-4とし、申請者メールアドレスの訂正、タイトルの誤字の修正を行うことで委員長が確認・承認することとなった。2021-1から3も同様に誤字を修正することで承認された。
 - ⑤ 動物実験計画変更の承認を行った。2019-7、2020-2の動物実験について、使用する麻酔薬について変更申請があり、審議の結果、承認された。
- 3) 第2回動物実験委員会：令和3年11月1日
- ① 動物実験計画書の審査（1件：2021-5）を行った。計画書の内容について審議し、とくに修正意見などはなかった。
 - ② 第9回動物慰霊祭について打ち合わせを行った。献花と慰霊碑の清掃を小笠原主任が手配し、献花は30本を用意する。少人数参加でマイクの準備は不要であることを確認した。
- 4) 第9回実験動物慰霊祭：令和3年11月18日
- 新型コロナウイルスの影響により、昨年と同様、卒業研究で動物実験に携わる学生に限定して執り行われた。次第は、北山学長による慰霊の辞、黙祷、献花、学生代表の挨拶、喬実験責任者による挨拶の順に行われた。慰霊祭の概況は、秋山副委員長によりホームページにアップされた。
- 5) 第3回動物実験委員会：令和4年3月14日
- ① 年度末に係る書類（苦痛度の集計表、動物実験室環境保管記録、飼養実験動物数・動物実験等の成果についての報告書、実験動物の飼養及び保管に関する記録、動物実験報告書、動物実験の自己点検表、受払簿、動物実験に関する自己点検評価報告書、動物実験委員会活動報告など）の確認を行った。
 - ② 動物実験計画書の審査（2件：2021-6、2021-7）を行った。審査の結果、喬教授がタイトル及び本文中の用語、また実験計画における観察期間等について修正・追加を行うことで、承認された。

(2) 成果

- 1) 動物実験計画書の審査と委員会による承認
- 2) 動物実験に係る教育訓練の実施
- 3) 実験動物慰霊祭の実施
- 4) 動物実験に関する環境の整備及び各種情報のホームページでの公表
- 5) 本学の動物実験を踏まえ、6本の論文が学術誌に投稿され、掲載された。

3 今後の課題

- (1) 喫緊の課題（懸案事項）
- (2) 将来的な課題

動物実験の成果をさらに公表していくように努める。

第14節 感染症対策委員会

1 所掌事項

- (1) 本学におけるインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症発生の予防と対応に関すること
- (2) 感染症に関する情報の収集、調査に関すること
- (3) その他感染症に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動

1) 委員会での審議、感染症予防活動等

年 月	内 容
令和3年4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイダンスにおいて学生に本学における感染症対策を周知 ・ 新型コロナウイルスワクチン予防接種について学生に説明会を実施 ・ 第1回委員会 長野県感染警戒レベルの引き上げに伴う本学の対応について ・ 第2回委員会 長野県感染警戒レベルの引き上げに伴う本学の対応について 学生の新型コロナウイルスワクチン接種について 実習にあたっての感染拡大地域への学生の移動制限について
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習にむけて、風疹、麻疹、B型肝炎などの抗体価陰性者への注意喚起 ・ 第3回委員会 長野県感染警戒レベルの引き下げに伴う本学の対応について 学生の新型コロナウイルスワクチン接種状況、副反応について ・ 第4回委員会
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第5回委員会 長野県感染警戒レベルの引き下げに伴う本学の対応について 学生の新型コロナウイルスワクチン接種状況 実習の受け入れについて ・ 第6回委員会 長野県感染警戒レベルの引き下げに伴う本学の対応について 学生の新型コロナウイルスワクチン接種状況 学生アルバイトの制限について ・ 第7回委員会 長野県感染警戒レベルの引き上げに伴う本学の対応について 長野県看護大学みらい基金への要望書について ・ 第8回委員会 長野県感染警戒レベル4における臨地実習の取り扱いについて
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第9回委員会・第10回委員会 長野県感染警戒レベルの変更に伴う本学の対応について
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第11回委員会 夏季休業に伴う学生・教職員への感染対策の周知について

	<p>実習にあたっての提出書類について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第12回委員会 <p>長野県感染警戒レベルの引き上げに伴う本学の対応について</p>
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・結核週間に合わせ、啓発 ・第13回委員会 <p>後学期における感染対策の適用に関する見直しについて 長野県感染警戒レベルの延長に伴う本学の対応について 「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う臨地実習に関する基本方針」 の変更について 臨地実習、助産実習の学内演習について 後学期の授業実施方針について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第14回委員会 <p>長野県感染警戒レベルの変更に伴う本学の対応について 実習先病院の学生の受け入れ状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第15回委員会 <p>臨地実習に関する感染対策の申請について 後学期開始に当たっての本学の対応について</p>
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザ予防策（予防接種）について情報提供（メール） ・第16回委員会 <p>長野県感染警戒レベルの変更に伴う本学の対応について</p>
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザ予防対策指導（メール） ・学部3年生に、学内でインフルエンザの集団予防接種を実施
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・世界エイズデーにあわせエイズ・性感染症啓発（掲示） ・新型コロナウイルスワクチン職域接種打合せ
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・第17回委員会・第18回委員会 <p>長野県感染警戒レベルの変更に伴う本学の対応について 3回目職域接種について</p>
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・春季休業に伴う学生・教職員への感染対策の周知（メール）
令和4年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・第19回委員会 <p>令和4年度前期の授業実施方針について</p>
通年を通して	<p>新型コロナウイルス感染症の注意喚起、予防対策指導、学内感染対策実施。 対応方針等の学内感染対策の主軸は、随時、学長、学部長（感染症対策委員長）、研究科長、局長で検討会議を実施。広報啓発は、次長、教務学生課長、保健室中心に実施。</p>

※新型コロナウイルス感染症対応が1年間の主な活動内容となった。

2) 感染症発生時の対応（感染者の把握・情報収集と対応）

- ・3年度は出席停止扱いとなった学生は39名であった。
- ・出席停止の理由は新型コロナウイルス感染症関係が38名、感染性胃腸炎1名であった。
- ・コロナウイルスのオミクロン株が主流となり、症状が軽いため、風邪症状がある者も、新型コロナウイルス感染症疑いとして、出席停止とした。

- ・オミクロン株は感染力が強く、また潜伏期間も短く、感染拡大を防ぐ対応が困難な状況であったが、学内での感染拡大は見られなかった。
- ・出席停止解除の判断は感染症対策委員会で行い、本学保健師による保健指導をして登校を可とした。

(2) 成果

- 1) 新型コロナウイルス感染症、感染性胃腸炎疑いと診断された学生に対し、保健師による保健指導を行った。特に感染性胃腸炎疑いの学生には、具体的な助言を行った。
- 2) 新年度入学者に対する小児ウイルス感染症の入学前の抗体価検査勧奨が6年目となった。新しい進め方が、学内全体に定着してきた。
- 3) B型肝炎の予防接種について、平成30年度から変更した手順で実施し、今のところ、問題はなく進んでいる。
- 4) 令和2年度から、学内において、学部3年生に対してのインフルエンザ集団接種を始めた。
- 5) 新型コロナウイルス感染症に関して、健康チェックシートによる健康状態の把握等、学内での対応方針を作成し、見直しも実施した。
- 6) 新型コロナワクチン職域接種を信州大学と一緒に実施することができ、3回の接種を早期に速やかに実施することができた。接種率も9割を超えている。
- 7) 職域接種を実施するにあたり、初めての接種で不安もあることから、新型コロナウイルス感染症及び新型コロナワクチン予防接種について学生に対し説明会を実施した。
- 8) 新型コロナウイルス感染症の発生动向や県の感染警戒レベルの発出ならびに変更に応じて、学内における感染防止対策の立案と実施等、具体的な対応を行なった。
- 9) 学外実習の実施について、県の感染警戒レベルに応じての実習先施設との実施要件や対応に関する調整を行なった。
- 10) 教務・学生課とともに、学生及び教職員に対し、感染防止対策の周知や授業実施計画の策定を行なった。
- 11) 新型コロナウイルス感染症に関する規定及び指針等の見直しを行なった。

3 今後の課題

- 1) 学部学生及び大学院生・教職員に対し、有症状時の受診や出席停止等について引き続き周知を徹底していく。
- 2) 令和元年度より、新入生に百日咳の予防接種を勧奨している。
- 3) 令和2年度より、学部3年生へのインフルエンザ予防接種を導入したが、全学年に拡大していくか検討をしていく。
- 4) 新型コロナウイルス感染症対策として、おそらく今後4回目のワクチン接種をすることになると思うが、1年生の接種時期が2年生以上の学年とずれている者が多いため、どのように接種をすすめていくか検討が必要である。
- 5) 来年度においても新型コロナウイルス感染症の全国的な蔓延が危惧されることから、引き続き学内における対応をその発生状況に応じ、また授業や実習等の学内活動を最大限維持しながら、適切に実施していく必要がある。

第15節 コンソーシアム信州運営

1 所掌事項

委員会の所掌事項を定めた学内規定等はない。設置の目的は、「高等教育コンソーシアム信州（事務局信州大学）に加盟している本学が、加盟大学としてコンソーシアムが連携して行う企画・活動に参加し、それらが円滑に行われる様、運営にも携わること」とし、事実上の暫定的な所掌事項として下記の項目を挙げる。

- (1) 高等教育コンソーシアム信州の推進チーム会議に関すること
 - 1) 推進チーム会議及び部会への出席と、本学窓口としての協議
 - 2) 遠隔授業等の発信及び受信（受講）に関する事項
 - 3) 10 大学合同キャンプの運営・学生勧誘に関する事項
 - 4) 長野県内大学単位互換制度の本学窓口としての事項
 - 5) その他、高等教育コンソーシアム信州の活動に関すること
- (2) 高等教育コンソーシアム信州の学生支援部会に関すること
 - 1) 学生支援部会への出席を本学学生委員会に要請
- (3) その他必要と認める事項

2 活動と成果

- (1) 推進チーム会議および担当者会議
 - 1) 第1回：令和3年4月21日（水）9：00～9：50
推進チーム会議後の担当者会議の主な内容
 - ① 推進チーム会議委員の構成について：承認された。
 - ② 令和2年度長野県内10大学合同学生キャンプについて：これまで教育部会が中心となっていたが、本年度から学生支援部会が中心となることが説明された。
 - ③ 県内大学連携事業補助金について：昨年度行われた「大しごとーく in 信州 advance 『松本若者会議』」の報告があり、本年度も実施することが承認された。
 - ④ 学生支援活動について：募集の選考評価要領の改訂が承認された。
 - ⑤ 地域連携プラットフォームへの移行について：設置が予定されている看護部会に関しては、今後、看護系の大学には個別に連絡すると説明があった。
 - ⑥ リカレント教育について：県から、リカレント教育支援についての説明があった。
 - 2) 第2回：令和3年6月16日（水）9：00～10：10
 - ① 学生活動支援事業について：申請8件のうち、上位6件の採択が承認された。
 - ② インターンシップ成果報告会について：11月ないし12月にオンラインで開催することが決定された。
 - ③ 令和2年度の決算が報告された。
 - 3) 第3回：令和3年10月20日（水）9：00～10：30（オンライン）
 - ① 令和4年度事業計画について：承認された。
 - ② 令和4年度事業費及び分担額について：承認された。
 - ③ コンソーシアム信州運営会議について：7月9日に行われた運営会議について報告があった。
 - ⑤ 「印象力&コミュニケーション力セミナー」について：令和3年12月18日に県立大学での対面とオンライン（zoom）のハイブリッドで行った。
 - ⑥ インターンシップ成果報告会：12月6日～12月24日（オンライン）

4) 第4回：令和3年12月15日（水）9：00～10：30

- ① 学生交流イベントについて：次年度の学生交流イベント、合同FDについて意見交換をした。
- ② 学生支援活動について：次年度の公募要項の、選考評価要綱について協議し、承認された。
- ③ 地域連携プラットフォーム構想について意見交換を行った。
- ④ 県内大学連携事業について：意見交換を行った。
- ⑤ その他：12月開催のインターンシップ成果報告会及び印象力&コミュニケーション力について報告があった。

5) 第5回：令和4年2月16日（水）9：00～9：50

- ① インターンシップ成果報告会について：委員によるネットでの投票結果を確認し、グランプリ1名（商品：図書カード1万円）、準グランプリ3名（商品：図書カード5,000円）を決めた。また、今後の活動について意見を交換した。看護大としては、今後看護系がどのように関わることができるのかを検討してもらった。
- ② 令和4年度学生生活活動支援について：次年度の募集要項、申請書の変更について承認された。
- ③ 令和4年度学生交流イベントについて：次年度から「学生生活活動部会（仮）」を立ち上げ、「若者会議」と連携していくことが協議され、承認された。
- ④ 令和4年度単位互換授業について：「e-Learning 授業受講の手引き」を作成し、全大学に配布するため、学生に受講を促す。
- ⑤ その他・報告：地域連携プラットフォームおよび県内大学連携事業について、現状の報告があった。

(2) 成果

- 1) コンソーシアム主催の学生共同募集PR事業を行った。
- 2) コンソーシアムで対応している学生支援事業をPRした。
- 3) 単位互換授業を開講した。

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

コンソーシアム信州が地域連携プラットフォームに移行することが決まっているが、どのようになるか、いまだはっきりしない。特に、「看護系部会」が設置される予定であるが、新組織の形態や内容に対応した関与が必要となってくる。状況を注視していきたい。

とはいえ、コンソーシアムの事業はまだいくつか継続される。単位互換授業や学生支援事業・参加型企画など、本学学生が積極的に参加するための周知に努めていきたい。

第16節 防災委員会

1 所掌事項

「本学防災委員会規程：平成26年4月1日」に基づき、次の事項について調査および審議する。

- (1) 学生及び教職員の防災及び減災意識の向上に関する事
- (2) 災害発生時の対応策に関する事
- (3) 大学施設の防災及び減災に関する事

- (4) 地域との防災及び減災の連携等に関すること
- (5) その他防災及び減災に関すること

2 活動と成果

(1) 委員会活動 等

1) 委員会の開催

	開催日	主な審議事項
第1回	4月15日(水)	1. 長野県看護大学防災マニュアル(案)の検討 2. 災害発生時の対応 参集職員の配備及び活動検討
第2回	5月18日(水)	1. 令和3年度活動目標と活動計画について 2. ワーキンググループ(WG)の役割分担と業務概要について 3. 令和3年度自衛消防隊組織・任務分担表について 4. 非常招集、警戒宣言発令伝達の緊急連絡体制(案)について 5. 防災マニュアル(案)について 6. 令和3年度防災訓練について(計画)
第3回	6月11日(金)	1. 長野県看護大学防災マニュアルの報告
第4回	10月27日(水)	1. 消防避難訓練について

2) 防災訓練関連打ち合わせ

	開催日	主な審議事項
第1回	7月15日(木)	WG会議 地域防災訓練の内容について
第2回	8月5日(金)	WG会議 地域防災訓練について確認
第3回	8月10日(火)	地域防災訓練 地区との合同打ち合わせ
第4回	10月20日(水)	WG会議 消防避難訓練について
第5回	10月29日(金)	自衛消防隊班長会議

3) 訓練の実施

令和3年11月12日(金) 消防避難訓練の実施

令和3年4月21日(水) 安否確認訓練

(2) 成果

- 1) 消防避難訓練 令和3年11月12日(金) 参加者：学生118名、教職員46名
- 2) 安否訓練 令和3年4月21日(水) 返信率 学生71.1% 教職員48.1%
- 3) 安否確認 令和3年7月16日(月) 返信率 学生96.2% 教職員57.7%
- 4) 改訂版「長野県看護大学防災マニュアル」の作成

3 今後の課題

(1) 喫緊の課題(懸案事項)

1) 情報伝達訓練、消防避難訓練のあり方の見直し

これまで避難訓練は情報伝達訓練、地域防災訓練、消防避難訓練を実施してきた。しかし令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、規模を縮小しながら地域防災訓練と消防避難訓練のみを実施してきた。令和3年度は新型コロナウイルスのさらなる感染拡大により、万全な準備を行っていたにもかかわらず地域防災訓練が中止となってしまう、訓練は情報伝達訓練の要素を少し取り入れながらの消防避難訓練のみとなった。しかし、実施後のアンケートでは、訓練の規模や内容が丁度よいとの回答が多く、これまで、毎回混乱の中実施され参加者の不満を招く結果を招いている情報伝達訓練を

はじめ、防災訓練の在り方の見直しが喫緊の課題となっている。また、本年度は自衛消防隊の打ち合わせを行い、それぞれの役割確認を行って訓練に臨んだが、出来れば毎年もう少し早い段階での打ち合わせを行い各担当の役割認識を高めていくことが必要である。また、消防避難訓練後のアンケートでは、訓練当日がとても寒くもう少し早い時期に開催してほしい声が多かった。来年度にむけては実施時期の見直しも必要となる。

2) 訓練前の打ち合わせの強化

発災時には本部（特に事務局）の動きが重要になる。訓練時においても本部を中心とした教職員全体の有機的連携のもとでの対応が求められるが、令和3年度においては消防避難訓練とともに本部の動きが多少は改善したように思える。これまで訓練にあたっては自衛消防隊全体の打ち合わせが1回行われているのみで、本部との詳細な打ち合わせは行われていない。来年度は自衛消防隊や本部員とさらに綿密な打ち合わせを行い訓練に臨むことが求められる。

3) 防災週間を設け、減災・防災の意識啓発を行う

近年増加の一途をたどる災害に対し、当大学の学生や教職員の減災・防災への意識は低い傾向にある。減災や防災への意識啓発として、大学内で防災週間を設け、研修会や防災グッズ・ポスターの展示等、学生や教職員の意識啓発を行う。

(2) 今後の課題

1) 連絡体制の強化

令和元年10月に発生した台風19号は長野市、佐久市に大きな被害をもたらした。当大学がある伊那地域にもおいても災害が発生する危険性はある。災害発生時には「非常召集、警戒宣言発令伝達の緊急連絡体制」を活用する事が求められ、学生および教職員のより安全な避難・確認のためこれら連絡体制を常に強化する必要がある。

2) 避難時の支援体制の整備

本学の体育館は災害発生時には近隣住民の避難所等として活用される。今後は発災に関わる学内連絡体制、住民対応の初動について具体的に検討し、住民と協働作業の中で災害支援に携わるための体制の整備が必要である。

また学内においては、各避難訓練の実施に当たり、訓練当日は看護実践国際研究センター・地域貢献チームの災害看護支援プロジェクトの協力を得ている。しかし、防災委員の実践メンバーには数に限りがあり、計画準備の段階から協働で取り組む事も必要である。

3) 長野県内の医療系（コ・メディカル）大学、学校間のネットワーク作り

近年頻発する災害に鑑み、長野県内の医療系（コ・メディカル）大学や学校が相互に連絡・連携を取りながら、減災・防災・相互支援を行うためのネットワーク作りが必要である。

第17節 安全衛生委員会

1 所掌事項

- (1) 教職員の危険及び健康障害を防止するための基本となるべき施策に関する事
- (2) 教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関する事
- (3) 公務災害の原因及び再発防止対策に関する事
- (4) その他教職員の危険及び健康障害の防止並びに健康の保持増進に関する事

2 活動と成果

(1) 委員会活動

年月日	内 容
3年7月	ストレスチェック実施
7月	労働安全衛生月間を周知
9月	ストレスチェック結果を配付
12月17日	職員安全衛生管理規程に基づく第1回安全衛生委員会を開催。学内のストレスチェック結果について委員会内で共有し、職場環境改善策を検討。その他、ACEプロジェクト、年次休暇取得状況及び超過勤務実績状況等について協議、検討。(コロナ禍の影響で県の会議が開かれず、本会も内容を縮小) 産業医による職場巡視を実施。職場点検チェックリストを活用した職場巡視実施。
随時	交通労働災害防止等について教授会等で啓発 定期健康診断や人間ドック、各種検診、ACEプロジェクト・ストレッチについて周知、啓発、受診勧奨、精密検査等の事後指導実施。

(2) 成果

6回目となるストレスチェックが実施され、その結果を踏まえて委員会を開催し、学内の状況を確認、問題点を共有し、今後の対策等を検討する事ができた。

1月にメンタルヘルス研修会を開催予定であったが、コロナの感染拡大により実施ができなかった。

会議には、5年目となるが、産業医に参加していただき、助言を頂く事ができた。また、産業医による職場巡視を実施できた。感染予防対策を中心に巡視した。

3 今後の課題

- (1) 健康障害の防止や健康の保持増進に係ることについて、教職員の啓発や受診勧奨等を継続強化していく。
- (2) ストレスチェックの結果、県に比べ教員の改善が必要な為、挨拶や声掛け等意識して積極的に実施し、必要時に上司に相談や支援を求めやすい環境を整えていく。

第18節 研究科委員会教務部会

1 所掌事項

長野県看護大学看護学研究科教務部会は、看護学研究科博士前期課程、博士後期課程の大学院教育に関する以下の内容を扱う。

- (1) 看護学研究科カリキュラムに関すること
 - 1) カリキュラムの検討と作成
 - 2) 非常勤講師について(依頼と決定)
- (2) 看護学研究科単位取得に関すること
 - 1) 博士前期課程・後期課程の大学院生の単位取得状況の確認
- (3) 看護学研究科科目履修に関すること
 - 1) 大学院科目履修の決定
 - 2) 科目履修生の選考
- (4) 看護学研究科院生の休学、退学、長期履修などに関すること

- 1) 休学・退学願、長期履修願、奨学金返済免除者の審査
- 2) 長期履修希望者の選考
- (5) 看護学研究科修士論文、博士論文の審査及び学位授与に関すること
 - 1) 修士論文審査基準と審査方法の見直し
 - 2) 修士論文発表会の進行
 - 3) 博士論文審査委員選出
 - 4) 博士論文審査基準の見直し
 - 5) 博士論文発表会進行
 - 6) 博士論文審査結果公表の手続き等
- (6) 上記(1)～(5)に関わる学則の検討
- (7) 看護学研究科院生の大学院生活全般に関すること
 - 1) 年1回の大学院生と教務部会員との話し合いの開催

2 活動と成果

(1) 部会活動

	日 時	内 容
第1回	4月13日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・前期課程入学生の英語実力試験の結果について ・研究科教員一覧の確認 ・休学願(博士前期課程)について ・退学願(在学年限終了)について ・R3年度博士後期課程学生の論文指導体制 ・教授の退職に伴う指導体制案の検討と学外指導教員の検討 ・R2年度教務部会年間活動計画の検討
第2回	5月11日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度修士論文テーマ、論文指導教員・副指導教員について ・学外指導教員願いについて 「長野県看護大学学位論文に係る学外指導教員及び学外審査委員に関する内規」の内容を確認 ・休学願(博士後期課程1名)の審議 ・履修登録状況の確認
第3回	6月8日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・休学願(博士後期課程1名)について ・博士論文審査委員(案)について ・大学評価結果に対する改善課題への対応について(意見交換)
第4回	7月13日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・主指導教員から提出された学外指導教員の論文指導計画の内容確認 ・大学評価結果に対する改善課題への対応について ディプロマポリシー等について検討
第5回	9月7日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・博士論文発表会について ・休学願(前期課程2名)について ・大学評価結果に対する改善課題への対応について 3つのポリシーの連動性、アセスメントポリシー等の検討 博士後期課程における新設科目「看護教育論(仮)」の検討 ・令和3年度「看護海外研修」について ・COVID-19の影響による専門看護師コースの実習実施状況の報告
第6回	9月28日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・休学願(前期課程1名)について ・令和3年度博士論文指導教員について(副指導教員追加) ・令和3年度後学期博士論文研究計画書審査体制(案)の検討

第7回	10月19日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度大学院入学願書提出者における長期履修希望者の申請要件の確認について ・令和4年度シラバス・学生便覧スケジュール等について ・大学評価結果に対する改善課題への対応について アセスメントポリシーの検討 ・令和4年度博士前期課程共通科目「コミュニティデベロップメント論特講」の開講について
第8回	11月17日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度学年歴(案)について 前期課程、後期課程の学位取得までのプロセスの見直しについて 検討 ・令和4年度非常勤講師(案)について ・令和3年度後期博士論文審査委員(案)について ・大学評価結果に対する改善課題への対応について カリキュラムマップの検討 新設科目「看護学教育特講」の必修科目としての検討
第9回	12月14日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度修士論文審査体制(案)について ・博士論文審査における学外審査員願いについて ・令和4年度科目等履修生募集要項(案) ・令和4年度研究生募集要項(案) ・大学評価結果に対する改善課題への対応について カリキュラムマップの作成依頼について
第10回	1月18日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・前期課程修了予定者の単位修得状況について ・令和4年度大学院時間割について ・修士論文発表会(予定)について ・後期課程新設科目「看護学教育特講」シラバスについて ・令和3年度大学院ガイダンスについて ・令和3年度大学院非常勤講師について
第11回	2月1日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度大学院入学者における長期履修希望者の申請要件の確認について ・休学願い(後期課程学生)について
(持ち回り稟議)長期履修在学期間退縮願いについて		
第12回	2月10日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・休学願い(後期課程学生)について ・令和4年度大学院非常勤講師(案)について ・令和4年度大学院ガイダンスについて ・大学院学則の改正について
第13回	3月9日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・退学願い(後期課程学生)について ・休学願いについて(適否の検討) ・研究生の研究期間延長について ・博士前期課程、後期課程の修得単位認定について ・令和4年度大学院生名簿及び研究室名簿について ・カリキュラムマップについて ・令和3年度教務部会報告案について

(2) 成果

- 1) 令和3年度の学位授与は、修士（看護学）の学位5名、博士（看護学）の学位3名であった。
- 2) 博士後期課程の前期研究計画審査を2件について行い、研究計画として合格とした。
- 3) 大学評価結果に対する検討事項として、ディプロマポリシーの明確化とカリキュラムポリシーとの整合性の検討ならびにアセスメントポリシーの検討等を実施した。検討により、博士後期課程において令和4年度より「看護学教育特講」を必修科目として新たに開設することとなった。また、前期課程、後期課程のカリキュラムマップを作成することができた。
- 4) COVID-19の感染拡大が引き続く中でオンライン授業を取り入れていた授業を継続させた。
- 5) 研究計画審査、論文審査は、遠隔システムと対面を併用して実施した。また、今年度は、修士論文発表会（2次審査）をオンラインで実施した。
- 6) 大学院前期課程においてがん看護専門看護師コースの新規開設の認可を受けることができ、老年看護、小児看護、精神看護につづく4つめの専門看護師コースを開設する準備を整えた。

3 今後の課題

- (1) 博士前期課程および博士後期課程における論文作成過程の組織的な指導体制について検討する必要がある。特に博士論文審査では、「予備審査」にあたる論文審査を加えることの有効性について教務部会では検討してきている。教務部会内での議論にとどめるのではなく、論文審査の方法について、現に審査に関わる教員の意見を聴取しながら、課題を整理し、審査方法の検討に具体的に取り組む必要がある。

第19節 研究科委員会入試部会

1 所掌事項

- (1) 入試科目及び期日の選定に関すること
- (2) 合否判定の基礎資料に関すること
- (3) 入試の追跡調査に関すること
- (4) 入試のあり方に関すること
- (5) その他 入試に関すること

2 活動と成果

(1) 部会活動

令和3年度重点計画

- 1) 広報活動の見直しと強化
学報「大学院だより」の内容刷新とホームページ「大学院」の全面的見直し
- 2) 受験者を確保するための対策の強化
 - ① 博士後期課程学生確保のため、大学院の学則<博士課程への進学>の整備をはかる。
 - ② 大学のアカデミズムを社会に発信するために、教員の業績等を「リサーチマップ」に記載することを要請する。→ホームページ更新時にリンクする形とする。
- 3) 受験者および入学者の確保
博士前期課程（修士定員16）10名以上、博士後期課程（定員4）2～4名確保を数値目標とする。

4) 入試業務の的確／適正な運営

計画に則って、的確／適正におこなう。

	日 時	活動内容
第 1 回	5月11日（火） 16:00～17:20	①年間スケジュールについて ②2022年度の大学院学生募集要項について ③「大学院パンフレット」と「大学院だより」について ④受験者確保に関する方策について ⑤委員の役割分担について ⑥委員会開催日程について
第 2 回	6月23日（火） 10:00～11:00	①大学院だよりポスターについて ②広報用ポスターについて ③入試問題の作問について ④募集要項配布先の確認 ⑤その他
第 3 回	9月21日（火） 16:00～18:00	①事前相談の状況確認 ②入試問題の依頼状況確認 ③大学院入学者選抜試験業務処理要領の確認 ④進学（博士前期課程⇒後期課程へ）に関する大学院学則（第10条の2）の改訂 ⑤「リサーチマップ」の学内一斉導入の戦略
第 4 回	10月5日（火） 13:00～14:00	①入試出題者（専門科目）の進捗状況の確認 ②入試作問（英語・小論文）の進捗状況の確認 ③入試従事者配置表の確認 ④大学院入試試験業務処理要項の確認
第 5 回	11月16日（土） 17:00～18:00	①大学院入試、入試部会判定 ②大学院2次募集の検討
第 6 回	12月22日（火） 9:00～10:00	①博士課程への進学に関する内規について ②修士課程入学試験出願資格認定について ③入試問題の依頼状況の確認 ④大学院入学者選抜業務処理要項の確認 ⑤入学準備状況の確認
第 7 回	1月29日（土） 15:30～16:00	① 大学院2次募集入試部会判定

(2) 成果

1) 広報活動の見直しと強化について

計画通り、

- ① 「大学院だより」の内容を大幅に刷新した。

- ② ホームページ「大学院」の内容は、修論コース、CNSコース、博士課程と分けて説明を加えた。また入試情報を際立たせるため「バナー」を使って広報した。

新しく

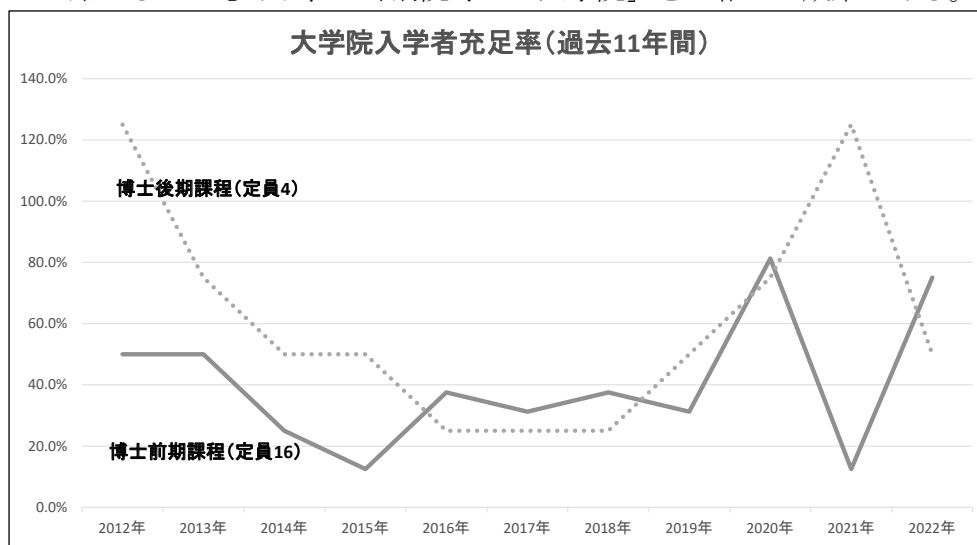
- ① 大学院入試関連ポスターをつくり、長野県内の主な病院に郵送した。また新規に立ち上がる（予定の）「がん看護 CNS コース」のポスターも長野県内の主な病院に郵送した。ポスターは計3回送付した。
- ② 経費削減のため、学生獲得の効果が薄い「募集要項の看護部郵送」は、2次試験から取りやめた。

2) 受験者を確保するための対策の強化について

- ① 大学院1次試験の事前相談は修士課程8名、2次試験の事前相談は修士課程10名、博士課程2名であった。
- ② 進学（博士前期課程⇒後期課程へ）に関する、大学院学則（第10条の2）の改訂で博士課程への進学に関する内規を作成した。（時期が遅く、進学者の獲得には至らなかった。）
- ③ 教員の業績等の「リサーチマップ」への記載は、教員60名中36名（60%）であった。

3) 受験者および入学者の確保

大学院出願資格審査の対象者は2次試験時に2名いた。大学院1次試験の受験者は修士課程4名であった。大学院2次試験では受験者は修士課程9名（8名合格）、博士課程2名であった。昨年度に比べ、修士課程は12名と大幅な増加が達成できた。新しくがんCNSが始まることもあり、広く病院等へ「大学院」を広報した成果である。



3 今後の課題

将来的／継続的な課題

- 1) 大学院受験者の動向を踏まえ、受験者および入学者確保の対策を強化し、安定的な大学院入学者確保に努める。
- 2) COVID-19の影響が落ちついた後、博士後期課程入試における外国人特別選抜の入試試験のあり方を検討していく。

第6章 学生生活及び学生への支援

第1節 学生支援活動

1 学生支援体制

(1) 目的

学生支援に係る教職員及び健康センターの役割を見直し、学生の学習・生活の両面からの支援の充実・強化を図る他、大学として迅速な対応を行うための体制を整備する。

(2) 個人情報の厳正な取り扱い

- ① 相談窓口となる者は、学生のプライバシーの保護に努める。
- ② 相談窓口となる者は、学生個人の権利利益を保護するため、必要な措置を講ずるよう努め適正な取り扱いを行う。

(3) 相談窓口及び実施方法

1) 学年顧問

- ① 各学年に2人の学年顧問を置き、学生の生活・履修・進路・学習面の相談を受ける。
- ② 休学、復学、退学、奨学金や就職推薦に係る書類作成及び保護者との連絡・調整を行う。
- ③ 卒業延期生は卒業まで同じ教員が担当する。

2) 保健室保健師

健康管理（精神・身体）全般を扱う。

3) 学生支援員・就職支援員

学生支援員は日常生活全般に係る支援を、また就職支援員は、進路・国家試験に係る支援を行う。

4) 臨床心理士（教員兼務）

臨床心理士として学生からの相談に応じる。

5) 健康センター

- ① 学生のこころの健康相談に応じる。
- ② 窓口は保健室保健師とし、必要に応じて精神看護 CNS や健康センター相談員（外部）の助言を得て対応する。

6) ハラスメント相談員

ハラスメント相談マニュアルに基づきハラスメントに関する相談等に対応する。

(4) 学生支援の責任者と責務

- ① 責任者は、学部にあつては学部長、研究科にあつては研究科長とする。
- ② 上記（3）の窓口となっている者は、学生から相談を受けた場合、自身で解決出来ないと判断した際は、責任者に相談する。
- ③ 相談を受けた責任者は、対処方法を検討して関係者に指示するものとする。なお、必要があると認めた場合には、学長に相談・報告する。
- ④ 学生支援に関わる者の意識の高揚及び資質の向上を目的として、各委員会の協力を得て教職員の自己研鑽を進める。

(5) 学長への報告

責任者は、生命への危険性が高い事案、ストーカー行為を受けている事案、親密な関係にある者から身体的・精神的暴力を受けている事案等の重要な事象について、学長に報告し、学長の指示を受けて対応する。

(6) 学生支援会議

長野県看護大学学生支援会議設置規程による。

(7) ハラスメントに当たる事象

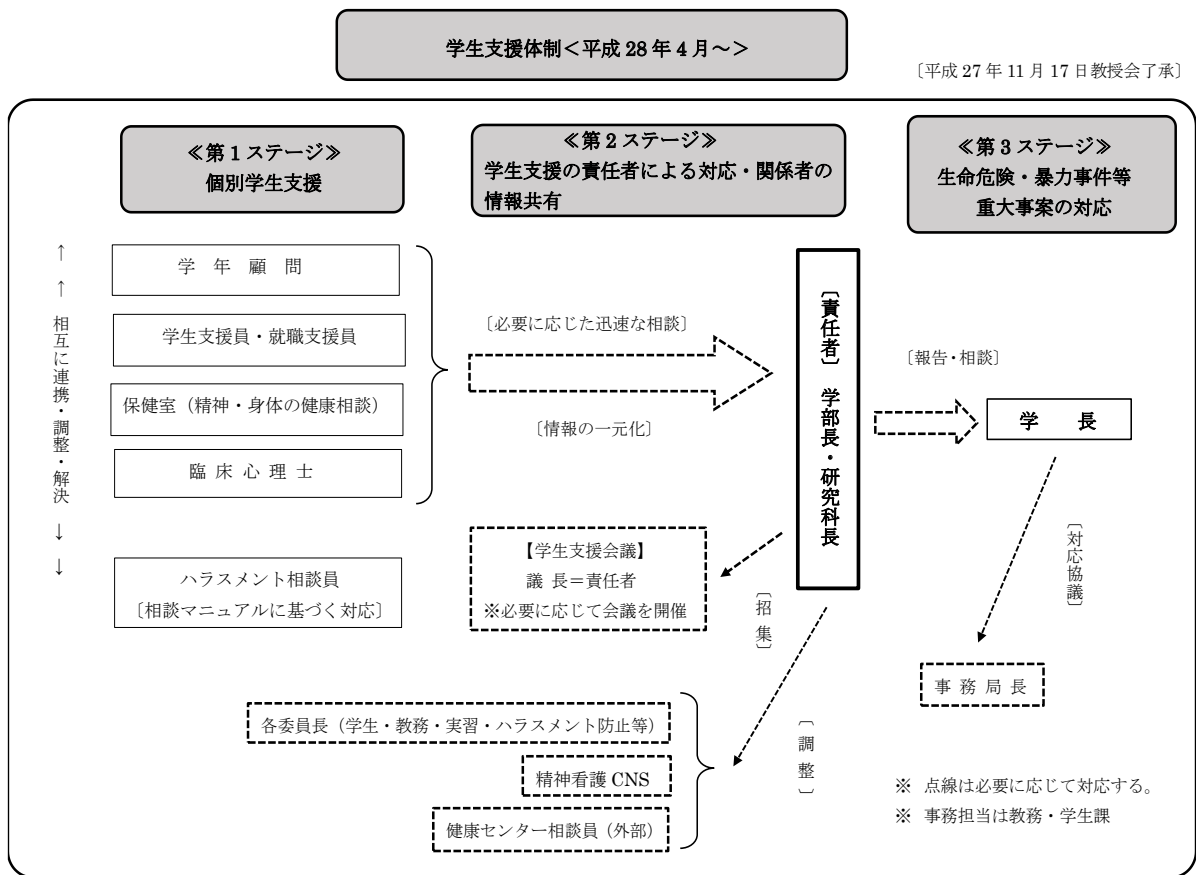
相談窓口となる者は、相談を進めるに伴って学生の抱える問題が明らかになり、ハラスメントにあたる判断できる事象が確認された場合、ハラスメント相談として対応することについて学生の了解を得たうえで、ハラスメント防止委員長に報告する。

(8) 学生支援体制の見直し等

支援体制の見直し等、学生の支援に関することは、教授会の審議を経て学長が決定する。

(9) 事務局

学生支援に係る事務は、教務・学生課が担当する。



2 学年顧問

(1) 学年顧問の役割

学年顧問は、学生に身近な存在として学部長の指揮のもと、学生の学習や生活に係る相談を受ける。なお、原則として入学から卒業までを同一教員が担当する。

(2) 学年顧問の主な仕事

- ① 学生の生活面の困りごとの相談
- ② 学生の学習面の相談 (履修単位の修得、実習に関する事、休学・退学等)
- ③ 学生の健康面に関する相談
- ④ 学生の進学・就職、国家試験の準備等に関する相談、看護師国家試験不合格時の支援
- ⑤ その他 奨学金の推薦状の作成等
- ⑥ 学生支援会議に出席する

⑦ クラス委員との連絡・調整

(3) 学生からの相談に関して学年顧問が連携する部署／担当者

学生の相談内容や問題となっている事項に応じて、就職支援員、学生支援員、保健室保健師、健康センター長、卒業研究担当教員、教務・学生課等の関係者と連携して対応する。

また、必要に応じて学部長に相談・報告をする。

(4) 保護者との連絡

学生の保護者への連絡が必要な場合は、学部長に相談のうえ、適任者が対応することとする。

また、その結果について学部長に報告する。

令和3年度学年顧問

学年	1年生	2年生	3年生	4年生
顧問の氏名	吉岡講師	近藤講師	河内准教授	井村准教授
	有賀講師	井本講師	曾根講師	浦野講師

※ 卒業延期生の学年顧問は、卒業まで同じ教員が担当

(5) 学年顧問の活動報告

<相談状況>

人数等 相談内容	相談内容別実人数（人） (1人の学生が、複数の相談をした場合は、相談内容毎に1人とカウント)						
	履修・学 習	アルバイト	進路・ 就職	対人関係	健康	家庭環境	その他
1年	2				8		13
2年	14		2		1		1
3年	3						
4年※	6		4	1	2	1	

※卒業延期生を除く

<総括>

1) 1学年

新型コロナウイルス感染症のために、対面学習とオンライン学習のハイブリッドでの授業となった。前学期終盤に学生と面談を行い、学習面や大学生活への支援を行った。学生は、新生活に適応できている様子であった。また、1年を通して保健室保健師、学生支援員と学生の情報を共有し、学生の心身の健康状況を確認した。その中で、複数の学生の心身の不調が確認された。特に、対面学習時に不調を訴え登校ができない学生、食事を摂ることができず体調を崩す学生が目立った。一部学生は大きく体調を崩し休養が必要になったため、休学をとり対応した。必要時には学生と面談を実施し、学生の心身の健康支援に努めた。合わせて、学生保護者とも面談を行い、学生の健康状態の把握と保護者が抱える不安に対する対応に努めた。

今後も、学生の心身の健康及び学習に支障が出ることが無いよう、保健室保健師、学生支援員、事務局らと情報を共有し、支援を継続していく。

2) 2学年

多くの学生は特に問題なく学生生活を送ることができた。1年次に履修が計画どおりできなかった学生も、本人の希望で2年次に上がったが、5月頃から体調不良を訴え、学習面に支障をきたす学生が3名いた。そのうち2名の学生は、面談と同時に家族との情報共有を図り進路について対応した。結果、複数回の対話を通して学生自身が学業の

継続が困難であると判断し退学になった。もう1名の学生は、健康面の理由で、複数の単位を取得できず、生活も十分にできない状況になり学生支援員、保健室保健師とともに継続的な対応を行った。健康回復を優先して休学となった。また、1年次から休学中の1名の学生は、復学に向けての支援を行ったが、進路変更により退学に至った。

さらに、単位が未認定になった学生3名に対しては、モチベーションが低下しないよう面談し、今後の学修計画を立てた。

今後もコロナ禍が継続し、学生の学習環境や交友関係などに影響が出てくると想定できるため、引き続き学習姿勢や健康面の変化を早期に把握できるように注視していく。また、継続して休学をしている学生に対しては復学に向けた支援を行っていく。

3) 3学年

多くの学生は日常生活に留意し、ハイブリッド授業や実習などに取り組むことができていた。後学期から開始された領域別実習においては、必要時担当教員らと学生の学修状況について情報共有を行った。必修科目の単位が修得できなかった学生がいたが、次年度の学修計画に向けて科目担当の教員から学修状況の情報共有を行った。また、領域別実習の配置において配慮が必要な学生について面談を行い、実習配置の調整を行った。

今後も引き続き単位未修得について支援を継続し、学生の健康面も含めた状況把握ができるよう保健室保健師、教務・学生課職員、学生支援員らと連携して支援していく必要がある。

4) 4学年

大半の学生はコロナ禍の状況下でも、実習、授業、卒業研究等を順調に進め、さらに、国家試験に向けての準備に取り組むことができた。年度当初、履修計画について複数名に対して何度か面談を行い、新たな履修計画を作成した。休学や退学をした学生に対しては、保健室保健師、教務・学生課職員、学生支援員らと連携しながら滞りなく対応することができた。就職に関しては、多くの学生が希望する職種内で定が得られ、国家試験の合格率(本年度卒業生)は、看護師 98.8%、保健師 88.0%、助産師 100%であった。卒業延期生については全員と面談を行い、履修計画の再確認を行った。今後も適宜、メールや面談などを通して、学生支援員や就職支援員らとともに支援を継続していく予定である。

3 新学期の学生生活ガイダンスの実施等

(1) 新学期の学生生活ガイダンスの実施

新学期開始直前に、各学年に対して学生生活ガイダンスを実施した。

(2) 防犯講習会の開催等

例年、新学期開始直後に、すずらん寮に入居する1年とアパート暮らしを始める2年を対象に、駒ヶ根警察署の警察官を講師に防犯講習会を実施しているが、本年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止した。

(3) ワーキングセミナー

アルバイトに関するトラブルを未然に防止するため、県労政事務所によるワーキングセミナーを開催した。

第2節 キャリア形成支援

1 在学時における進路支援

- (1) 就職・進学に関する支援
 - 1) キャリアガイダンスの実施
 - 2) 進路希望調査の実施
 - 4 学年 4 月：求職票の提出
 - 3 学年 4 月および 12 月：進路希望調査票の提出
 - 3) 個別面談の実施 4 月：卒業予定者全員を対象
 - 4) 求人票・募集要項等の整備
 - 5) 「進路の手引き」(キャリア支援ハンドブック)の作成：全学年および全教員に配布
 - 6) 求人等に関する来訪への対応
 - 7) 職場体験(インターンシップ)・職場見学等の紹介や斡旋
 - 8) 各種進路関係情報の提供(合同説明会の開催等の情報提供、進路情報誌の配布など)
 - 9) 大学院等の募集要項の整備
 - 10) 応募及び採用試験への支援

希望者に応募書類作成支援、面接試験個別練習、面接ビデオや関係図書の整備など
 - 11) 公務員・養護教諭等の受験対策

公務員対策講座への参加斡旋、参考図書等の整備、希望者への個別受験指導など
 - 12) 新社会人ワーキングセミナーの開催
 - 13) その他

進路資料室の整備・充実、キャリア支援のあり方についての見直し・検討など

(2) 支援の実施状況・結果

<一年次>

キャリアガイダンスⅠ 5月11日(火) 14:40~16:10

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○大学における進路選択や就職活動等についての基本的な知識を身につける。 ○本学の卒業時に取得できる免許や資格等を理解する。 ○卒業生の進路動向等により卒業後の進路の可能性を考える。 ○卒業後の進路を見通すことによって学習意欲を高める。 ○学内外の様々な進路選択に関するサポート資源を理解する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○本学の進路指導体制や卒業生の進路先など基本的な事項の説明を行う。 ○マイナビ講師によるキャリア形成についての講義を動画配信にて行う。 ○入学時点の進路希望について、レポート「卒業後の私」を提出する。

<二年次>

キャリアガイダンスⅡ(卒業生シンポジウム) 8月6日(金) 10:40~12:10

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○複数の卒業生による就職活動や職業生活に関するシンポジウムに参加し、進路意識を育むとともに看護職のキャリア形成について考えを深める。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○卒業生による体験等を踏まえたキャリア形成のためのシンポジウムを行う。 <p style="text-align: center;">シンポジスト：和田 英子 (松本児童相談所 家庭支援課 保健師) Zoom 田村 萌恵奈 (伊那中央病院 助産師) 森 和裕 (昭和伊南総合病院 看護師)</p>

<三年次>

キャリアガイダンスⅢ ①7月2日(金) 13:00~16:10

②12月20日(月) 10:40~12:10

ねらい	○卒業学年を控えて、希望や個性、特性に応じた進路先を考え、その実現を図るための情報を得るなど就職活動に必要な知識や態度を養う。
内容	<p>①職場での管理的業務を担当している講師(看護師・保健師)の方々に、職場の現状や看護大生への期待などについて講義を行っていただく。 講師：代田 とみ子(飯田市立病院副院長兼看護部長) 下原 千恵子(長野県健康福祉部医師・看護人材確保対策課担当係長) マイナビ講師による具体的な就職活動(インターンシップ・見学会など)についての講義を行う。</p> <p>②医療現場や自治体の採用状況、及び公務員試験・教員採用試験など、具体的な就職活動について、講義をしていただく。また、3年生にとっての2回目の進路希望調査を行う。 講師：生井 佑樹(㈱マイナビ キャリアサポート担当) 担当：花岡 秀樹(本学就職支援員)</p>

<四年次>

キャリアガイダンスⅣ 4月7日(水) 14:50~15:20

ねらい	○卒業学年として、就職活動・採用試験に必要な知識や手続きを確認する。
内容	○採用試験までの具体的な手順や履歴書(エントリーシート)の書き方、面接試験や小論文等の筆記試験への対応、求職票の提出についてなど、具体的な就職活動を進めるにあたって必要となる事項の説明を行う。

(3) 卒業生の就職・進路状況

- 1) 長野県内への就職者は51名(65.4%)で、昨年度の県内就職率(49.4%)を上回った。県内出身者の県内就職率は84.7%で、昨年度(69.8%)に比べ上がった。県外出身者の長野県内への就職者が1名あった。
- 2) 看護師は60名(昨年度59名)で、全就職者の76.9%(昨年度74.7%)を占めている。助産師は5名で、昨年度の8名から減少した。就職者数上位の病院は、信州大学医学部附属病院(10名)、伊那中央病院(7名)、長野市民病院、篠ノ井総合病院、健和会病院(以上3名)となっており、分散した。
- 3) 行政保健師は県内11名で、昨年度(9名)と比較すると増加した。ほかに県外の行政保健師が1名であった。
- 4) 進学では、大学院助産学実践コース(県外)へ2名、助産学専攻科へ1名(県外)進学した。また、養護教諭特別別科(県外)への進学が1名あった。

1. 学部卒業生（83名：9月卒業生の1名を含む）

(1) 就職（78名）〔看：看護師、助：助産師、保：保健師 教：教員〕（単位名）

長野県内						
医療機関・行政機関等	看	保	助	教	他	計
信州大学医学部附属病院	10					10
伊那中央病院	6		1			7
長野市民病院	3					3
篠ノ井総合病院	3					3
健和会病院	3					3
長野中央病院	2					2
相澤病院	2					2
飯田市立病院	2					2
北信総合病院			1			1
信州医療センター	1					1
浅間総合病院	1					1
佐久総合病院	1					1
北アルプス医療センターあづみ病院	1					1
県立こども病院	1					1
まつもと医療センター	1					1
長野県		1				1
長野市		1				1
松本市		1				1
諏訪市		1				1
伊那市		1				1
飯田市		1				1
木曾町		1				1
高山村		1				1
木祖村		1				1
原村		1				1
泰阜村		1				1
生坂村					1	1
計	37	11	2	0	1	51

長野県外						
医療機関・行政機関等	看	保	助	教	他	計
群馬病院（群馬県）	1					1
埼玉医科大学総合医療センター（埼玉県）	1					1
亀田総合病院（千葉県）	1					1
順天堂大学医学部附属浦安病院（千葉県）	1					1
エミナルクリニック（東京都）	1					1
総合東京病院（東京都）	1					1
町田市市民病院（東京都）	1					1
東京医科歯科大学医学部附属病院（東京都）	1					1
東邦大学医療センター大橋病院（東京都）	1					1
東京都立大塚病院（東京都）	1					1
横浜南共済病院（神奈川県）	1					1
湘南鎌倉総合病院（神奈川県）	1					1
北里大学病院（神奈川県）	1					1
新潟大学医学部総合病院（新潟県）	1					1
金沢医科大学水見市民病院（石川県）	1					1
岐阜県総合医療センター（岐阜県）	1					1
市立恵那病院（岐阜県）	1					1
静岡県立総合病院（静岡県）	1					1
沼津市立病院（静岡県）	1					1
浜松医科大学医学部附属病院（静岡県）	1					1
安城更生病院（愛知県）	1					1
海南病院（愛知県）			1			1
藤田医科大学病院（愛知県）	1					1
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院（愛知県）			1			1
名古屋徳洲会総合病院（愛知県）	1					1
京都大学医学部附属病院（京都府）			1			1
新潟県		1				1
計	23	1	3	0	0	27
県内・県外 合計	60	12	5	0	1	78

(2) 進学（4名）

神戸市看護大学大学院助産学実践コース	1	長野県外
奈良県立医科大学大学院助産学実践コース	1	
新潟大学養護教諭特別別科	1	
聖隷クリストファー大学助産学専攻科	1	

(3) その他（1名）

(4) 課題及び方策

- 1) 就職希望者が少ない県内の地域中核病院や小規模自治体（行政保健師）について、関係機関等との連携を図り、学生の関心を高め就職に結びつくような方策を検討していく。
- 2) 養護教諭を志望する学生に対する支援について、具体的な方策を構築するよう努めていく。
- 3) 生涯にわたるキャリア形成に資するため、各学年におけるキャリアガイダンスの充実に努めていく。
- 4) 学生の確かな進路選択のために、早期からの病院説明会やインターシップへの参加を促し、個人面談等をとおして、適切な指導助言に努めていく。

2 国家試験の対応状況

(1) 国家試験への支援の概要

1) 模擬試験の実施

看護師3回、看護師必修1回、保健師2回、助産師2回実施

本学教員に対して模試結果等の関係資料を情報提供

- 2) 国家試験受験手続説明会の開催
10月 願書の作成について指導、願書の取りまとめ、願書提出（郵送）
2月 受験票の交付及び受験に関する留意事項等の説明
- 3) 国家試験受験関係業務
受験に必要な書類（願書、修業見込証明書等）の整備・点検および提出
- 4) 免許申請手続き説明会の開催
2月 免許申請書類の配布及び留意事項等の説明
- 5) 合格発表後の進路指導
合否状況の確認 不合格者に対する支援
- 6) 既卒不合格者の受験手続や模試等の支援
- 7) 国家試験対策補講の実施（1月に実施）
- 8) 国家試験受験対策ガイダンス（4月と10月に実施）
- 9) 受験参考書籍等の整備

(2) 国家試験に関する実績

令和4年2月実施の国家試験では、助産師については受験者全員が合格することができた。看護師で1名、保健師で10名の不合格者があり、看護師内定取り消し1名、保健師からの職種変更1名であった。

<令和3年度国家試験の合否状況>

	総 数				新 卒				既 卒			
	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	合格率
第108回保健師	84	84	74	88.1%	83	83	73	88.0%	1	1	1	100.0%
第105回助産師	5	5	5	100%	5	5	5	100%	-	-	-	-
第111回看護師	83	83	82	98.8%	83	83	82	98.8%	-	-	-	-

(3) 課題及び方策

- 1) 受験者全員の合格を目指して、国家試験受験ガイダンスの充実や公開模擬試験および特別補講など今までの取り組みを更に発展・充実するよう努めていく。
- 2) 助産師資格受験者に対して、十分な受験準備ができるよう支援していく。
- 3) 既卒の受験者に対しては、受験手続きの相談に応じるとともに公開模試の受験促進などの支援を継続していく。

第3節 保健厚生

1 概要

保健室では、学生が心身共に健康で充実した学生生活を送れるよう健康診断や健康相談、傷病等緊急時の応急処置などを行っている。設備は、ベッド、応急セット、衛生用品、薬品棚、書類保管庫、寝具入れ、車椅子1台、血圧計、身長体重計、視力計などがある。保健室には、常勤保健師1名が配置されている。必要に応じて学校医へ相談し、学生支援員（看護師）、学年顧問らと協力・連携して対応している。

○保健室の役割・業務内容

- ① 傷病者の応急処置に関すること

- ② 健康診断、健康管理に関すること
- ③ 保健指導及び健康相談に関すること
- ④ 教育研究活動中の災害を補償する保険に関すること
- ⑤ 感染症予防や予防接種に関すること
- ⑥ 学校行事等の救護
- ⑦ その他保健に関すること

2 実績

(1) 保健室利用状況

平成 29 年度から令和 3 年度の保健室利用状況を表 1 に示す。相談内容は、体調不良、怪我、月経に関すること、実習、友人関係、進路、精神的問題に関することなど多岐に渡っている。体調不良や怪我等の状況により、受診同行や保護者への連絡などの支援も行った。

また、令和 3 年度には新型コロナウイルス感染症患者、濃厚接触者（疑いを含む）、感染性胃腸炎等感染症のため 39 名の学生が出席停止となった。具体的には、感染が疑われる症状のある学生は、学内演習、実習などの対面授業のみ、出席停止扱いとした。感染症を発症した学生等に対する保健指導、大学全体に向けての注意喚起・予防啓発を行い、その結果、重症化した学生や感染拡大・集団感染はなかった。

令和 3 年度は相談（その他）が多くなったのは、新型コロナウイルス感染症についての相談や対応が増加したこと、新型コロナワクチン接種に関する相談が多くなったこと、対面授業が減ったことでメールや電話相談が増えたことによる。

表 1 保健室利用状況

区分	29 年度	30 年度	元年度	2 年度	3 年度
健康相談（身体）	338	270	259	326	215
健康相談（精神）	90	177	163	167	74
相談（その他）	82	105	244	177	1,340
合計	510	552	666	670	1,629

(2) 定期健康診断の項目と受診状況

定期健康診断の項目は、①身体測定（身長と体重）、②血圧測定、③胸部 X 線検査（間接撮影）、④血液検査（貧血）、⑤尿検査、⑥内科診察の 8 項目である。平成 29 年度から令和 3 年度の定期健康診断の受診状況（学部生）を表 2 に示す。未受診の未受診項目は、尿検査だった。

定期健康診断の結果、各項目に異常が見られた者や自覚症状のある者には、受診指導や保健指導を行っている。精神的不調の兆候が見られる者には、個別面接を実施し、必要に応じて定期的な面接、受診勧奨などを行っている。

入学年度の定期健康診断では B 型肝炎抗原・抗体検査を実施している。抗原・抗体いずれも陰性であった者に対しては、予防接種を実施している。また、小児ウイルス感染症（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎）抗体検査に関しては、入学年度の定期健康診断で実施してきたが、29 年度からは、大学入学までに各自で抗体検査を済ませてくることを決定し、該当者には周知している。そして、この検査で抗体陰性及び陽性低値の者

には、予防接種を指導（勧奨）している。

表2 定期健康診断受診状況（学部生）

	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
健診対象者	337	343	345	342	339
受診者数（全項目を受診した者）	326	334	341	340	337
受診率（%）	96.7	97.4	98.8	99.4	99.4

3 今後の課題

学生相談の窓口としては、保健室、学生支援員、学年顧問など複数整備され、学生は相談者を選択することができる。相談対応者は、学生支援会議や個別のカンファレンス等による情報共有や支援の連携が必要であり、その際には本人の同意やプライバシー保護に十分留意することが重要である。

また、受診支援や救急搬送の際には家族への連絡が必要となるが、家族からの支援を受けることが難しい学生もあり、支援体制の検討が必要である。

心身の健康問題が学業に及ぼす影響は大きく、特に科目試験や課題提出が重なる時期や実習期間などには食事の乱れや睡眠不足から体調を崩す傾向がみられる。激しい月経痛などから失神する事例もあるため、学生が日頃からセルフケアできるよう指導していく必要がある。

令和3年度はこれに加え、新型コロナウイルス感染症対策のためのオンライン授業の影響と思われる心の不調を訴える学生がみられた。元の授業形態にはすぐには戻らないと思われるので、しばらくは、学生の心の不調への対応が重要となる。

第4節 修学資金等

1 資金の種類

事務局で取り扱っている奨学金は「日本学生支援機構奨学金」、「長野県看護職員修学資金」、「上伊那広域連合看護師等修学資金」の3種である。本学独自の奨学金はない。

(1) 日本学生支援機構奨学金

大学全体の貸与率は34.2%、学部生では37.9%で3分の1を超える学生が利用している。大学院生の貸与者はいない。

(2) 長野県看護職員修学資金

大学全体の貸与率は2.1%と低い。これは、本資金の貸与対象者を「免許取得後（若しくは大学院修士課程修了後）、直ちに県内の返還免除対象施設で就業する意思があること」としているためと考えられる。

<学部生>

・病床数200床未満の病院 ・精神病床を80%以上有する病院 ・過疎地域にある病院（県立木曾病院、飯山赤十字病院） ・診療所 ・介護老人施設 ・指定発達支援医療機関 ・重症心身障害児施設 ・母子健康センター（助産師に限る） ・地域保健法に規定する特定町村（保健師に限る） ・訪問看護ステーション（上記免除施設で3年以上の実務経験が必要）

<大学院生>

・医療法第1条の2第2項に規定する医療施設 ・母子健康センター ・地域保健法に規定する特定町村 ・訪問看護ステーション（医療施設で3年以上の実務経験が必要）

(3) 上伊那広域連合看護師等修学資金

上伊那広域連合が、地域医療再生基金を原資として平成23年度に創設した制度で、貸与対象者は、将来上伊那地域において看護職員の業務に従事しようとする者である。

地域を上伊那地域に限定していること、将来返還義務が生じない他の貸与制度との併用ができないことから、貸与率は低い。

なお、平成29年度から、養成施設等の最終学年在学学生への一回貸与支援へと制度改正がなされたが、貸与者はいない。

2 実績

各修学資金の貸与実績については、次のとおり。

奨学金・授業料減免の状況（令和3年度実績）

○日本学生支援機構奨学金貸与状況

種別 \ 学年	学部生					大学院生		合計
	4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程	
給付	11	7	11	5	34			34
第一種	15	17	18	12	62	0	0	62
第二種	14	9	11	15	49	0	0	49
延べ計(A)	40	33	40	32	145	0	0	145
併用(B)	4	6	4	3	17	0	0	17
計(C=A-B)	36	27	36	29	128	0	0	128
学生数(D)	87	84	82	85	338	21	15	374
貸与率(C/D)	41.4%	32.1%	43.9%	34.1%	37.9%	0.0%	0.0%	34.2%

○長野県看護職員修学資金貸与状況

種別 \ 学年	学部生					大学院生		合計
	4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程	
貸与者数(A)	1	2	3	2	8	0	0	8
学生数(B)	87	84	82	85	338	21	15	374
貸与率(A/B)	1.1%	2.4%	3.7%	2.4%	2.4%	0.0%	0.0%	2.1%

3 授業料の減免

(1) 概要

長野県看護大学条例では、令和2年度から開始された高等教育の修学支援制度の対象

者、その他経済的理由により授業料を納付することが困難な者、休学等の事情がある者に対して、授業料を減免することができることとしている。

また、希望する者について、年4回（4月、7月、9月、1月）に分納して授業料を納

付することができることとしている。

（2）経済的理由による減免の実績

○授業料の減免

種別	学部生					大学院生		合計
	4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程	
高等教育の修学支援制度対象者	11	7	11	5	34			34
その他	1	0	0	1	2			2
計	12	7	11	6	36			36

第5節 サークル活動及び大学祭

1 サークル活動

正課の授業以外に行う課外活動を行うサークルは、令和3年度は23団体であった。

サークル活動は学生の自主性を尊重しつつ、サークル顧問として教職員が関わりサークル活動の相談・支援を行っている。

令和3年度 団体・サークル等一覧表

団体・サークルの名称	代表責任者	副代表責任者	顧問	人数
軽音楽サークル	小澤 美祐	山本 実生	御子柴 裕子	23
茶道サークル	遠山 桃佳	福澤 希	有賀 美恵子	9
ほがらか農園サークル	前田 綾乃	濱田 優子	細田 江美	27
わらわらサークル	野口 晏加	池島 未涼	座馬 耕一郎	29
美術・文芸サークル	堀井 眞柚子	田代 洸	御子柴 裕子	9
アカペラサークル	高津 伶実	福澤 希	千葉 真弓	6
よさこいサークル鼓魂	松下 琴美	山田 阜平	近藤 恵子	38
弓道サークル	赤羽 菜織	島田 ひなの	座馬 耕一郎	6
バスケットボールサークル	上條 夢來	伊藤 晶子	曾根 千賀子	28
バドミントンサークル	下田 愛海	伊藤 愛莉	小口 翔平	83
バレーボールサークル	町田 亜未	村越 綾	酒井 久美子	34

スノーボードサークル	篠崎 和樹	岸和田 直人	有賀 智也	56
室内管弦楽サークル	中村 陽香	仲二見 れい	千葉 真弓	10
卓球サークル	山崎 彩花	杉山 紗和菜	喬 炎	18
フットサルサークル	山崎 心汰	清野 遥菜	三浦 大志	59
Skip サークル	宮尾 瑛葉	高津 伶実	屋良 朝彦	39
アンサンブルサークル	吉田 萌恵	仲二見 れい	上條 こずえ	15
いなん 100 km徒歩の旅サークル	森川 夢乃	鈴木 望友	座馬 耕一郎	15
思春期ピアカウンセリング サークル	原子 夢叶	橘 咲希	河内 浩美	33
ビブリオサークル	仲宗根 瑠香	赤羽 菜織	白井 史	8
A S T E R I S Mサークル	溝口 佳歩	春日 実莉	三浦 大志	15
ボウリングサークル	篠崎 和樹	松本 真通	浦野 理香	17
まちづくりサークル	那須 采奈	植村 夏帆	望月 経子	16

2 長野県看護大学大学祭（名称「鈴風祭」：すずかぜさい）

毎年9月上旬～中旬に2日間の日程で開催している。運営は1・2年生が中心となり、鈴風祭実行委員会を組織し、準備・運営にあたる。令和3年度は9月4日(土)、5日(日)に予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。

第6節 関係団体の活動

1. 大学生協

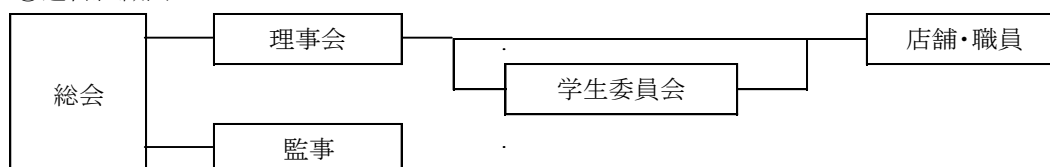
1 概要

(1) 組織

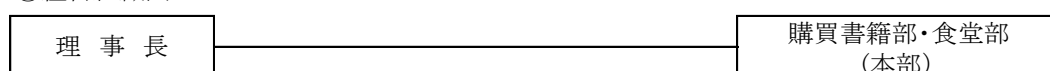
総会で選任された理事を構成員とする理事会の基に、生活協同組合活動を応援する学生からなる学生委員会と教職員及び店舗職員が共同して、各種の学生生活を応援する活動を行っている。また、生協活動および決算等について監査を行う監事についても、総会で選任され、財務等の監査を行っている。

経営は、大学生協東京ブロックの会員サポート担当や、信州大学生協との業務委託契約を伴うサポートを得て本学生協運営委員会で協議され、必要に応じて理事会での審議や承認を得ながら、理事長の指示の元に購買書籍部及び食堂部の職員が日々の業務を行っている。

①運営組織図



②経営組織図



(2) 業務

看護大学生生活協同組合は、平成10年1月21日に前身の看護大学福利組合から業務を引き継いで運営が開始され、今日に至っている。

その目的は、看護大教職員、学生等の組合員の生活の文化的、経済的な改善向上を目指し、活動に取り組んでいる。

2 活動実績

(1) 主な日常の業務

大学生協パート職員により、以下の業務を行った。

- ① 食堂部：昼食及び臨時の夜の飲食を提供した。
- ② 購買書籍部：書籍、文具、生活用品及び保管食品を販売した。

(2) 総会・理事会等開催

大学生協の理事及び理事等役員(理事：13名、監事：5名)による理事会等を以下のとおり開催した。

項目	開催日	主な議題
第一回理事会 (総会)	令和3年5月25日	理事長、専務理事の互選について 代表理事の選出
第二回理事会	令和3年7月14日	3～6月経営状況及び活動報告 借入金限度額設定について 夏期営業日程について 理事会議事録 押印代行方式の採用について
第三回理事会	令和3年9月15日	3～8月経営状況及び活動報告 長野県最低賃金の改定について 東京地区経営状況・学生実態調査について
第四回理事会	令和3年11月24日	3～10月経営状況及び活動報告 個人情報保護法改正に伴う個人情報保護方針および規則変更の件について 法定脱退手続きに関する規則について 年末年始及び年度末の営業日程
第五回理事会	令和4年2月16日	3～1月経営状況 信州大学生生活協同組合との業務委託契約 更新について 2022年度予算確認、生協総会日程の承認 (日程・選挙管理委員指名・開催公示と期間・役員立候補受付及び締切日の提案ほか)
第六回理事会	令和4年4月22日	2022年3月経営状況報告の確認 2021年度決算及び活動報告 第24回総会議案及び運営について

※ 看護大学生協の会計年度は3月から翌年2月まで、役員は5月の総会後から、翌年の総会までとなっている。

(3) 学生委員会による取組

看護大学の学生により、生協の活動をPRするとともに、学生の生活を支援するため、学生委員会を組織し以下の活動を行った。

月	主な活動内容
5月	生協総会の運営と補助
6～10月	七夕企画計画(装飾)、「Nsの☆」制作
7～10月	食堂装飾(笹)七夕企画実行、「Nsの☆」完成・発行、ケーキバイキング

12月	クリスマスツリーの装飾 クリスマス会（ケーキバイキング）計画・実施
2022年 3～4月	新1年生に向けた学生委員会に関するチラシの作成・配布（生協資料に同封） 引っ越しお助け隊
5月	生協総会の運営と補助

（4）その他の成果

労働生産性の向上、ロス率の低い商品管理など業務の効率化などを進めたものの、コロナ禍の影響で、前年度に引き続き供給高は6%減少した（前年度比）。また、店舗・食堂の利用者数も著しく減少しままであった。ただし、多くの他の大学生協の供給高が2019年度（コロナ禍前）に比較して30%～60%といった大きな減少であったのに対して、本学生協では6%の減少のみであった。2022年度もコロナ禍で経営状況が懸念されるものの、この状況ならば会員へのサービスを取りやめることなく経営を継続できることを可能とした。店長を雇用できない不良な経営状態は慢性的であるものの、姑息的な意味ではコロナ禍が始まった2020年度と同様に大きな成果を得たと言える。

3 課題及び方策

（1）喫緊の課題

コロナ禍での経営を本年度に引き続きどのように行っていくのが最重要な課題である。組合員から概ね支持された食堂運営や購買部の活動がなしているものの、パート職員の入れ替わりが昨年度に引き続き頻繁になっている。この為、継続性や引継ぎが課題となっている。また、パート職員のモチベーションの向上を図り、より働きやすい職場（体制）づくりは成長しつつあるものの、依然として急がれる課題が多々ある。

（2）長期的な課題

正規職員の不在による不安定な運営が持続している。

2007年に正規職員（店長）の退職後、パート職員のみで現場が運営されている。中でも、歪を理解しないまま「黒字経営状態で健全運営ができている」との認識が広がっているのは、最も大きな問題の1つである。実態は、店長を雇用する余力がない状態であることが、組合員や大学に理解されていない。この結果、理事長職をはじめ相当な負担がないと経営の展開が困難であることも同じく理解されていない。大学の運営に生協のシステムが必要ならば、理事を様々な教職員に経験させるなど、経営の根幹的な問題に直面する機会を増やすとともに、教職員、学生にこの状態を周知し取り組んでいく必要がある。

2. 後援会

1 概要

長野県看護大学の運営に協力援助を行い、もって教育研究の発展に寄与するとともに、学生が豊かで充実した学生生活を送れるよう福利厚生事業等を行うことを目的として、平成7年4月8日に発足したものである。

組織は、総会並びに会員から選出された理事及び監事からなる役員会があり、業務・立案は、理事から選ばれる会長及び副会長と理事により行われている。事務局は、会則に基づき、看護大学事務局総務課に置き、看護大学事務局次長が事務局長として庶務会計の事務を行っている。

主な業務

- ・学生の課外活動に対する援助
- ・学生の生活指導・厚生等に対する援助
- ・大学の運営・教育設備の設備充実等に対する協力 等

2 活動実績

(1) 主な業務

- 1) 学生自治会への補助（サークルの活動に係る費用を補助）
- 2) サークルへの補助（地域貢献的な活動・大学の PR につながる活動の経費を補助）
- 3) 第 24 号後援会だよりの発行、後援会アンケートの実施、新入生入学式昼食代負担、役員会等の開催
- 4) 上穂町区費、町内会費の支出
- 5) 卒業記念品、卒業生への記念品購入
- 6) 国家試験対策ガイダンスの経費負担、進路指導書・問題集等購入
- 7) B型肝炎・インフルエンザワクチン予防接種に係る経費、学生ホールテーブルスクリーン設置

(2) 総会・役員会等開催

項目	開催日	主な議題
総会 (書面)	令和 3 年 4 月 2 日 発送	令和 2 年度事業報告・収支決算報告について 予備費使用の承認を求めることについて 令和 3 年度事業計画・収支予算について 令和 3 年度役員を選任について
第 1 回役員会 (オンライン)	令和 3 年 5 月 13 日	令和 3 年度総会（書面）の結果について 令和 3 年度会長・副会長の互選について 令和 2 年度卒業生・修了生の進路状況及び国家試験結果等について 令和 3 年度後援会行事予定について
第 2 回役員会 (オンライン)	令和 3 年 10 月 7 日	令和 3 年度事業中間報告等について 令和 3 年度後援会アンケート実施結果について 令和 4 年度役員体制について 実習交通費・学生自治会費補助について
会計監査	令和 4 年 3 月 22 日	令和 3 年度後援会会計・後援会特別会計・実習交通費会計・みらい基金会計監査
第 3 回役員会 (オンライン)	令和 4 年 3 月 28 日	令和 3 年度事業報告・収支決算報告について 令和 4 年度役員の確認と新役員の依頼について 令和 3 年度卒業生・修了生の進路内定状況について 令和 3 年度実習交通費会計の状況について 令和 4 年度総会について 来年度の日程について

3 課題及び方策

後援会の事業内容等について、必要性や有効性の観点から、随時、検討・見直しを図っていく。

3. 同窓会

1 概要

同窓会「鈴風会」は平成 15 年、長野県看護大学創立 10 周年を機に設立された。会の名

称は、母校の学園祭「鈴風祭」と同様に、駒ヶ根市を象徴する「すずらん」と「風」をイメージして付けられている。

鈴風会は、会員相互の親睦を図り、併せて母校と看護学の発展に寄与することを目的として活動しており、その目標は、母校と会員（卒業生・修了生）とをつなぐ架け橋となることである。主な事業は、以下のとおりである。

- (1) 会員名簿の作成及び会報の発行
- (2) 総会、講演会、研修会等の開催
- (3) 母校の後援及び相互の連携に関する事項

会員は、会員（卒業生・修了生等）、準会員（在学中の学生）に分けられる。最高議決機関として総会があり、ここで鈴風会の活動に関する決定がなされる。実務機関として執行部会があり、会長・副会長・会計・庶務の各役員で運営されている。

2 活動実績

(1) 令和3年度基本方針

- ・会員同士のネットワーク強化
- ・同窓会活動の充実

【活動内容】

<会員同士のネットワーク強化に関すること>

- ホームページの活用及び会員の参加しやすい活動方法の検討
会員からの意見を参考に、Google Forms の導入をはじめ、ホームページの大幅な修正を行った。会員宛の郵送物に QR コードを掲載してホームページへのアクセスの簡便化を図り、連絡先不明者対策を行った。
- 学園祭での同窓会活動の発信
例年、学園祭パンフレットへの広告の提出や同窓会ブースの出店を行っていたが、鈴風祭の中止に伴い活動が行えなかった。

<同窓会活動の充実に関すること>

- 入会者増加のための検討
未入会者が増加しているため、SNS 等を利用し入会促進を行った。
- 今後の活動方法の検討
ホームページを活用して同窓会に関する意見を募集し、検討を行った。
- 母校との連携
附属図書館へ 48 冊（約 20 万円）の図書の寄贈や、退職者への記念品贈呈を行った。前学長と意見交換を行い、今後も大学との連携を密にしていく方針である。

(2) 令和2年度活動日程

活動	開催日	主 な 議 題 等
第1回 執行部会	令和3年 4月1日	・同窓会への意見への回答について ・ホームページの修正について ・会計規定について ・北山学長からの提案について
第2回 執行部会	5月29日	・自己点検報告書について ・オンラインでの交流企画について

第3回 執行部会	11月10日	・卒業記念品について
第4回 執行部会	12月15日	・大学への貢献事業として図書館へ図書(48冊20万円相当)を寄贈
第5回 執行部会	令和4年 1月26日	・総会について ・卒業記念品の準備について ・未入会者について
第6回 執行部会	3月29日	・総会案内ハガキ郵送後の住所不明者について ・物品保管場所について ・一斉メールの登録変更 ・第20回定例総会第1～5号議案の決議について ・保管書類のデータへの移行について ・新旧役員顔合わせ

※ 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、第1～第3回、第6回は執行部会をメールやオンラインで行った。第4～第5回は感染警戒レベルの引き下げに伴い、県及び大学の基準に従い感染対策を行った上で開催した。

3 課題及び方策

鈴風会設立以来、新入会員の会費徴収は大学にご協力いただいていたが、平成28年度より徴収方法が変更となったことから、入会者及び会費収入が以前と比べ、約4割以上低下と大幅に減少している。そのため、活動の拡大は困難であるが、入会促進を図るとともに、会員・準会員にとって有意義な活動となるよう検討を進める必要がある。令和4年度の活動方針は以下のとおりである。

(1) 会員同士のネットワーク強化

- ・ホームページによる情報発信を継続し、同窓会活動に参加する会員の増加を図る。

(2) 同窓会活動の充実

- ・同窓会の活動継続に向け入会者の増加を図るため、新入生や在学生への入会案内方法や会費徴収方法についてさらに検討を進める。
- ・鈴風祭に合わせ卒業生からのメッセージ展示など、会員が参加できるとともに、在学生への同窓会のPRとなる活動を検討し、実施する。
- ・中止となった同窓会パーティーの代替案を検討・実施する。
- ・母校の発展に寄与できるよう、本会に対する要請にも対応していく。

第7章 施設の管理運営等

第1節 施設の状況

1 施設の全体概要

(1) 校地

本学の校地面積は、75,733 m²と学生数の割に広大であり、東に南アルプス、西に中央アルプスを望む恵まれた自然環境の中で、古代ギリシャ都市の「アゴラ」に倣って設けた中央広場を中心に、その周りに図書館・教育研究棟・講堂・学生食堂・管理棟を配置している。また、道路を挟んで屋内プール棟・有酸素運動研究コース・語らいの並木が併設されている。

校舎敷地	運動場用地	寄宿舍用地	プール他用地	計
36,951.00 m ²	15,948.00 m ²	5,760.00 m ²	17,074.00 m ²	75,733.00 m ²

(2) 施設・設備 ※利用状況等は平時の内容

1) 管理棟 (2,242.13 m²)

学長室、事務室、会議室、応接室、保健室、食堂、売店が配置されている。

食堂については、カフェテリア方式で185席の利用が可能となっており、また、売店が併設され、パン・おにぎりなどの食品や文具等を販売している。両部門とも、長野県看護大学生活協同組合が組織され、経営を行っている。

2) 教育研究棟 (9,079.39 m²)

講義室、演習室、実験室、自習室、情報処理教室(パソコン53台)、LL教室(機器50台)、研究室、大学院生研究室3室等を配置している。

講義室が大・中・小合わせて8室、実習室が「基礎」「成人」「母性・小児」「地域・老年」など看護領域ごとに6室、その他実験室、自習室などを完備している。

なお、大・中講義室を中継・共有する遠隔講義システム、インターネットによる講義配信により、分散・リモート形式での授業を大学内、自宅での受講を可能としている。

3) 講堂 (962.43 m²)

503席を配置し、AV設備、音響設備等を備えたもので、ピアノも設置している。

利用は、入学式や卒業式その他、公開講座とともに、学生の音楽系サークル活動(練習、ライブ、コンサート等)にも利用されている。

4) 図書館 (1,200.62 m²)

閲覧室80席、教員学習室、グループ学習室、AVルームを設置している。

開館時間は平日、9時～19時。実習期間中は、平日は21時まで、土曜日は10時～16時まで利用可能としている。

5) 体育館 (893.68 m²)

木材を多用した造りで、バスケットボール1面、バレーボール2面がとれる。

学生は、授業の他にサークル活動や個人利用も申し出により常時利用可能としている。

6) 学生棟 (802.21 m²)

学生ホール、自治会室、クラブ室等を配置し、自治会活動や学生のサークル活動に利用している。

7) 屋内プール棟 (1,131.64 m²)

通年で利用可能な6コース(25m)の温水プールを設置し、そのうち1コースがスロープコースとなっている。また、筋力トレーニング機器を備えた健康増進研究室(ジム)と講義・測定室が併設されている。

学生は常時これらの設備を使用できるほか、温水プールについては、本学主催の高齢者水中運動教室等教育研究活動の一環としても活用されている。

また、長野県障がい者福祉センターの南信地域における拠点である障がい者スポーツ支援センター駒ヶ根として障害者に開放しているほか、地元駒ヶ根市の健康教室、消防署の救助訓練等にも利用されている。

8) グラウンド・テニスコート (15,948.00 m²)

250mトラックが設置可能なグラウンドと、夜間照明を備えた全天候型テニスコートが4面併設されている。

学生は常時利用できるほか、休日にはグラウンド・テニスコートを地域のスポーツ少年団等を中心に開放している。

9) 有酸素運動研究コース (12,505.00 m² [隣接の「語らいの並木」を含む])

コース延長600mの歩経路のほか、地域住民と学生が協働して植付け・管理を行う「ふれあい花壇」、「ほがらか農園」を設置している。

また、大学正面へ続く学園通りを囲んでケヤキ並木の語らいの並木を整備している。

10) 寄宿舍 (2,504.44 m²)

2棟79室(1DK)に学部1年生が入居しており、2年以降は地元のアパートを借りている。

11) 非常講師勤宿舍 (328.00 m²)

全国各地から非常勤講師を招聘できるよう、1棟8室の宿泊施設を整備している。また、研究のために帰宅が遅くなる大学院生の宿舍としても活用している。

○施設規模一覧

教育研究棟	管理棟	学生棟	図書館	
9,079.39 m ²	2,242.13 m ²	802,21 m ²	1,200.62 m ²	
体育館	講堂	寄宿舍	非常勤講師宿舍	合計
893.68 m ²	962.43 m ²	2,504.44 m ²	328.00 m ²	18,012.90 m ²

○教育研究棟

教 員 研 究 室	個人研究室	45室
	共同研究室	5室
講 義 室	大講義室	1室
	中講義室	4室
	小講義室	3室
	認定看護師教育課程講義室	2室
演 習 室	演習室	4室
実 験 ・ 実 習 室 等	生化学実験室	1室
	微生物・病理実験室	1室
	基礎看護実習室	1室
	母性・小児看護実習室	1室
	成人看護実習室	1室
	地域・老年看護実習室	1室
	在宅看護実習室	1室
	助産実習室	1室
情 報 処 理 学 教 室	情報処理教室	1室
語 学 学 習 室	LL教室	1室

(3) 設備機器

○情報処理機器等

学内LANは、管理棟、教育研究棟、図書館、非常勤講師宿舍、寄宿舍の全域に配置し、利便性を保つと同時に、教職員使用領域と学生の使用する領域を分離、高度な機密情報の保持を徹底している。

教育研究棟内の情報処理教室にパソコン 53 台を設置し、授業以外の時間は学生に開放し、随時使用できる体制となっている。

LL 教室には、LL 学習システムがインストールされた教員用パソコン及び学生用パソコン 50 台（いずれもヘッドセット付き）を設置し、語学学習等に活用している。

(4) 課題及び方策

開学から 27 年が経過し、突発的な修繕を必要とする箇所が急増している。

設備の修繕や更新には多大な費用がかかるため、緊急性等を勘案しながら優先順位を付けて、改修計画を策定するとともに、予算の確保に努め、修繕、更新を行っていく必要がある。

また、今後も学内の植栽等を常時整備して、教育研究を行うにふさわしい緑豊かな環境を維持しつつ、一層地域住民から愛され、誇りとされるような大学となるよう努めていく。

2 図書館

(1) 概要

図書館の利用状況

付属図書館は、在学生（学部生・院生）、教員の学習・研究に資するため、図書、雑誌、電子資料などの学術情報の収集、提供を行っている。

1) 図書館施設・設備

閲覧スペースである開架と、閉架書庫に図書・雑誌がそれぞれ配架されている。閉架書庫は新型コロナウイルス感染対策のため、立ち入りは職員のみとし、必要な資料を出してきている。

閲覧席は、個人閲覧席の利用が多い。4人掛けの閲覧席は新型コロナウイルス感染防止のため、中央にアクリル板を設置し2人での使用に制限している。

退館バーの外にソファを設置し、飲食可能スペースとした。

グループ学習室は、新型コロナウイルス感染防止のため、原則的に利用を中止している。視聴覚教材の視聴の場合に1人で利用している。

データベース検索用の端末は3台だが、新型コロナウイルス感染防止のため、1台の利用を中止し、2台の利用としている。

蔵書の収容可能冊数は10万冊、現在の蔵書は74,013冊である。

表 館内面積および設備

総面積 1,200 m ²							
閲覧スペース	688 m ²	書庫	131 m ²	事務室	57 m ²	その他	325 m ²
閲覧席 80 席（内個人閲覧席 12 席）/教員学習室 3 室/グループ学習室/AV ルーム（個人ブース 10 席）/館内検索用端末 2 台/データベース検索端末 3 台/コイン式複写機 1 台							

2) 図書館資料

① 図書

図書は看護学の新刊を中心にシラバスの内容に即したものの、教員・在学生（学部生・院生）からの購入希望、その他関連領域の必要と思われるものを図書館司書が選定し購入している。実習に必要な図書は、利用状況をみながら複本も整備している。

また、国家試験や、就職試験に対応するコーナーを設けるなど学生の資料要求に応えられるよう取り組んでいる。

表 図書館蔵書数の推移

年度	和図書	洋図書	合計
2017 年度末	67,750	7,439	75,189
2018 年度末	68,802	7,491	76,293
2019 年度末	64,370	6,835	71,205
2020 年度末	66,179	6,898	73,076
2021 年度末	67,018	6,995	74,013

表 蔵書における分野別の割合

年度	看護学		医学		その他一般書		合計 冊数
	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合	
2021 年度末	16,927	22.9%	22,043	29.8%	35,043	47.3%	74,013

② 雑誌・新聞

最新の研究成果や分野における動向を知るために雑誌は欠かせない資料であるが、雑誌高騰から洋雑誌については無料ダウンロードや記事複写依頼で対応することで大幅に減らした。

表 受入雑誌タイトル数の推移

年度	和雑誌 (種類)		洋雑誌 (種類)		合計
	購入	寄贈	購入	寄贈	
2017 年度	80	183	8	0	271
2018 年度	77	194	7	2	280
2019 年度	77	85	7	0	169
2020 年度	77	109	6	6	198
2021 年度	77	122	4	0	203

2021 年度契約電子ジャーナル 和雑誌：メディカルオンライン

洋雑誌：CINAHL With Full text

現在購読している新聞は、全国紙4紙・地方紙3紙である。過去3年分を保存している。

③ 視聴覚資料

表 視聴覚資料数の推移

年度	DVD	VHS	CD	その他	合計
2017 年度	488	1,839	125	66	2,518
2018 年度	487	1,842	125	66	2,520
2019 年度	483	1,895	120	56	2,554
2020 年度	488	1,892	125	57	2,562
2021 年度	497	1,892	126	57	2,572

④ 文献検索データベース

文献検索のデータベースは「医中誌 Web」「看護索引 Web」「MEDLINE」「CINAHL with Full Text」が利用できる。

検索結果から該当雑誌の当館の所蔵が確認できる OPAC リンクを貼り利便性を高めている。「医中誌 Web」はリモートアクセスが可能であり、それ以外は学内 LAN 接続のパソコンであればどこからでも利用できる。

3) 利用状況

① 開館時間・日数

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2021年5月22日から6月6日、8月24日から9月12日、2022年1月21日から3月31日まで閉館した。

休館中はメールで図書を予約し、入り口で図書を渡す方法で貸出を行った。また、学生・院生の状況によっては郵送の貸出も行った。

平日の開館時間は、9時から19時まで、長期休業中は17時までであり、土日祝日は休館である。但し、実習期間である5月から12月については、平日は9時から21時、土曜日は10時から16時まで開館している。

利用対象者は、学生、院生、教職員、学外者である。

2021年度は、閉館やオンライン授業の影響で入館者数は減少している。また、貸出数も減少している。

表 開館日数及び入館者数

年度	平日開館日数	土曜開館日数	開館日数合計	入館者数	1日平均
2017年度	235	23	258	37,532	145.5
2018年度	232	20	252	35,181	139.6
2019年度	231	20	251	33,627	134.0
2020年度	212	4	216	15,556	72.0
2021年度	171	20	191	15,090	79.0

表 貸出条件

	学生	院生	教員	学外者
貸出期間	2週間			
貸出冊数	10	15	15	5

表 貸出冊数の推移

貸出冊数	学生/院生	教職員	合計
2017年度	13,748	2,585	16,333
2018年度	11,602	2,104	13,706
2019年度	11,533	1,954	13,487
2020年度	9,600	1,550	11,150
2021年度	8,989	952	9,941

4) 外部開放

① 概要

2004年度より、18歳以上の一般の人を対象に図書館を開放している。利用時間は、9時から授業日は19時まで、休業日は17時までとなっており、貸出冊数は5冊、貸出期限は2週間となる。初めて来館した際に身分証明書を提示してもらい、利用証を発行する。2回目以降は、入館の際に利用証提示を求めている。

2021年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2021年5月22日から6月6日、8月24日から9月12日、2022年1月21日から3月31日まで学外者の入館を休止した。また、従来は貸出・複写のほか、文献検索データベースの利用も提供していたが、貸出・複写のみの利用とした。入館休止中はメールで図書を予約し、入り口で図書を渡す方法で貸出を行った。

② 利用状況

入館者数、貸出数ともに大幅な減少となった。

表 学外者の入館者数および貸出冊数の推移

区 分 年 度	学外入館者数（概数）				貸出冊数
	医療関係者	他学学生	その他	合計	
2017年度	802	132	167	1,101	2,232
2018年度	698	145	130	973	1,956
2019年度	650	84	261	995	1,524
2020年度	312	15	29	356	929
2021年度	162	7	26	195	567

(2) 成果及び課題

資料費は年々削減されているが、貸出、閲覧、複写などの状況から雑誌や図書の利用動向を把握し、資料選定に反映させている。今後も学部生・院生や教員からの購入希望も取り入れ学習・研究に必要な資料要求を満たせる蔵書構築を行っていく。

雑誌については、現在増加しているインターネットで公開されているデジタル化された学術資料へのアクセスを利用者に分かりやすく提示するなど、利用可能な資料を最大限利用できるような工夫に努める。

「医中誌 Web」について、リモートアクセス可能な契約として、休館中でも利用できるように対応した。

新型コロナウイルス感染防止のための換気の必要性から、前年に続いて東側の窓1か所を開閉式に変更した。従来東側は非常口がなく、防災面でも効果がある。

入館者数、貸出数は減少傾向である。課題、実習との連携、コーナーの設置、利用者に分かりやすい配架、資料の紹介、カウンター対応の向上、図書館利用の広報など資料活用向上のため努める。

開学して25年以上経過し、修繕や更新を必要とする箇所が増えることが予想される。

優先順位を付けて、改修計画を策定するとともに、予算の確保に努め、修繕、更新を行っていく必要がある。

開学して25年以上経過し、資料的価値が低くなった図書が増加したことと、研究室から移管される図書が増加したことにより、書庫の狭隘化が進んでいる。今後は除籍など、配架場所確保のための方策をとる必要がある。

以上、今後も、学生・教員の資料要求に応えられる蔵書の構築、資料活用のサポート、設備の充実に努め、学習・研究支援の場としての機能を高めていく。

第2節 財政の状況

1 概要

(1) 予算、決算

本学の予算編成は県全体としての予算編成の中に組み込まれており、県の財政担当課から示される予算編成方針等に基づき予算を編成している。したがって大学独自に財政計画を策定する状況にはなく、県全体の緊縮財政の流れの中で、厳しい財政運営を強いられている。

予算執行は、県の条例、規則に基づき事務処理を行い、会計局会計センターによる検査・指導や県監査委員事務局による監査を受けながら、適正な予算執行に努めている。

(2) 外部資金の獲得

県全体の緊縮財政の流れの中で、教育を支える研究活動を積極的に行うため、外部競

争資金の獲得を図っている。

2 実績

(1) 予算、決算の状況（令和3年度）

歳入は、大学の自主財源である学生納付金（授業料など）が約3割、県の一般財源等が約7割を占めている。県立大学として、教育研究活動を安定的に遂行するために必要な財政基盤を確立している。

歳出は、教職員及び非常勤講師等の人件費が約8割、大学の管理運営に必要な物件費が約1割、教育研究に必要な物件費が約1割となっている。

(歳入)

財源、歳入科目等			予算額（円）	決算額（円）	構成比
特定財源	使用料	授業料	174,175,000	175,632,950	19.8%
		寄宿料	5,451,000	4,832,100	0.5%
		行政財産使用料	36,000	34,710	0.0%
	手数料	入学料	24,939,000	26,028,600	2.9%
		入学審査料	5,298,000	9,692,000	1.1%
		証明事務手数料	38,000	52,000	0.0%
	財産収入		296,000	280,684	0.0%
	諸収入		968,000	1,056,327	0.1%
	計		211,201,000	217,609,371	24.6%
	基金繰入金		328,000	328,000	0.0%
計		211,529,000	217,937,371	24.6%	
県債			0	0	0.0%
国庫負担金			0	2,240,000	0.3%
一般財源			691,769,604	665,353,105	75.1%
合計			903,298,604	885,530,476	100.0%

(歳出)

歳出科目等	予算額（円）	決算額（円）	構成比
報酬	11,352,000	11,352,000	1.3%
給料	344,093,000	344,091,600	38.9%
職員手当	182,557,000	181,717,510	20.5%
退職金	93,209,952	93,209,952	10.5%
共済費	107,124,740	106,830,829	12.1%
報償費	9,951,972	5,832,917	0.7%
旅費	11,645,786	3,480,020	0.4%
交際費	43,000	0	0.0%
需用費	66,593,421	65,502,213	7.4%

役務費	8,963,000	7,358,709	0.8%
委託料	32,236,715	32,116,685	3.6%
使用料及び賃貸料	25,234,650	25,023,941	2.8%
備品購入費	3,940,456	3,895,199	0.4%
負担金、補助及び交付金	3,277,912	3,267,725	0.4%
補償、補填及び賠償金	301,000	299,376	0.0%
償還金	2,632,000	1,410,000	0.2%
公課費	142,000	141,800	0.0%
合計	903,298,604	885,530,476	100.0%

3 課題及び方策

- (1) 県予算全体の緊縮傾向が続く中、固定的経費である人件費の割合が高まっているため、物件費の効率的な予算執行が求められている。限られた予算を有効に活用するためには、物品購入等にあたり積極的に競争原理を導入する必要がある。
- (2) 看護の発展に寄与する優秀な人材を確保・育成するとともに、安定的な財源を確保するために、学部生及び大学院生の積極的な募集を行う必要がある。
- (3) 施設、設備の適切な維持管理を行うことは、安全・安心な大学生活を送るために欠かせないが、十分な予算が確保できていない。計画的な修繕・改修を行うため粘り強く予算の確保に努める必要がある。
- (4) 教育を支える研究活動を積極的に行うため、更なる外部資金を獲得していく必要がある。

第8章 自己点検・評価総括

令和3年度の自己点検・評価は、平成30(2018)年度に受審した大学基準協会による第3回認証評価の結果評価への改善報告書作成と並行して実施した。令和2年から続いている新型コロナウイルス感染症による社会変化は、本学の運営にも大きな影響があった。感染予防や行動制限の中、教育研究や社会貢献について創意工夫してきたが、With コロナ/After コロナを見据えて、第3期中期構想そのものを見直す時期に来ている。

本総括では、大学の4つの機能である、教育活動・研究活動・社会地域貢献活動・大学運営について要点のみ記す。

1 教育活動について

1) 学部教育

教務委員会を中心に、令和4年度から開始する新カリキュラムの準備をおこなった。大学基準協会による指摘事項に従い、新たにカリキュラムマップやカリキュラムツリーを作成し、系統的な教育カリキュラムを視覚化した。

新カリキュラムでは、アカデミック・リテラシーを新設し、初年次教育を強化した。学部2年生の必修科目に「里山看護概論」1単位15時間が、選択科目で「里山看護演習」1単位30時間が新設された。次年度(令和5年度)に開講予定である。

コロナ禍で海外渡航制限があり、国際看護学の実習は現地に行くことができなかった。しかし、JICAや他大学とも連携協働し、ネパールとZOOMを使った実習を行い、国際交流の方法および実習方法を見出すことができた。

コロナ禍で本学の授業は対面授業とオンライン授業を併用して行った。看護教育は大きな転換点を迎えており、文科省は看護DX教育の導入に大きく舵を切った。本学でも本学の教育目標を踏まえて、新たな教育方法を探索する時期に来ている。

2) 大学院教育

令和4年4月に博士前期課程に開講する「がん看護専門看護師コース」の準備を行った。日本看護系大学協議会から「がん看護専門看護師教育課程」の承認を得ることができ、大学院入試で3名の合格者を得ることができた。

3) 看護実践国際研究センターにおけるリカレント教育

新型コロナウイルス感染症対策として、長野県から依頼があり、「感染管理認定看護師教育課程(B課程)」の開講準備に取り組んだ。日本看護協会および関東信越厚生局から認可を受けることができ、25名の合格者を得ることができた。令和4年6月開講予定である。

2 研究活動について

日本学術振興会の科学研究費助成金について、令和3年度の新規採択は5件であり、講師・助教・助手の5名が採択された。継続も含めると本学の科研による研究は15件であった。本学の特別研究費で行った研究は4件である。外部資金獲得のための情報提供や申請書の書き方指導、紀要への投稿促進、分野内での集団研究や分野横断の学内研修などによる若手研究者育成が課題である。

コロナ禍のため、国内外の学術集会や各種研修は現地開催ができず、オンライン開催になったものが多かったので、むしろ参加しやすい状況もあった。また、コロナ禍のため海外研修などは行われなかった。

3 社会・地域貢献活動

看護実践国際研究センターの看護地域貢献活動研究部門で従来から取り組まれている活動については、コロナ禍の行動制限の中、計画通りの実施ができないものが多かった。実習施設とのユニフィケーション事業では、研究に関する研修会を実施した。出前講座については、外部から依頼をうけ5件を実施した。

4 大学運営

1) 規定等の整備

大学基準協会の指摘事項に基づき、大学の運営組織の見直しを行い、各種規定改正を行い、学長を中心とした教学マネジメント、内部質保証が実施できる運営体制を整えた。

2) 役員選挙

学長選挙及び学部長、研究科長選挙を実施し、令和4年度からの新体制の準備が整った。

長野県看護大学 評価委員会

自己点検・評価報告書（令和3年度分）

2022年10月発行

編集 長野県看護大学 評価委員会

発行 長野県看護大学

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂 1694

TEL 0265-81-5100 FAX 0265-81-1256

E-mail kangodai-jimu@pref.nagano.lg.jp

印刷 (株)宮澤印刷



長野県看護大学